

平成 30 年度「履修の手引」正誤表

○ カリキュラム表（応用生物科学科）（56～57 ページ）

56 ページの 家畜人工授精師該当科目の「○」印 に誤りがあります。

- ・フィールド科学基礎実習Ⅲ （誤）○ →（正）空欄
- ・フィールド科学基礎実習Ⅳ （誤）○ →（正）空欄

授 業 科 目 名	配 当 年 次	単 位 数				開 講 時 期								資格及び免許			備 考
		必修	選必	選択	教職	1 年		2 年		3 年		4 年		教員免許 理科	家畜 農業	人工	
						前	後	前	後	前	後	前	後				
(農学部応用生物科学科) 《専門教育科目》																	
(専門基礎科目)																	
基礎数学	1			2		○											
物理学	1			2		○											
化学	1	2				○								☆			
生物学	1	2				○								☆			
(農学基礎科目)																	
作物生産学	1		2			○											3 科目 6 単位 選択必修
動物資源開発学	1		2				○							★	○		
生物化学	1		2				○										
土壌学	2		2					○									
食料流通経済学	2		2						○								
(専門科目)																	
植物生理学	1	2					○							☆			
熱帯農業論	1	2					○								★		
遺伝学	1	2					○							☆			
応用動物昆虫学	1	2					○								★		
生物統計学	1	2					○								★		
植物育種学	2	2						○							★		
植物病理学Ⅰ	2	2						○						☆			
線虫学	2			2				○						☆			
システム生態学	2			2				○						☆			
動物行動生態学	2			2				○						☆			
花卉園芸学	2			2				○							★		
フィールド科学基礎実習Ⅲ	2	1						○							★		
生物学実験	2	1						○						☆			
応用化学実験	2	1							○					☆			
熱帯作物改良学	2			2				○						☆			
果樹園芸学	2	2							○						★		
蔬菜園芸学	2	2							○					☆			
動物繁殖生理学	2			2					○					☆		○	
植物病原学	2			2					○					☆			
昆虫学	2			2					○					☆			
応用生物学実験	2	1							○					☆			
フィールド科学基礎実習Ⅳ	2			1					○						★		
農業政策論	2			2					○								
植物分子遺伝学	3			2						○				☆			
動物遺伝育種学	3			2						○				☆		○	
動物生体生理学	3			2						○				☆		○	
植物生態生理学	3			2						○							
植物栄養学	3			2						○							
動物生産管理学	3			2						○						○	
科学英語	3	2								○					★		
生物科学英語	3	2									○				★		

平成 30 年 度

(2 0 1 8)

履 修 の 手 引

佐 賀 大 学 農 学 部

緊急時連絡先

連絡先	電話番号
学生センター農学部教務係	(0952) 28-8717
農学部総務係事務室	(0952) 28-8713
保健管理センター事務室	(0952) 28-8181
警備員（第一守衛室）	(0952) 28-8193

相談等の連絡先

履修関係等 農学部教育委員：sodan-k@ml.cc.saga-u.ac.jp
学生生活関係等 農学部学生委員：sodan-g@ml.cc.saga-u.ac.jp

オフィスアワー

オフィスアワーについては、佐賀大学ホームページに掲載されますので、各自参照してください。

連絡方法については、3頁の各担当教員の学内内線番号の前に28を付けること。（学外からの場合。）

（オフィスアワー：学生からの授業に関する質問や意見を講義時間の他の時間に直接講師が受ける制度です。）

平成30年度 学年暦及び年間行事予定表

月	日	曜	学 年 暦	行 事
4	1	日	前学期始、春季休業（4月7日まで）	学友会及びサークル紹介（1日・2日） 新入学生健康診断（1日：男子）（教育、芸術地域デザイン、経済、理工、農） 新入学生健康診断（2日：女子）（教育、芸術地域デザイン、経済、理工、農） 新入学生健康診断（5日：男子・女子）（医学部）
	2	月		前学期授業時間割発表
	3	火	平成30年度入学式	学部オリエンテーション（医）（5日まで） 研究科オリエンテーション（学校教育学・地域デザイン・医学系・工学系）
	4	水	オリエンテーション	学部オリエンテーション（教育、芸術地域デザイン、経済、理工、農） 研究科オリエンテーション（農学）
	9	月	前学期開講日	
5				
6	23	土		全学統一英語能力テスト（TOEIC）
	30	土		全学統一英語能力テスト（TOEIC）予備日
7	24	火		前学期定期試験時間割発表
	31	火		前学期定期試験（8月6日まで）
8	8	水	夏季休業（9月30日まで）	
	10	金		オープンキャンパス（予定）
9	25	火	平成30年度学位記授与式＜9月期＞	後学期授業時間割発表
	30	日	前学期終	
10	1	月	開学記念日、後学期始、後学期開講	
	3	水	平成30年度大学院入学式 （工学系博士後期課程等）	
11	10	土		「大学入学共通テスト」プレテスト（11月11日まで）予定
12	22	土		全学統一英語能力テスト（TOEIC）
	26	水	冬季休業（1月6日まで）	
1	12	土		全学統一英語能力テスト（TOEIC）予備日
	19	土		平成31年度大学入試センター試験（1月20日まで）
	30	水		後学期定期試験時間割発表
2	6	水		後学期定期試験（2月13日まで）
	25	月		平成31年度個別学力検査（前期日程）入学試験（2月26日まで）予定
3	12	火		平成31年度個別学力検査（後期日程）入学試験（3月13日まで）予定
	26	火	平成30年度学位記授与式＜3月期＞	
	31	日	後学期終	

* 6月9日・16日、7月7日・14日・21日、11月17日・24日、12月8日・15日、1月26日は、補講日とする。ただし、土曜日の補講日は、授業曜日が重ならないよう補講曜日を指定する。（通常の授業日の6校時も利用することができる。）

** 7月25日・30日、8月7日、1月30日・31日、2月5日・14日は台風到来等対応の予備日

** 12月25日、1月29日は入試対応の予備日

注：予備日については、通常の休講等に対応するものではなく、入学試験及び台風の到来等による大学全体の臨時休業等に充当するものである。

平成31年度

4	1	月	前学期始、春季休業（4月7日まで）（予定）	
	3	水	平成31年度入学式	
	4	木		学部オリエンテーション（予定）
	8	月	前学期開講（予定）	

目 次

(緊急時及び相談等の連絡先)

(学年暦)

はじめに

I 農学部理念と教育・研究

1 農学部理念と発展経過	1
2 農学部の組織と教育・研究の概要	2
(1) 応用生物科学科	4
(2) 生物環境科学科	8
(3) 生命機能科学科	13
(4) アグリ創生教育研究センター	16
(5) 総合分析実験センター	19
(6) 全学教育機構	20

II 授業科目の区分

1 授業科目の区分と卒業要件	21
2 専門教育科目の区分	23
3 履修年次	24
4 履修手続と単位について	25
5 単位互換制度に基づく授業科目の履修	27
6 学術交流協定に基づく留学	28

III 分属及び卒業研究履修認定

1 コース及び教育研究分野への配属	35
2 卒業研究履修認定と卒業研究発表会	36

IV カリキュラム

1 佐賀大学学士力, 農学部の目的, 農学部各学科の目的, 学位授与の方針, 教育課程編成・実施の方針, カリキュラムマップ及び標準履修モデル	37
2 カリキュラム表の見方	55

V 資格取得

1 教員免許状	69
2 教員免許状と介護等体験実習について	91
3 大学卒業後に得られる資格	92

VI 証明書発行と奨学金などの申請手続

1 各種証明書の発行手続	95
2 奨学金及び授業料免除などの申請手続	95
3 学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険について	95

VII 規則及び内規等

1 佐賀大学農学部規則	97
2 佐賀大学農学部履修細則	101
3 農学部学生の分属及び卒業研究に関する内規	113
4 農学部定期試験受験上の注意	113
5 農学部追試験及び再試験に関する内規	113
6 農学部編入学生の既修得単位等の認定に関する内規	115

VIII 講義室などの配置図

1 農学部	119
-------	-----

は じ め に

佐賀大学は、農学部、経済学部、医学部、理工学部に加えて、2016年4月に文化教育学部を改組して、新たに芸術地域デザイン学部と教育学部の2学部を新設し、6学部からなる総合大学としてスタートいたしました。北部九州の教育研究拠点として、学生を中心に据えた教育先導大学を目指しています。農学部は我が国の食糧生産基地となる佐賀平野を背景に、研究の進歩や社会の要請に応える農学・生命科学等の強化を図るために、応用生物科学科、生物環境科学科、生命機能科学科の3学科体制による専門教育を実施しています。

農学部の教育目標は、食料、環境、生命、資源循環に関する研究や産業を支える高度専門職業人と研究者を育成することです。このため、農学についての素養を培う目的として、「農学基礎科目」を新たに開講し、自由選択科目の枠を拡大し、学科間はもとより、学部を超えた学習もできる体制を整えました。また、学生が抱える多様なニーズに応えるための体制を整えるとともに、学生参加型授業などの充実に取り組んでいます。

この「履修の手引」は、農学部で学ぶために必須の冊子で、農学部の教育理念、専門教育科目の区分、カリキュラムなどが記載されています。本書を熟読することにより、農学部における学び方を知り、自己研鑽に励んで効果的に学習してください。

大学生活は、高等教育課程の仕上げの時期に当たります。そして、卒業後は、大学院に進学するか、実社会で活躍を始めることになります。皆さんを受け入れる社会は、「学力」だけを求めている訳ではありません。人物としての総合的な人間力が問われます。このためには、サークル活動、ボランティア活動、友人との交流等も大切です。

幅広い素養に裏打ちされた専門性を持ち、かつ高い人間力を備えた佐賀大学卒業生として皆さんが巣立つことを期待しています。農学部の教職員はそのために必要な支援を行います。

I 農学部の理念と教育・研究

1 農学部の理念と発展経過

農学部の理念

地球上の生物は、太陽からの輻射エネルギーに依存して生きており、太陽エネルギーを化学エネルギーに変換できる植物を基軸に、様々な生物が相互に依存しあいながら生活しています。ヒトもまた例外ではなく、その存在は、他の生物に依存することなくしてはありえません。食糧の生産と利用という人間の生存に直接関わる科学である農学の進歩は、いつの時代も、生活の安定に大きく貢献してきました。そして、食糧、資源、環境など重要な課題が山積している今日ほど、農学への期待が高まっている時代はありません。

日本有数の食料生産基地である佐賀平野に立地する佐賀大学農学部は、普遍的な真理を追究する科学の進歩と地域農業の発展に大きく貢献してきました。しかし、今、社会は様々な面で多様化が進んでおり、本学部に対する社会的な要請は、科学及び技術の両面において、その広がりや深さを増しています。このような社会的要請に応えるために、私たちの生活にとって有益な生物の生産・利用と環境保全に関わる総合科学である農学の発展にさらに貢献するとともに、人類の繁栄に貢献するために必要な豊かな教養と深い専門知識を備えた人材を育成することが、本学部の理念です。

佐賀大学農学部の発展経過

1951年（昭和26年）文理学部に農学科が設置される。

1955年（昭和30年）農学部（農学科）が設置される。

1956年（昭和31年）附属農場が設置される。

1960年（昭和35年）農学専攻科（農学専攻）が設置される。

1961年（昭和36年）農業土木学科が設置される。

1965年（昭和40年）農学専攻科に農業土木専攻が設置される。

農芸化学科が設置される。

1968年（昭和43年）園芸学科が設置される。

1969年（昭和44年）農学専攻科に農芸化学専攻が設置される。

1970年（昭和45年）大学院農学研究科（修士課程）が設置される。

農学専攻科が廃止される。

1983年（昭和58年）附属浅海干潟総合実験施設が設置される。

1988年（昭和63年）農学部が改組され、生物生産学科と応用生物科学科の2学科編成となる。

佐賀大学、宮崎大学、鹿児島大学を構成大学とする鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士課程）が設置される（平成3年には、琉球大学も構成大学となる。）。

1993年（平成5年）農学部附属浅海干潟総合実験施設が廃止される。

佐賀大学海浜台地生物生産研究センターが設置される。

1994年（平成6年）佐賀大学の教育課程が変更され、教養課程と専門課程の区分を廃止した4年一貫教育が実施される。

2002年（平成14年）総合分析実験センターが設置される（機器分析センター改組）。

2003年（平成15年）附属資源循環フィールド科学教育研究センターが設置される（附属農場を転換）。

海浜台地生物環境研究センターが設置される（海浜台地生物生産研究センター廃止）。

2006年（平成18年）農学部が改組され、応用生物科学科、生物環境科学科、生命機能科学科の3学科編成となる。

2012年（平成24年）附属アグリ創生教育研究センターが設置される（海浜台地生物環境研究センターおよび附属資源循環フィールド科学教育研究センターを改組）。

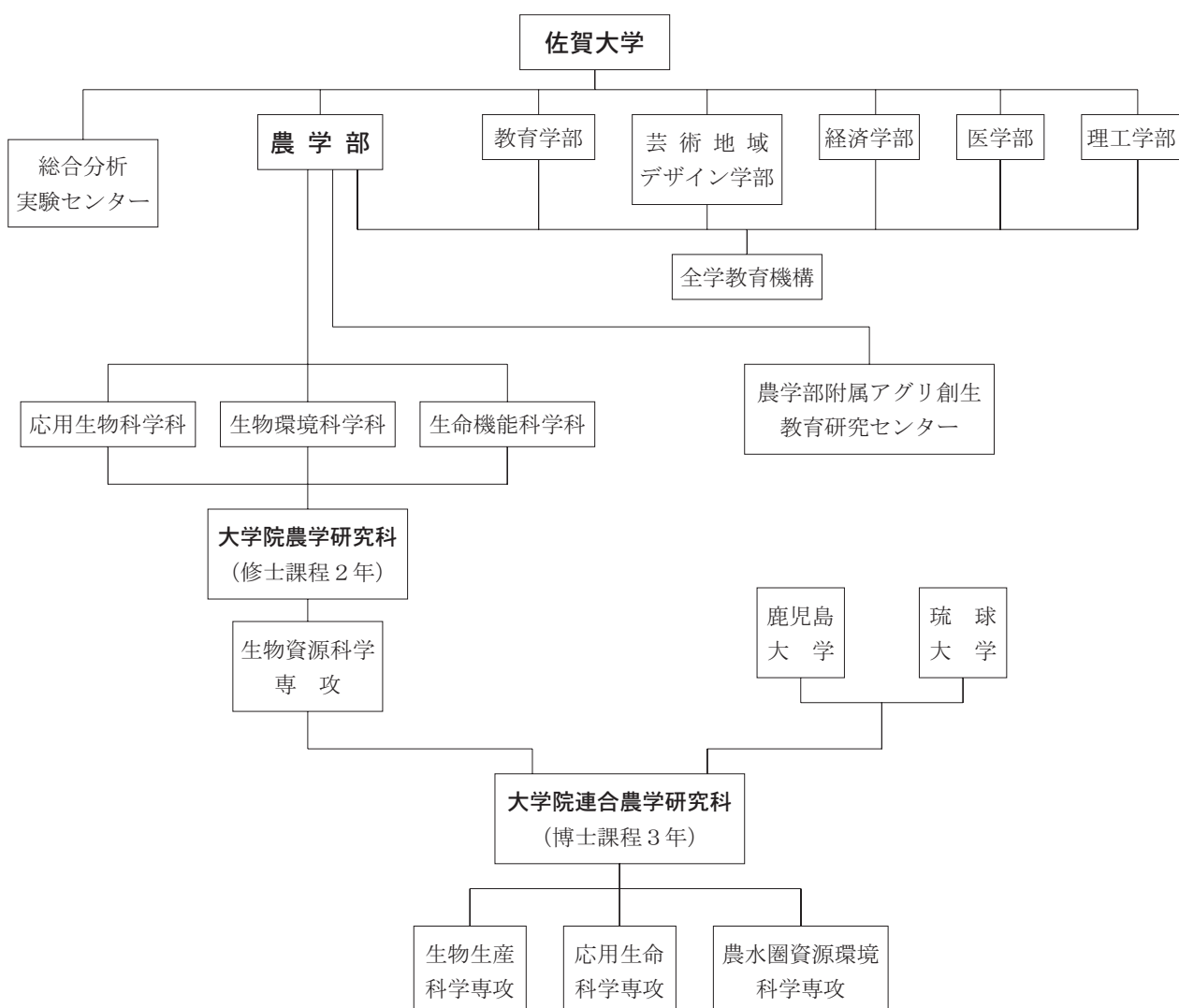
2 農学部組織と教育・研究の概要

農学部の教育と研究の組織

農学部には、応用生物科学科、生物環境科学科、生命機能科学科の3学科があります。応用生物科学科は、生物資源開発学講座と生物資源制御学講座の2つの講座で構成されています。生物環境科学科は、生物環境保全学講座、資源循環生産学講座、地域社会開発学講座の3つの講座で構成されています。生命機能科学科は、生命化学講座と食糧科学講座の2つの講座で構成されています。各学科を構成する各々の講座は複数の教育研究分野で構成されており、合計で34の教育・研究分野があります。教育・研究分野は、農学部における教育研究の最小単位で、そこでは、高度な専門教育と特徴ある研究が行われています。農学部附属の教育研究施設として、アグリ創生教育研究センターがあります。また、農学部の教育・研究と関係の深い学内共同教育研究施設としては、総合分析実験センターがあります。

農学部卒業生は、大学院に進学して、さらに深い専門的な知識を養い、高度の研究手法と理論を修得することができます。本学部関係の大学院としては、佐賀大学大学院農学研究科（修士課程）と鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士課程）があります。修士課程の単位を取得し、論文審査に合格すると、修士（農学）の学位が授与されます。博士課程の単位を取得し、論文審査に合格すると、博士（農学、水産学、学術）の学位が授与されます。博士課程は鹿児島大学を設置大学とし、佐賀大学、琉球大学を参加大学とする連合農学研究科です。

農学部関係組織図



教 育 研 究 組 織

応用生物科学科

講 座	教 育 研 究 分 野	担 当 教 員	学内内線番号
生 物 資 源 開 発 学	熱帯作物改良学	鄭 紹 輝 教授	8723
		藤 田 大 輔 准教授	8724
	動物資源開発学	和 田 康 彦 教授	8787
		⑤ 山 中 賢 一 准教授	8735
	植物代謝解析学	石 丸 幹 二 教授	8753
	蔬菜花卉園芸学	一 色 司 郎 教授	8740
		辻 田 有 紀 准教授	8752
	果樹園芸学	古藤田 信 博 准教授	8744
生 物 資 源 制 御 学	植物遺伝育種学	穴 井 豊 昭 教授	8725
		渡 邊 啓 史 講師	8741
	植物病制御学	草 場 基 章 准教授	8727
	植物ウイルス病制御学	大 島 一 里 教授	8730
	線虫学	吉 賀 豊 司 准教授	8746
	昆虫学	早 川 洋 一 教授	8747
	システム生態学	⑥ 徳 田 誠 准教授	8792
	動物行動生態学	野間口 眞 太郎 教授	8796

生物環境科学科

生 物 環 境 保 全 学	地圏環境学	長 裕 幸 教授	8757
		徳 本 家 康 助教	8755
	水環境工学	⑥ 阿 南 光 政 准教授	8737
		郡 山 益 実 准教授	8760
	浅海干潟環境学	弓 削 こ ず え 准教授	8756
	環境地盤学	宮 本 英 揮 准教授	8759
	生物環境学	上 野 大 介 准教授	8793
資 源 循 環 生 産 学	海浜環境情報学	原 口 智 和 准教授	8743
	農業生産機械学	稲 葉 繁 樹 准教授	8764
	生産システム情報学	北 垣 浩 志 教授	8766
	施設農業生産学	田 中 宗 浩 教授	8798
	作物生態生理学	有 馬 進 教授	8720
		⑤ 鈴 木 章 弘 教授	8721
	資源循環生物学	染 谷 孝 教授	8777
	オーガニックファーマーミング学	松 本 雄 一 講師	98－2245
	アグロフィールド保全学	上 埜 喜 八 准教授	98－2245
	アグリ資源開発学	福 田 伸 二 准教授	98－2245
	家畜医療応用学	江 原 史 雄 准教授	98－2245
地 域 社 会 開 発 学	地域ビジネス開発学	辻 一 成 准教授	8731
	地域資源学	中 井 信 介 准教授	8739
		稲 岡 司 教授	8738
	人類生態学	藤 村 美 穂 准教授	8728
	島嶼社会経済学	(未 定)	

生命機能科学科

生 命 化 学	生化学	渡 邊 啓 一 教授	8774
		辻 田 忠 志 講師	8771
		本 島 浩 之 助教	8770
	機能高分子化学	宗 伸 明 教授	8773
		上 田 敏 久 准教授	8789
	応用微生物学	小 林 元 太 教授	8779
		後 藤 正 利 教授	8780
食 糧 科 学	分子生命科学	堀 谷 正 樹 助教	8782
		林 信 行 教授	8751
		⑤ 野 間 誠 司 准教授	8749
	生物資源利用学	出 村 幹 英 特任准教授	8751
	食品化学	光 富 勝 教授	8786
		関 清 彦 講師	8776
	食糧安全学	濱 洋 一 郎 教授	8783
		⑥ 光 武 進 准教授	8706
	食品栄養化学	永 尾 晃 治 教授	8781
	天然資源化学	渡 邊 啓 一 教授	0955－77－4484
		川 添 嘉 徳 特任准教授	0955－77－4484
		川 口 真 一 特任助教	0955－77－4484

⑥ は教育委員，⑤ は学生委員を示す。

(1) 応用生物科学科

応用生物科学科では、人間の生活に直接的または間接的に関わる生物について、基礎と応用の両面から、教育・研究する。対象となる生物は、ウイルス、細菌、糸状菌、線虫、昆虫、食料作物、薬用植物、観賞植物、魚類、哺乳類、鳥類など多様である。これらの生物についての研究方法も多様で、目的に応じて、分子、細胞、組織、器官、個体、個体群、群集の諸特性を解析するための手法を駆使する。

本学科の学生は、3年次の始めに、学科を構成する12の教育研究分野のいずれかに分属して体系的に専門科目を学び、卒業研究に取り組む。本学科の目的は、多様な生物の諸特性を明らかにし、その諸特性を改良・活用して、有用生物の生産や生物間の相互関係に関わる諸問題を解決し、社会に貢献することである。この目的を達成するために、応用生物科学科は、生物資源開発学と生物資源制御学の二つの講座で構成されている。

生物資源開発学講座

生物資源開発学講座では、有用植物（食用、薬用、観賞用）、魚類、鳥類、そして哺乳動物におよぶ生物を研究材料として、生命現象および生物の諸特性の解明とバイオテクノロジー等の最新の技術も応用した有用生物資源の開発・利用に関する教育・研究を行う。さらに、これらの成果に基づいて、将来予想される人口問題、食糧問題、環境問題およびエネルギー問題等の解決にも寄与することを目指す。具体的には、有用植物や熱帯作物の探索・保存、遺伝様式の解析と品種の改良、特異的な生物機能の開発、有用動物（家畜家禽）の遺伝子機能の解析と育種改良、繁殖生理技術の開発などが主な研究課題である。

熱帯作物改良学分野

発展途上国における農業の発展と生活水準の向上に貢献することを視野に入れながら、熱帯・亜熱帯作物の品種改良と、これらの作物の生産力を向上させるために必要な栽培環境の改善について教育・研究する。また、熱帯・亜熱帯の環境保全に配慮した作物栽培様式や、バイオレメデーションの教育・研究も取り込んでいる。

動物資源開発学分野

われわれ人類は家畜家禽や愛玩動物との長い歴史の中で、動物資源からさまざまな恩恵を受けてきた。本分野では、最新の遺伝子工学やバイオテクノロジー、コンピュータテクノロジーを用いた、これらの動物の育種改良、有用遺伝子の探索、また、生殖細胞を効率的に利用する技術開発のための教育と基礎研究などに取り組んでいる。

植物代謝解析学分野

植物成分の解析、生産と加工をもとにした新しい機能性食品、医薬、また化粧品素材の開発を行っている。具体的には、(1)植物生理活性物質の分析、単離と構造解析、(2)組織培養や遺伝子導入による有用物質の代謝制御と効率的生産、(3)発酵、微生物感染等のバイオ処理による植物成分の高機能化と新規代謝物生産、などの研究である。

蔬菜花卉園芸学分野

野菜および花の品種改良ならびに効率的な繁殖技術の開発、植物の系統進化、植物と菌類との菌根共生系の解明と野生植物の保全について教育・研究を行う。主なテーマは、野菜および花の遺伝分析、ゲノム解析、細胞質置換、系統分類、菌根共生系の進化解明、生物多様性保全である。

果樹園芸学分野

ミカン亜科植物におけるゲノムレベルの分類体系構築、常緑・落葉果樹双方における花芽形成機構、果実生理機能、健康機能性成分等の解明およびそれらの成果を応用した栽培技術あるいは新品種の開発について教育・研究を行う。最近の研究テーマは、花芽形成タンパク質、カンキツ由来の生薬、ミカンワイン、香りに関するものである。

植物遺伝育種学分野

効率的に植物の遺伝的改良を進めるために、多様な遺伝資源を利用した交雑育種法はもとより、突然変異体等を用いた有用遺伝子の探索及びその機能解析、ゲノム情報を利用した分子マーカーの作成・選抜法の開発、遺伝子組換え作物の作出といった広範な技術を含む分子育種法についての教育と研究を行う。

生物資源制御学講座

生物資源制御学講座は、有用な動植物の生産を阻害する生物と生物間の相互関係について教育・研究を行う。この講座は、六つの教育・研究分野で構成している。それぞれの分野における教育研究の内容は、下表のとおりである。

教育研究分野	教育研究の内容
植物病制御学	植物に疾病を引き起こす糸状菌の病原性解析と発病制御
植物ウイルス病制御学	植物ウイルスの分子進化・生態および病原性解析と発病制御
線虫学	植物や昆虫に寄生する線虫および自活性線虫の生態、生理、制御
昆虫学	害虫の脱皮、変態、休眠、移動、繁殖などのメカニズム解明と防除
システム生態学	生物間相互作用ならびに生物多様性の創出・維持機構
動物行動生態学	昆虫および魚類の行動と社会関係の解明

植物病制御学分野

病気による農作物の被害はきわめて大きい。植物病原菌の70%以上は糸状菌（カビ）であるが、この分野では植物病原菌糸状菌を対象とし、その自然界における生活や植物に病気を起こすメカニズムの解明を分子遺伝学的手法を用いて行う。さらに、これら研究成果を応用し、環境に負荷を与えない新たな防除法の開発に向けた教育・研究を行う。

植物ウイルス病制御学分野

核酸とタンパク質からなるミクロの病原体であるウイルスの中には、他の病原体に比べて植物に感染して致命的な疾病を引き起こすものが多い。この分野では、植物ウイルスのゲノム構造から、ウイルスの分子進化及び生態学的な解明を行い、どの様にウイルスが病原性を獲得してきたのか解明するための基礎的・応用的な教育と研究を行う。また、植物ウイルスと植物体の相互作用についても、分子生物学や遺伝子工学的な手法を用いた教育と研究を行う。

線虫学分野

普段は注意して見る機会が少ない土壌中などには、生活様式が異なる線虫（ネマトーダ）が非常に多く生活し、人間の生活と直接的・間接的に深く関わっている。線虫学分野では、多種多様な線虫類について、教育と研究を行う。主な研究テーマは、(1)植物に寄生して被害をもたらす線虫の生理生態と制御、(2)昆虫に寄生する線虫の感染機構、共生細菌との相互関係、害虫防除への利用、(3)有明海に生息する汽水線虫の生態と役割の解明である。

昆虫学分野

地球上で最も繁栄している動物といえる昆虫は、発育や生存に有利な様々な特性をもっている。この分野では、昆虫の生活や行動上の特性について、寄生、変態、休眠、食欲、ストレス応答、生体防御などの生理現象に焦点を絞り、生化学的、さらには、分子生物学的に解明する。具体的には、(1)昆虫の諸特性を制御する脳内遺伝子の発現解析、(2)昆虫生理活性タンパク質・ペプチドに関する作用機作の解明と医薬品への応用、(3)寄生性昆虫の寄生戦略についての分子レベルでの解析、(4)昆虫のストレス応答遺伝子の解析、(5)環境や人畜に対する悪影響のない生理活性物質を利用した害虫防除法の開発、などについての教育と研究を行う。

システム生態学分野

地球上の生物多様性は複雑な生物間の相互作用による共進化によって生み出されてきた。そこで、環境保全や生物資源確保の立場からも、生物群集を生物間ネットワークシステムとしてとらえ、生物多様性の創出・維持機構を解明することが重要な課題の1つとなる。この分野では、動物と植物の相互作用を中心に、生物間の相互作用の個体群・群集生態学的研究ならびに生物の生活史特性に関する行動生態学的、進化生態学的研究を通して、生物多様性の創出・維持機構に関する教育と研究を行う。

動物行動生態学

様々な物理的及び生物的環境の中で生息する動物は多様な行動様式を示す。これらの動物は、長い進化の過程で、生息環境から生存と繁殖に必要な情報を早く正確に受け取り、それを適切に処理し、問題を解決するための特異的な行動的方法を発達させてきたと考えられる。この分野では、動物の採餌行動、対捕食者行動、繁殖行動、社会行動など生活史のあらゆる場面で見られる特異的な行動を機能的、進化的に理解するための教育と研究を行う。

(2) 生物環境科学科

生物環境科学科は、環境保全と持続的食料生産のための技術開発及び資源循環型地域社会の構築を担う人材の育成を目指しており、生物環境保全学講座、資源循環生産学講座、地域社会開発学講座の3講座（コース）に分かれて教育を行う。生物環境保全学講座では、地球・生物・人の調和を図り、環境に負荷の少ない生物生産環境の創出・保全と豊かな生活空間の創造に関する教育研究を行う。資源循環生産学講座では、農業における資源、エネルギー、環境などの課題に取り組み、高度な生物生産システムに関する教育研究を行う。地域社会開発学講座では、持続可能な循環型社会の構築を目指し、国際的視野で民族、地域資源、人類生態、環境社会、農林水産業に関わる地域ビジネス開発に関する教育研究を行う。

生物環境保全学講座

生物環境保全学講座では、地球全体から地域住環境に至るまでの様々なスケールで生じている環境問題に対処するため、大気、水、土壌、地盤などの物理学的、化学的及び生物学的分析を通して環境や生態系の保全と再生、利用などについて教育研究を行う。具体的には、(1)人類の生存基盤である土環境に関する観測技術の開発、分析及び解析手法の確立、(2)九州において重要な位置を占める有明海の水環境に関する保全及び再生方法の確立、(3)環境保全型の地域開発方法の確立、(4)環境保全型の水資源開発方法の確立、(5)生物・化学的手法による有機・無機資源のリサイクル及び汚染環境の浄化修復技術の確立等々である。

地圏環境学分野

農業にとって最適な土壌環境を保全するために必要な、土中の水分や溶質等の物質循環の予測、現場モニタリング手法等について教育・研究を行う。

水環境工学分野

自然が与える「水」と人間が必要とする「水」との間には、時間的にも空間的にも大きなズレがある。従って、人間と自然の両者にとって最適な状態に水を管理しながら利用する技術の確立は大きな課題である。この分野では、水資源と水環境の問題を利水の面からとらえ、水を有効に利用するための計画、管理及び制御と水環境の保全について教育・研究する。

浅海干潟環境学分野

海と陸の境界に位置する浅海干潟域は、地球上で最も生物生産性の高い場所で、魚介類や鳥類など多くの生物が生息している。この分野では、浅海干潟域の環境特性と機能及び保全について教育・研究する。主な研究テーマは、(1)浅海干潟域のエコシステムと物質循環の解析、(2)浅海干潟域の多面的機能の解明、(3)干潟の保全と有効利用の方策の検討である。

環境地盤学分野

この分野では生物環境保全の観点から、農村地域における合理的な土地利用計画や環境整備・保全、生物生産の場および農業関連構造物の基礎としての地盤の有効利用、地盤を構成する土の物理・化学・力学的性質や粘土鉱物学的物質、土壌環境汚染対策などに関する教育と研究を行う。

生物環境学分野

生物環境の保全に関する研究を教材として、バランスの取れた環境感覚を持つ、地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。主な課題として、生物環境・食料生産環境における化学物質汚染のメカニズム解明を通じ、環境に配慮した化学物質利用法の提案を目指している。

海浜環境情報学分野

海浜台地の農業と環境保全に寄与するため、物質動態予測モデルおよび農地管理技術の開発ならびに地域資源の農業への活用技術について教育・研究を行う。

資源循環生産学講座

佐賀を含む九州は日本の主要な食糧生産基地である。資源循環生産学講座は、地域の農業生産を高める実践研究を行うとともに、最新の生物科学ならびに生産情報科学の理論と技術を取り入れて、環境に配慮した持続的な食糧生産体系と高度な生産管理システムを創造し、広く世界の食糧と環境の問題解決に寄与する教育研究を行う。具体的には、①資源循環型の農作物栽培と動物生産技術の開発、②生物情報と遺伝子解析による環境適応型農作物の選抜育成、③バイオマスの生産と利用システムの確立、④農場生産・農業機器・貯蔵施設等のハイテク化、⑤ITを活用した安全な農産物の生産・流通・消費システムの確立などの理論と先端技術についての教育・研究である。

資源循環生物学分野

バイオマスの微生物学的資源化や土壌環境保全、水資源の浄化再生利用に関わる微生物学的側面に関する教育研究をおこなう。すなわち、有機廃棄物の堆肥化やメタン発酵、土壌・地下水浄化、排水処理等に関わる土壌微生物及び環境微生物の生理生態学的解明とその応用に取り組む。さらに、農業生産環境におけるバイオセーフティの改善など、バイオマス利用における微生物的安全性に関わる課題にも重点を置く。

農業生産機械学分野

食料生産力の増大や労力の軽減に果す農業機械の役割は大きく、その開発及び改良は重要である。この分野では、情報・機械工学理論に基づいたメカトロニクス等の最先端技術の応用、特に、農業機械の更なる高性能化・農業における情報利用・生産に必要なエネルギーの利用効率の向上等についての教育と研究を行う。

生産システム情報学分野

発酵・醸造学に情報科学、ゲノム学、システム生物学、メタボロミクスなどの先進的な研究手法を取り入れることで効率的な資源循環生産システムの構築を目指した教育と研究を行う。

施設農業生産学分野

多くの科学技術を総合的に利用しながら営まれる施設農業は、現代社会において、農産物の生産と価格安定に大きな役割を果たしている。この分野では、施設農業、特に生産施設の装置化、システム化及び省エネルギー化についての教育と研究を行う。主なテーマは、(1)バイオマスエネルギーの開発と利用、(2)養液栽培技術の開発、(3)農産物の貯蔵及び品質評価法の改良である。

作物生態生理学分野

人類の生存と発展に必須である農作物の発育生理や品種特性ならびに野生植物の生存戦略についての解析を深め、それらの成果を作物生産と環境修復へ応用するための教育・研究を行う。具体的には、環境と調和した農業を見据えて、作物と微生物（根粒菌や菌根菌）による共生に関する研究を行う。また、イネやダイズ等の主要農作物を対象として、安全で多収穫のための栽培理論と技術及び品種開発についての研究を行う。

家畜医療応用学分野

農業によるヒトの健康や福祉の向上に寄与するため、農業フィールド資源であるウシやヤギ等の家畜を障がいを持つ人のケアの手段として活用する方法に関する教育・研究を行う。

アグロフィールド保全学分野

資源循環型の食料生産に関する技術を解明し、アグロフィールドの管理と周辺環境の保全に関する教育研究を行う。

アグリ資源開発学分野

果樹ならびに資源植物の遺伝資源を基に、品種開発と栽培技術に関する教育研究を行う。

オーガニックファーミング学分野

有機農業における作物生産および管理についてフィールドを活用した実践型の教育と研究を行う。

地域社会開発学講座

地域社会開発学講座は、農学部唯一の社会科学も包含する講座であり、生物環境科学科3コースのうち「地域社会開発学」コースを担当する。このコースは、日本を含むアジア・太平洋諸地域における、①地域資源の持続可能な開発と利用システム、②諸民族・地域社会における人間と環境との諸関係、③農林水産資源の循環的利用システムと農林水産業関連ビジネスの開発、④離島・半島など条件不利地域の維持と再生、等に関するフィールドワーク（野外調査）に基づいた実証的な教育研究を通して、持続可能な循環型地域社会の構築を目指すものである。講座を構成する分野は、上記の① ② ③ ④に対応して、地域資源学分野、人類生態学分野、地域ビジネス開発学分野及び島嶼社会経済学分野の4つに分かれている。

地域資源学分野

地域資源の適正な保全と循環的な利用について、生態人類学的・人文地理学的手法を用いたフィールドワークに基づき調査研究をする。具体的には、地域資源（生物資源・人的資源・文化的資源）の多様性と伝統的利用形態や生計維持戦略の解明、農地・水・森林資源の開発に伴う諸問題や土地利用システム等の究明を通じて、多様な動植物相の利用、地域社会の伝統的技術・知恵の伝承性、風土性の現代的意味合いを問い直し、地域資源の持続可能な利用を検討する。調査地としては、日本（特に佐賀）や韓国の農山漁村や、オセアニア・東南アジア・南アジアの農山漁村部がある。

人類生態学分野

日本の地域社会の環境保全や自然保護、途上国の開発に伴う環境・健康問題について、生物人類学・社会学・民俗学的手法を用いたフィールドワークを基にして調査研究をする。具体的には地域社会の価値や技術、環境管理システムや環境政策のあり方、ヒトの生物学的特性等を検討することにより、地域社会の環境・健康問題の本質である環境変化に対するヒト及び地域社会の対応と変化を明らかにし、地域社会の持続可能な開発を提案する。調査地としては日本（特に九州山地）・中国内陸部・オセアニア・東南アジア・南アジアの農山漁村部がある。

地域ビジネス開発学分野

農林水産物の生産・加工・流通・消費及び持続的な農業の担い手の形成と農村開発などについて、それと関わる人とその組織の経済的側面から解明する。具体的には、農産物の市場流通構造や産地の市場対応を検討するほか、生産財・農地・農業労働力・農業金融・農業情報等、農業関連市場の実態と問題点について実証的研究を行う。また、家族農業経営、農業法人、集落営農組織等、農業経営体の組織と管理に関する研究を行う。調査地としては日本国内を中心に東南アジア・南アジアがある。

島嶼社会経済学分野

島嶼とは大（島）小（嶼）の島々を指し、離島とも呼ばれている。そして実は佐賀県（唐津市）には7つの島があり、しかもこれらの7島は、島嶼国（島国）「日本」の有人島の面積割合（2%）と人口割合（0.5%）が類似しているため、唐津市の7島は日本の島嶼の縮図とも考えられる。そこで、これら7つの島のフィールドワークによって、人が暮らし続けるためには何が必要か、つまり持続的展開条件を探り、人口減と高齢化の最先端を示す日本社会の将来像を考察・議論する。

(3) 生命機能科学科

生命機能科学科では、ウイルスを含む微生物から高等動植物、そしてヒトに及ぶ広範な生物について生命現象を探求し、その研究成果に基づき有用生物の開発と生物資源の有効利用に関する教育と研究を行う。本学科は、生命化学講座の生化学、機能高分子化学、応用微生物学、分子生命科学の4分野と、食糧科学講座の生物資源利用学、食品化学、食糧安全学、食品栄養化学、天然資源化学の5分野を併せた9分野で構成されている。この学科における教育と研究は、生物資源及び生物機能の有効利用を目的としているが、多様な生物の生命現象を分子レベルで解明するという基礎的な側面と、それぞれの生物資源が持つ特異的な機能を開発・利用するという応用的な側面を併せもっている。どちらの側面に力点を置くかは分野によって異なるが、ダイナミックな生命現象や様々な生物資源の構造と機能を、生物化学を基礎に、実験によって明らかにしていくというアプローチは共通である。学生が教員と共に研究テーマに取り組む過程を通して、生命科学について基本的な理解を深め、科学的に思考できる人材の育成を目指している。

生命化学講座

生命化学講座では、微生物から高等動植物にわたる多様な生物を対象として、その生命現象と遺伝機能を化学的に解明するための基礎的な教育と研究を行うとともに、生物の特異的な機能を有効に利用して有用物質を生産する方法の開発と、バイオテクノロジーの手法を用いた生物機能の改良を行う。この講座に関連する学問分野は、分子生物学、微生物学、生物化学、生物工学などである。

生化学分野

生命現象の仕組みを分子・原子レベルで理解すると共に、生体分子機能の有効利用を目的とした教育と研究を行う。主な研究テーマは、(1)タンパク質の立体構造に基づいた機能発現機構の解明、(2)酵素の触媒反応に必要な動きと構造の関係、(3)タンパク質機能の有効利用のためのタンパク質工学などである。

機能高分子化学分野

生理活性ペプチドの機能についての分子レベルでの理解、また、生体分子を解析するための分析法の開発、並びに生体分子の材料応用に指向した教育と研究を行う。主な研究テーマは、(1)抗菌性ペプチド・アミノ酸誘導体の作用機構、(2)機能性蛍光物質を用いた生体分析法の開発、(3)生体高分子及び合成高分子の分離・分析材料への応用、などである。

応用微生物学分野

有用微生物について基礎的な研究を行うとともに、微生物の応用について研究する。主な研究テーマは、(1)微生物によるバイオマス有効利用、(2)有用微生物の育種・分離、(3)微生物相解析等である。

分子生命科学分野

タンパク質の機能解析より (i) 生命そのものや、(ii) 人工的に困難な化学反応を理解し、得られた知見を産業・創薬分野へ還元することを目指した教育と研究を行う。主な研究テーマは、(1)先端磁気共鳴法の開発および生物無機化学研究、(2)新規反応中間体補足法による酵素反応解析、(3)ラジカル SAM 酵素スーパーファミリーの機能構造解析、(4)活性酵素種などからの生体内防御機構の解明、などである。

食糧科学講座

食糧科学講座では、生物資源からの機能性成分の探索とそれらの栄養生理機能や安全性の解明、それらを応用した機能性食品の開発、生物生産物の流通・貯蔵、バイオマスの有効利用等について教育と研究を行う。

生物資源利用学分野

生物資源の有効活用と高度利用を目的として工学的アプローチも含めた教育と研究を行う。(1)植物中の機能性物質の抽出とその利用、(2)植物系バイオマスの高度利用化技術の開発ー農産廃棄物からのオリゴ糖生産、固体及び液体燃料への変換、(3)水産物を利用した調味エキスの開発、(4)二酸化炭素を利用した微生物制御技術の開発、(5)機能性物質を産生する土着微細藻類の探索、および(6)有用微細藻類の培養技術の開発等である。

食品化学分野

生物資源の食糧としての開発及び有効利用を目的として、生物資源からの機能性成分の探索、酵素を利用した機能性食品素材の開発等について教育・研究を行う。主な研究テーマは、(1)キチン質分解酵素の構造と機能及び利用、(2)糖質分解酵素を利用した機能性オリゴ糖の酵素合成、(3)抗真菌物質の探索と開発に関する研究等である。

食糧安全学分野

食品および原料の構造研究を基にして、それらの機能性、有効利用ならびに品質評価、安全性に関する教育・研究を行う。主な研究テーマは、(1)主に魚類を対象に、重要な生理機能を持つと考えられる糖タンパク質や糖脂質など複合糖質の構造と機能に関する研究、(2)海苔などの海藻に含まれる多糖の構造と機能に関する研究、(3)細胞膜脂質の生理機能解明に関する研究、(4)食品成分による細胞膜機能制御に関する研究等である。

食品栄養化学分野

食品の栄養成分と生体との相互作用に関する栄養学的研究を通じて、ヒトの健康保持及び疾患の予防・改善に最適な食物に関する教育と研究を行う。食品成分の生体内での機能について分子栄養学的観点から教育を行う。主な研究テーマは、(1)食品の栄養生理機能に関する研究、(2)生活習慣病を予防する食品成分の探索と作用機能の解明、(3)脂質・リポタンパク質の代謝調節機構の解明、(4)健康科学、医食同源に関する研究等である。

天然資源化学分野

農産物・バイオマスなどの天然材料資源を活用した化粧品・食品素材の開発に関する教育と研究を行う。主な研究テーマは、(1)天然材料資源の機能性成分の化学的修飾および高機能化に関する研究、(2)化粧品、食品、および医薬品素材となる新規機能性物質の開発、(3)有機資源の持続的利用に関する研究等である。

(4) アグリ創生教育研究センター

<http://www.aic.ag.saga-u.ac.jp>

農学は、自然や地域の環境条件を十分に生かすとともに、その保全に努めながら、有益な動植物を合理的に生産管理することで、人類に必須の食糧を生産し、消費者に届けることを目的とした総合科学である。本学部は附属施設としてアグリ創生教育研究センター（アグリセンター）を設置し、穀物、蔬菜・花卉、果樹および家畜等の生産管理、生産物の流通、ならびに生産環境の保全・修復において、科学的な検証に基づいた農業理論と実践的な農業技術の習得を目的とした総合的な教育研究を行う。

アグリセンターは、佐賀市久保泉にあるセンター本部と、唐津市にある唐津キャンパスで構成される。

センター本部は、わが国の3大沖積平野のひとつである佐賀平野の北部に位置し、本学から東北へ約12kmにあり、実習用バスで約30分を要する。総面積は約10haであり、その中に水田、茶園、落葉果樹園、作物・野菜園、有機野菜園、飼料園、放牧場、ガラス温室および各種の建物（研究棟、宿泊施設、畜舎、農機具舎など）がある。有機野菜園（50a）は平成13年に国立大学として初めて農林規格・品質表示法〔JAS法〕に基づく有機農産物を生産できる圃場として認定を受けたもので、教育、研究および公開講座等で活用されている。畜舎では肉用牛とトカラヤギが飼養されている。また、本部から北へ4km離れた脊振山の金立山南面の佐賀平野を一望できる地点に果樹園（約8ha）があり、世界各地から集められた約500種類のカンキツ類が遺伝資源として維持管理されている。

センター本部では、技術職員の協力を得て、センター教員の指導の下、上記フィールド資源を用いたフィールド科学基礎実習、フィールド科学総合実習、資源循環フィールド科学実習および遺伝資源フィールド科学実習を開講する。

唐津キャンパスは、佐賀県北西部の玄界灘に面した地点に位置し、本学から北西へ約50kmにあり、JR筑肥線東唐津駅及び唐津市内産業道路に近接しており、佐賀市からも福岡市からもアクセス条件に恵まれている。総面積は約48aであり、その中に研究棟、ガラス温室および研究圃場がある。

唐津キャンパスでは、東松浦半島＝上場台地という季節風が強く玄武岩土壌を特色とする果樹・畜産地帯と玄界灘沿岸小島嶼地域を対象に、農業遺伝資源開発・地域環境資源活用・農漁村生活向上等に関する基礎・応用研究を入りに、環黄海・東シナ海＝東アジアをも視野に入れた国際的農漁業研究及び地域貢献をめざす。

また、アグリセンターでは、上記実習とは別に下記各教育分野に所属した学部学生および大学院生の卒業論文、修士論文および博士論文の作成指導も行っている。

アグリ創生教育研究センターの教育研究組織

アグリリソース循環推進部門
アグロフィールド保全学分野
アグリ資源開発学分野
オーガニックファーミング学分野
アグリ医療分野
家畜医療応用学分野
アグリリソース開発部門
天然資源化学分野

アグロフィールド保全学分野

資源循環型の食料生産に関する技術を解明し、アグロフィールドの管理と周辺環境の保全に関する教育研究を行う。

アグリ資源開発学分野

果樹ならびに資源植物の遺伝資源を基に、品種開発と栽培技術に関する教育研究を行う。

オーガニックファーミング学分野

有機農業における作物生産および管理についてフィールドを活用した実践型の教育研究を行う。

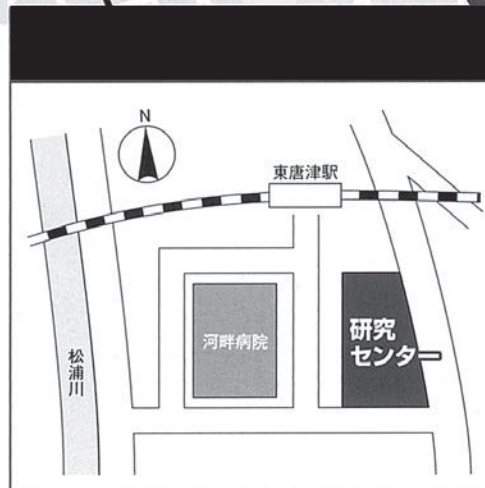
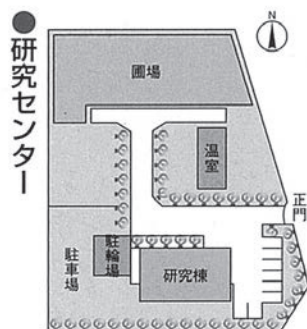
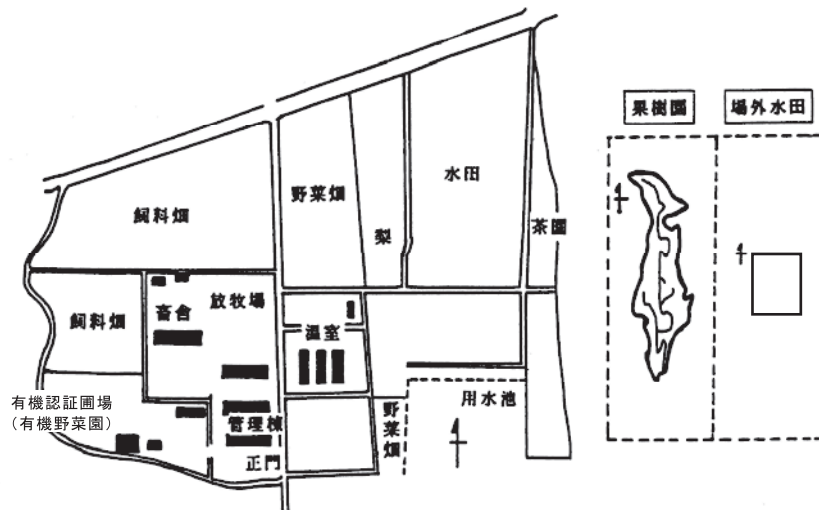
家畜医療応用学分野

農業によるヒトの健康や福祉の向上に寄与するため、農業資源であるウシやヤギなどの家畜を障害を持つ人のケアの手段として活用する方法に関する教育研究を行う。

天然資源化学分野

農産物・バイオマスなど天然材料資源の機能性物質に関する研究、ならびに、それらを活用した化粧品・食品・医薬品素材の開発に関する教育研究を行う。

アグリ創生
教育研究センターの配置図



(5) 総合分析実験センター

<http://www.iac.saga-u.ac.jp>

佐賀大学総合分析実験センターは、社会的な要請度の高い生命科学、環境、材料等の従来の学問分野の枠に収まらない複合領域研究やこれらに対応できる人材の育成を支援するための組織構築を目的として、平成14年4月1日に、従来の「機器分析センター」と「放射性同位元素実験室」を「機器分析分野」、「放射性同位元素利用分野」に改組し、それに新設の「ライフサイエンス分野」を加えて学内共同教育研究支援施設として設立されました。平成15年10月1日の佐賀医科大学との統合にあたり、本庄地区の総合分析実験センターと鍋島地区の動物実験施設、実験実習機器センター、R I 実験施設が統合され、新たな「総合分析実験センター」として生まれ変わりました。支援組織は、生物資源開発部門、機器分析部門、放射性同位元素利用部門及び平成18年度新設の環境安全部門の4部門で構成されています。この統合を生かして本庄地区と鍋島地区のスタッフが力を合わせて、時勢に応じた教育研究の支援体制や設備の一層の整備・拡充を図り、本学における総合的教育研究支援を充実させていく予定です。

これら部門のうち、農学部から学部学生及び大学院生を受け入れ、卒業研究の指導及び修士論文・博士論文の作成指導にあたるのは、生物資源開発部門（本庄地区）及び放射性同位元素利用部門（本庄地区）です。

生物資源開発部門（本庄地区）

遺伝子組換え実験に関する学内外への教育と研究支援を行っています。また、遺伝子組換え実験の教育訓練と安全管理を担当しています。

専任教員が行っている研究は、ゲノムなどの動的な変化を明らかにすることです。また、高効率な遺伝子組換え法の開発も行っています。

放射性同位元素利用部門（本庄地区）

放射性物質の取扱に関する全般的な支援を行っています。具体的には、放射線および放射性同位元素を利用した研究・教育のために必要となる教育訓練、本庄地区の放射性同位元素実験室（R I 実験室）および放射性物質の安全管理などを行っています。

専任教員が行っている研究は、昆虫の味覚・嗅覚メカニズムの解明です。また、植物を食べる昆虫にとって必要な植物由来の味、匂い化合物を解析するため、分析機器を用いた研究を行う予定です。さらに、昆虫のモデル生物であるキイロショウジョウバエを材料とし、代謝と昆虫の食べる行動の関係について研究しています。

(6) 全学教育機構

佐賀大学は「新たな教養教育」を中心とする全学教育を支える中核的組織として平成23年4月1日に「佐賀大学全学教育機構」を設置しました。

下記の教員は、佐賀大学全学教育機構に所属し、農学部から学部学生を受け入れ、卒業研究の指導にあたっています。

環境地盤学（近藤文義）

分野の内容は、9頁を参照してください。

Ⅱ 授業科目の区分

1 授業科目の区分と卒業要件

授業科目の区分

本学部で単位を認定される授業科目は、『必修科目』、『選択必修科目』、『選択科目』及び『自由科目』のいずれかに区分される。

1. 『必修科目』は、卒業要件（下記の『卒業要件』の項を参照）として学部、学科又はコースが履修を義務づけている授業科目で、必修科目の単位を修得しなければ卒業できない。
2. 『選択必修科目』は、卒業要件（下記の『卒業要件』の項を参照）として学部、学科又はコースが指定した授業科目群の中で指定された単位数を修得しなければ卒業できない。
3. 『選択科目』は、各学科、コースのカリキュラム表に掲載されている専門科目のうち、必修科目及び選択必修科目を除く全ての授業科目である。
4. 『自由科目』は、他学部及び農学部で開講される授業科目のうち学生が所属している学科、コースのカリキュラム表に掲載されていない授業科目である。修得した自由科目の単位は、専門科目の選択科目として認定されるが、卒業要件単位として算入できる単位は、応用生物科学科及び生命機能科学科は10単位まで、生物環境科学科は20単位までである。

卒業要件

農学部を卒業するために必ず修得しなければならない授業科目の最低修得単位数（卒業要件という）は、各学科、コースとも126単位である。卒業要件となる単位の内訳は、下の表に示されているように、教養教育科目が37単位、専門教育科目が89単位である。教養教育科目の履修方法については、本書「Ⅷ 佐賀大学における教育課程（教養教育科目について）」を熟読すること。

卒業判定

教授会において卒業該当者が判定されます。その結果は3月上旬に掲示します。前学期終了時において、4年以上在学し、卒業所要単位及び要件を満たした場合は、9月卒業（9月下旬予定）となります。なお、在学期間には休学期間は含みません。

早期卒業と飛び級

早期卒業と飛び級については、農学部教務担当へ尋ねること。

授業科目区分の内訳と農学部の卒業要件

学科・コース		教 養 教 育 科 目									小計	専門教育科目			小計	合 計	
		大学入門科目 (大学入門科目Ⅰ)	共通基礎科目			基本教養科目			インターネットベース科目	共通教職科目		専門基礎科目	農学基礎科目	専門科目			
			外国語科目	情報リテラシー科目	演習	自然科学と技術の分野	文化の分野	現代社会の分野		体育実技Ⅰ							体育実技Ⅱ
応 用 生 物 科 学 科		2	4	2	1	20			8			37	4	6	79	89	126
生物環境科学科	生物環境保全学コース	2	4	2	1	20			8			37	4	6	79	89	126
	資源循環生産学コース	2	4	2	1	20			8			37	4	6	79	89	126
	地域社会開発学コース	2	4	2	1	20			8			37	4	6	79	89	126
生 命 機 能 科 学 科		2	4	2	1	20			8			37	6	6	77	89	126

備考

基本教養科目は、各分野から2単位以上を履修するものとする。

前頁の表に示されている授業科目を履修するに当たっては、以下の点に注意すること。

- 1) 英語は必修である。
- 2) 情報リテラシー科目は、「情報基礎概論」 2 単位と「情報基礎演習Ⅰ」 1 単位が必修である。
- 3) 専門基礎科目については、「基礎数学」、「物理学」、「化学」及び「生物学」の 4 科目 8 単位のうち所属学科が指定する科目を修得しなければならない。
- 4) 農学基礎科目については、「作物生産学」、「動物資源開発学」、「生物化学」、「土壌学」、「食料流通経済学」の 5 科目 10 単位のうち 3 科目 6 単位を修得しなければならない。
- 5) 専門科目については、必修科目を含めて、応用生物科学科及び生物環境科学科では 79 単位以上、生命機能科学科では、77 単位以上修得しなければならない。
- 6) 外国人留学生は、日本語を外国語科目として履修することができる。また、農学部履修細則の別表Ⅷに定める授業科目「農学概論」、「農学演習」を選択科目の一部として履修することができる。

必修科目及び選択必修科目一覧表

学 科		専門基礎科目	農 学 基 礎 科 目	専 門 科 目
応 用 生 物 科 学 科		化学，生物学		植物生理学，熱帯農業論，遺伝学，応用動物昆虫学，生物統計学，植物育種学，植物病理学Ⅰ，フィールド科学基礎実習Ⅲ，生物学実験，応用化学実験，果樹園芸学，蔬菜園芸学，応用生物学実験，科学英語，生物科学英語，生物情報処理演習，卒業研究
生 物 環 境 科 学 科	生物環境保全学 コ ー ス	基礎数学，物 理学，化学， 生物学のうち 2 科目 4 単位	作物生産学， 動物資源開発学， 土壌学，生物化学， 食料流通経済学のうち 3 科目 6 単位	生物環境保全学概説，資源循環生産学概説，地域社会開発学概説，実験生物環境保全学，実験水気圏環境学，科学英語，生物環境保全学演習，卒業研究
	資源循環生産学 コ ー ス			生物環境保全学概説，資源循環生産学概説，地域社会開発学概説，環境保全型農業論，栽培環境制御学，農業生産機械学，フィールド科学基礎実習Ⅰ・Ⅱ，生物科学実験実習，科学英語，卒業研究
	地域社会開発学 コ ー ス			生物環境保全学概説，資源循環生産学概説，地域社会開発学概説，地域資源論，人類生態学，地域ビジネス開発論，農業政策論，フィールドワーク基礎演習，フィールド科学基礎実習Ⅰ，科学英語，卒業研究
生 命 機 能 科 学 科		物理学 化学，生物学		物理化学，有機化学，分析化学，化学実験Ⅰ，生物有機化学，生化学，生物物理化学，微生物学，生命化学概説，食糧科学概説，食品衛生学，栄養化学，食品化学，分子生物学，生化学実験，化学実験Ⅱ，微生物学実験，科学英語，生物学基礎実験，卒業研究

2 専門教育科目の区分

農学部で開講される専門教育科目は、『専門基礎科目』、『農学基礎科目』及び『専門科目』に区分される。それぞれの授業の性格と開講年次・学期は以下のとおりである。

専門基礎科目

専門基礎科目は、農学部における専門教育を受けるのに必要な自然科学全般にわたる基礎的な科目で、「基礎数学」、「物理学」、「化学」及び「生物学」をいう。応用生物科学科の学生は必ず「化学」と「生物学」を履修しなければならない。生物環境科学科の学生は上記4科目の中から2科目を必ず履修しなければならない。生命機能科学科の学生は、必ず「物理学」、「化学」及び「生物学」を履修しなければならない。なお、応用生物科学科及び生物環境科学科の学生が3科目以上を履修した場合、3科目目からの科目の単位は専門科目（選択科目）に算入される。また、生命機能科学科の学生が「基礎数学」を履修した場合、単位は専門科目（選択科目）に算入される。履修年次は1年次前学期である。1年次に単位を修得できなかった場合は2年次以降で再履修することになるが、他の専門科目などと重なり履修しにくくなる場合もあるので、できるだけ1年次で修得すること。

農学基礎科目

農学基礎科目は「作物生産学」、「動物資源開発学」、「土壌学」、「生物化学」及び「食料流通経済学」の5科目であり、農学全体の基礎となる科目である。3学科の学生ともに、これら5科目から3科目を必ず履修しなければならない。4科目以上を履修した場合、4科目目からの科目の単位は専門科目（選択科目）に算入される。各科目の配当年次は以下のとおりである。農学基礎科目についても、できるだけ配当年次で履修すること。

- 1年前期 「作物生産学」
- 1年後期 「動物資源開発学」、「生物化学」
- 2年前期 「土壌学」
- 2年後期 「食料流通経済学」

専門科目

専門科目は農学部における専門教育の中核をなす科目であり、講義の他に、実験、実習、演習、卒業研究などが含まれる。これらの科目は同一科目でも、学科によって必修・選択必修・選択の別が異なる場合があるので、履修の手引きなどを熟読して、間違いのないようにしなければならない。専門科目は1年次後学期より順次開講される。配当年次以降での履修も可能であるが、必修・選択必修・選択の別にかかわらず、できるだけ配当年次で履修することが望ましい。

3 履 修 年 次

教養教育科目及び専門教育科目について、農学部学生の標準的な履修年次は、下記のとおりである。

- 1 大学入門科目は、1年次前学期に履修する。
- 2 基本教養科目は、1年次前学期から4年次後学期に、週4コマ設けられた時間帯に履修する。
- 3 インターフェース科目は、2年次前学期から履修する。
- 4 情報リテラシー科目は、1年次前学期に講義と演習を履修する。
- 5 外国語科目（英語）は、1年次の前・後学期に英語A，英語B各1単位，2年の前・後学期に英語C，英語D各1単位履修する。
- 6 専門基礎科目は、1年次前学期に履修する。
- 7 農学基礎科目は、1年次前学期から2年次後学期に履修する。
- 8 専門科目は、1年次後学期から4年次後学期かけて履修する（外国人留学生を対象とする「農学概論」及び「農学演習」は1年次に履修する）。

学年別授業科目配当

学年	学 期	教 養 教 育 科 目					専 門 教 育 科 目	
				共 通 基 礎 科 目				
4 年 次	後学期							
	前学期							
3 年 次	後学期	基 本 教 養 科 目	イ ン タ ー フ ェ ー ス 科 目					専 門 科 目
	前学期							
2 年 次	後学期							
	前学期							
1 年 次	後学期							
	前学期							
		大学入 門科目		共通教職 科 目	情報リ テラシ ー科目	外国語 科 目	専門基 礎科目	農学基 礎科目

4 履修手続と単位について

履修手続

農学部学生については、授業科目（教養教育科目及び専門教育科目）の履修手続はすべて、学生センター内の農学部教務係（以下、農学部教務係）で行う。毎学期に発表される授業時間割表に基づいて履修計画をたて、以下のように履修手続を行う。

- 1 履修登録は、webにより行う。
- 2 履修登録期間は、所定の期日によるので掲示板に注意すること。
- 3 学期の途中から開始される集中講義などの授業科目については、指定された期日までに履修手続を行う。集中講義の授業科目名及び開講時期は各学期の途中に発表されるので、掲示に注意する。発表時期は、前学期が6月中旬、後学期が11月中旬である。
- 4 各学期に登録できる科目の単位数の上限は、教職に関する科目（P82～P83）と集中講義の科目および最終年次を除き22単位（1年次後学期のみ23単位）とする。ただし、編入学生については、各学期に登録できる科目の単位数の上限は定めない。なお、単位数の上限は状況により変わることがある。詳細はP115参照のこと。
- 5 履修登録がされていない授業科目については単位が認定されないので、注意すること。

単位

教養教育科目及び専門教育科目の単位については、学則、教養教育科目履修規程及び農学部履修細則などに詳しく記されているので（学生便覧及び手引参照）、熟読すること。農学部学生の成績判定及び単位の授与は、下記のとおりである。

- 1 履修した各々の授業科目につき、成績判定に合格した場合に、所定の単位が与えられる。
- 2 授業科目の成績判定は、平素の学修状況、出席状況、学修報告、論文及び試験などに基づいて行われる。
- 3 成績は、秀・優・良・可・不可の評語をもって表される。秀・優・良・可は合格、不可は不合格である。100点満点中90点以上が秀、89～80点が優、79～70点が良、69～60点が可、60点未満が不可である。
- 4 定期試験は、各々の授業科目につき、原則として学期末に行われる。定期試験の時間割は、試験の1週間前までに発表される。授業によっては、授業内容の理解度を測るために、学期途中にも試験が行われる。
- 5 合格と判定された授業科目は、再び履修することができない。
- 6 やむを得ない理由（病気、事故、天災、肉親の死亡（二親等以内）など）で定期試験を受験できなかった授業科目は、担当教員の承認を得たものについてのみ、教授会の議を経て、追試験が行われることがある。追試験を受けようとする者は、所定の願書を所定の期日（欠席の理由発生の日から7日以内）までに農学部教務係に提出しなければならない。
- 7 不合格と判定された授業科目については、再試験が行われることがある。再試験を受けようとする者は、担当教員の承認を得た後、所定の願書を所定の期日までに農学部教務係に提出しなければならない。再試験で合格した授業科目の評価は「可」である。
- 8 全学教育機構で開講される教養教育科目の追試験及び再試験については、全学教育機構の定めるところによる。
- 9 佐賀大学の他学部と農学部で開講されている専門教育科目のうち農学部学生が所属している学科・コースの開講科目一覧表（カリキュラム表）に記載されていない授業科目（自由科目）は、応用生物科学科及び生命機能科学科では10単位、生物環境科学科では20単位に限り、専門科目の中の選択科目として、卒業要件の中に算入することができる。

- 10 次の教育機関で修得した単位は、学則、農学部規則及び「他の大学等での修得単位の認定についての申合せ」の定めに従い、農学部教授会の議を経て、60単位を超えない範囲で、卒業要件となる単位の一部として認定される。
- 1) 他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む）で履修した授業科目の単位
 - 2) 大学以外の教育施設等で学修した授業科目の単位
 - 3) 佐賀大学に入学する前に、大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む）で履修した授業科目の単位
- 11 転入学、編入学又は再入学した者の履修科目と修得単位数は、教授会の議を経て認定される。
- 12 履修した授業科目の成績は、総合情報基盤センターのパソコンで所定の期間内に各自確認する。

履修及び単位認定など教務に関する事項は、その都度、農学部教務係の掲示板に掲示されるので、見落としがないように、毎日、掲示に注意すること。

○ 履修手続の流れ

手 続 事 項	手 続 先	時 期
「授業時間割表」をホームページから出力し確認する	←農学部教務係	所定の期日（掲示による）
履修登録	→web [*] により行う。	所定の期日（掲示による）
履修登録の確認及び修正	→web [*] により行う。	所定の期日（掲示による）

（注）日程の詳細については、その都度掲示するので注意すること。

※ライブキャンパス <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/livecampus.html>

5 単位互換制度に基づく授業科目の履修

大学間の協定に基づいて、他大学の学生も受講できる特別な科目が開設されている。この単位互換制度に基づく科目の特徴は、それぞれの大学が立地条件を活かしたり、特に充実している分野に重点をおいた教育科目を提供することで、特徴ある科目を他大学で受講することができる。現在、他大学の学部及び大学院と本学の農学部及び大学院農学研究科との間で、単位互換制度に関する協定が結ばれている。

学部での単位互換

本学部が協定を結んでいるのは、高知大学、九州大学、長崎大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学であり、単位互換制度に基づいて、以下の授業科目が開講される。

学部学生を対象とした単位互換制度に基づく授業科目

実施大学	授業科目名	単位	授 業 内 容
琉球大学 (農学部)	熱 帯 農 学 総 合 実 習	2	8月上旬に集中で実施される宿泊実習で、西表島にある琉球大学熱帯生物圏研究センター西表実験所で、熱帯の果樹、作物、牧草、森林、土壌、昆虫などについての講義、実習及び見学が行われる。実習には、石垣島にある農林水産省熱帯農業研究所や沖縄本島にある東南植物園の見学も含まれる。

以上の他、実施大学から履修案内の通知があった場合に掲示される。

大学院での単位互換

本学の大学院農学研究科（修士課程）は、鹿児島大学及び宮崎大学の農学研究科と大学院間の単位互換協定を結んでおり、この協定に則った農学特別講義が集中で開講される。講義題目及び実施時期は、その都度掲示される。

6 学術交流協定に基づく留学

学生時代に留学して異文化に接したり外国の教員や学生と交流することは、視野を広くし、学問的な刺激を受けて非常に有意義である。本学部では、下の表に示した外国の大学との間で学術交流協定を締結しており、毎年数名の学生が外国の大学に派遣されている。派遣対象は、3年次生、4年次生及び大学院生で、留学期間は、最長11カ月である。渡航旅費と留学先での生活費は日本国政府から支給される（国費留学生）。留学先の大学では、その教員の指導の下で、現地の大学の学生あるいは大学院生と同じ講義や実験・実習などを履修するが、単位を修得するためには、受け入れ大学での学習に十分な語学能力が必要である。修得した単位は、一定の範囲内で、本学部の専門科目の単位として認められる。

佐賀大学農学部が学術交流協定を締結している外国の大学

大 学 名	国 名	交流協定締結日	地図上の記号(P30)
全南大学校農科大学	大韓民国	1987年4月27日	(1)
コンケン大学	タイ王国	1988年6月29日	(2)
ガジャマダ大学	インドネシア共和国	1988年9月20日	(3)
マレーシアプトラ大学	マレーシア	1989年3月16日	(4)
ロンドン大学インペリアルカレッジ	英国	1993年7月26日	(5)
カセサート大学	タイ王国	1995年6月7日	(6)
マレーシア科学大学	マレーシア	1996年8月7日	(7)
セントメリーズ大学	カナダ	1996年9月23日	(8)
済州大学校農科大学	大韓民国	1997年6月16日	(9)
カリフォルニア大学デイビス校	アメリカ合衆国	1997年7月25日	(10)
木浦大学校食品産業技術研究センター	大韓民国	1997年8月28日	(11)
中国農業大学	中華人民共和国	2000年10月17日	(12)
ハノイ農業大学	ベトナム社会主義共和国	2000年12月7日	(13)
サムラトランギ大学	インドネシア共和国	2002年9月13日	(14)
牧園大学校	大韓民国	2005年12月1日	(15)
チュラロンコン大学	タイ王国	2005年12月1日	(16)
キングモンクット大学ソンブリ校	タイ王国	2006年12月7日	(17)

[交流協定大学のプロフィール]

(1) 全南大学校農科大学 (Chonnam National University)

韓国の西南部に位置する人口110万人の風光明媚な光州市にある総合大学。14の単科大学（学生数は22,000人）、5の大学院（院生数は2千人以上）、20の研究所からなる。この大学の農科大学（農学部）は、佐賀大学農学部が最初に学部間学術協定を結んだ外国の大学で、修士課程の院生と学部学生が数名留学している。1991年には、大学間協定に発展。全南大学校は、ニューヨーク州立大学、ミズーリ大学 (U.S.A)、成功大学（台湾）とも大学間国際交流を行っている。

(2) コンケン大学 (Khon Kaen University)

雨季と乾季の差が顕著なタイ東北部にある総合大学。1964年の創立でタイの学術文化を大きく担っている。広大なキャンパスに15もの学部があり、1学年当たり2,500名の学生が学ぶ。コンケン大学農学部には、大学院生と学部学生が数名留学している。コンケン大学は、ロンドン大学インペリアルカレッジとも学術交流協定を結んでいる。

(3) ガジャマダ大学 (Gadjah Mada University)

1949年の創立。日本でいえば京都にあたるインドネシアの古都ジョグジャカルタにある東南アジアで最大規模の総合大学。学部数が21、学生数が23,000名のマンモス大学。農学部卒業生はインドネシアにおける農業関係の研究者・技術者の約6割を占める。大学の講義はインドネシア語。今までに、修士課程の院生が1名留学している一方、ガジャマダ大学からの留学生2名が佐賀大学農学部で学び、共に、修士と博士の学位を取得して帰国している。

(4) マレーシアプトラ大学 (University Putra Malaysia)

マレーシアの首都クアラルンプールの郊外にある農科大学で、総合大学に向けて発展中。現在は、農学研究を中心に10の学部からなる。様々な熱帯果樹が栽培されている農場を含めて、1,200haという広大なキャンパスで約1万名の学生が学ぶ。多民族国家を反映して、英語、マレー語、中国語がキャンパスに飛び交う。

(5) ロンドン大学インペリアルカレッジ (Imperial College, London University)

ロンドン郊外のシルウッド公園内にあるキャンパスに、ツタの絡まる伝統的な赤レンガ造りの建物と近代的な建物が並び、広い芝生では野ウサギが遊ぶ。世界各地からの留学生を含む大学院生と大学教員・研究員が、生物学の基礎と応用の研究に打ち込む。昆虫学に関する情報と生物的防除に関する研究の世界的なセンター。学部学生はならず、学術交流も大学院レベル以上が対象である。

(6) カセサート大学 (Kasetsart University)

バンコク市の北西80kmに位置し、1,250haの広大なキャンパス内に13学部、学部学生・大学院学生総数約15,000名を有する総合大学。1943年にそれまでの3年制の農業大学を母体としてスタート。農学部、農業産業部、工学部、科学部の4学部と協定。

(7) マレーシア科学大学 (University Sains Malaysia)

ペナン市にあり、17学部、学部学生・大学院学生総数約13,000名を有する総合大学。1971年にそれまでの自然科学系のみの単科大学を母体にしてマレーシア国で第2番目の総合大学として設立。佐賀大学海浜台地生物環境研究センターと共同して協定。

(8) セントメリーズ大学 (Saint Mary's university)

カナダ東端のハリファックス市にあり、4学部、学生数総計約8,000名（パートタイムを含む）を有する総合大学。短期の学生受け入れも積極的に行っている。1802年に教会関連の研究所として設立されたカナダでも最も古い英語圏大学の一つ。佐賀大学にとって北米大陸における初めての交流協定大学である。

(9) 済州大学校農科大学 (Cheju National University)

韓国の西南部に位置する観光で有名な済州島の済州市にある総合大学。1952年の創立で、8学部、5研究科（学部学生10,707人、大学院生504人）よりなる。国内では、東北大学、長崎大学、琉球大学と交流協定を締結している。

(10) カリフォルニア大学デイビス校 (University of California, Davis)

米国カリフォルニア州の州都サクラメントの西方に位置する大学都市デイビスにある総合大学。8学部（学部学生20,264人、大学院生2,823人）よりなり、9校あるカリフォルニア大学の中では3番目に大きい。畜産業振興のために1868年に創立。キャンパスの広さは180ha（9校中最大）。本学部は農業・環境科学部と交流する。

(11) **木浦大学校** (Mokpo National University)

韓国の西南部に位置する木浦市にある総合大学。1946年の創立。6学部（学部学生6,920人，大学院生430人）と1研究センターよりなる。本学部は食品産業技術研究センターと交流を開始している。本研究センターでは工学部食品工学科の教官を中心に他の大学や国立研究機関および企業の研究者と共同研究を行っている。

(12) **中国農業大学** (China Agricultural University)

中国の首都北京の西部に位置しており，同国最古の北京大学の農学部として1905年に発足し，その後幾度かの改革があつて，1995年北京農業大学と北京農業工程大学とを併合して成立している。工学系，社会学系を含め15学部62学科があり学生数合計6,550名（うち大学院生1,030名）教授195名，助教授563名。

(13) **ハノイ農業大学** (Hanoi Agriculture University)

1956年に設立されたベトナムにおける最初の国立大学。農業研究の主導的な大学であり，10学部，47学科（学生総数1200名程度）よりなる。

(14) **サムラトランギ大学** (Sam Ratulangi University)

インドネシアの北部スラウェジ島に位置する美しい町，人口約40万人のマナドの中心部にはど近い丘の上にサムラトランギ大学がある。1961年に創立され，農学部をはじめとして10の学部で構成され，学生数が約18,000人，教官数は約1,700人の総合大学である。図書館，情報処理センターをはじめとする5つの附属施設がある。6種類の論文集が発行されている。国内では，長崎大学，琉球大学等とも交流協定を締結している。

(15) **牧園大学校** (Mokwon University)

韓国中南部の大田（テジョン）市内に3カ所のキャンパスを有する韓国でも有数の私立大学で，1954年創設。現在，テクノ科学部，工学部，社会科学部，人文学部，音楽学部，美術学部，神学部の7学部，8研究所などからなる。このうち微生物生態資源研究所は，韓国政府から私学では初めての学術強化研究機関に指定されている。学生数は約9,100名，大学院生約800名，教職員数約350名。平成17年にテクノ科学部と本学農学部が協定を結び，平成19年に大学間協定に発展した。テクノ科学部にはバイオ産業学科，生医薬化粧品学科，スポーツ産業学科，技術マーケティング学科などがあり，文理融合型の構成となっている。

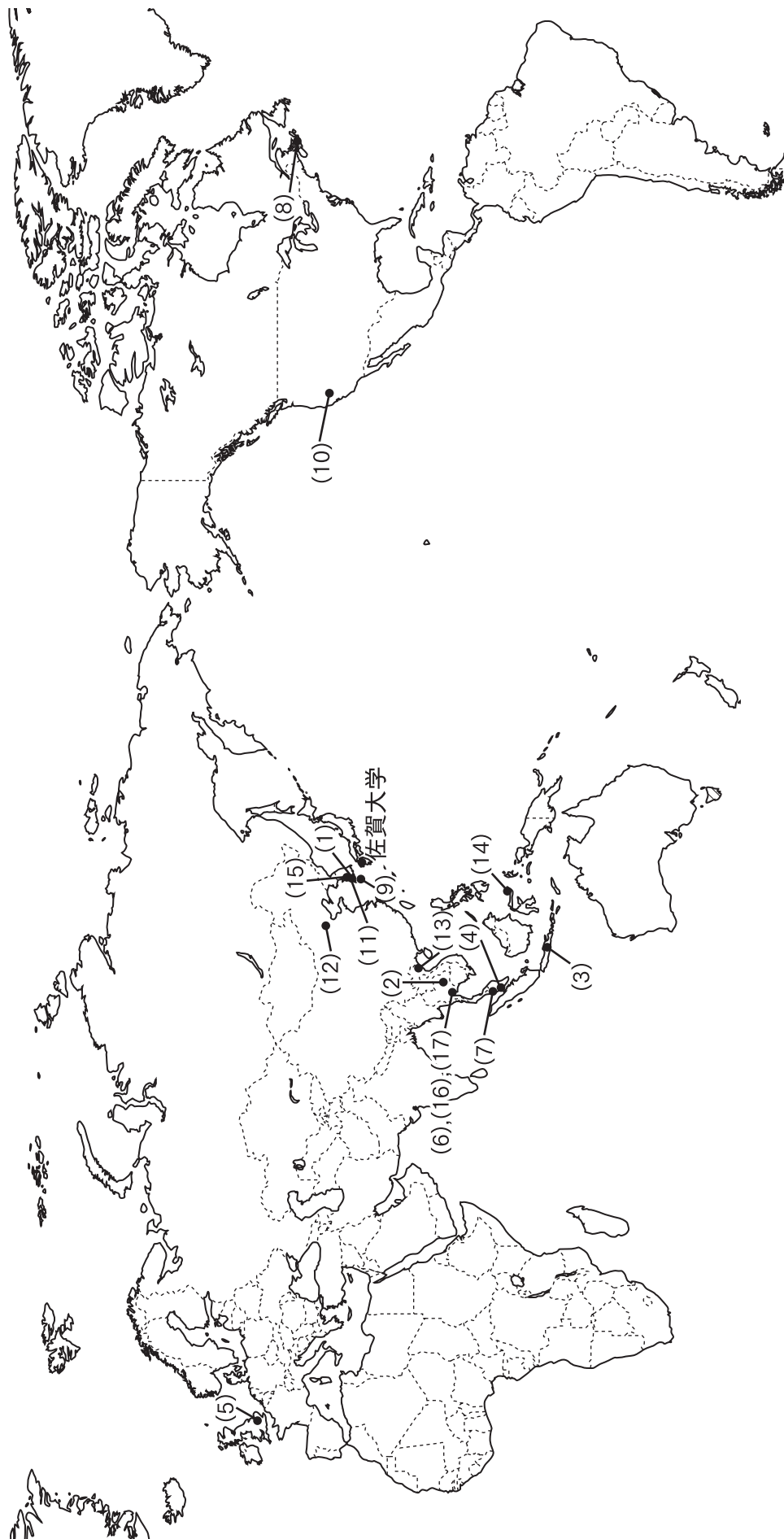
(16) **チュラロンコン大学** (Chulalongkorn University)

タイ国で最も歴史が古く（1916年創設），バンコク市内中央部に200haの広大なキャンパスを有し，18学部，11研究所などからなるタイ国最大の大学。協定を結んでいる理学部は14学科からなり，学生数約2,000名，大学院生約800名，教職員数約400名。生物科学科，生物学科，植物学科，化学科，遺伝学科，海洋科学科，数学科，物理学科などのほか，微生物学科，食品工学科など農学分野とも関係深い学科・領域がある。

(17) **キングモンクット大学ソンブリ校** (King Mongkut's University of Technology Thonburi)

バンコク市にあり1960年の創立。協定を結んだSchool of Bioresources and Technologyはバイオテクノロジー，ポストハーベストテクノロジー，農産資源化学及び生化学部門を有し，大学院学生のみを教育する学部である。教育・研究内容には本学部との共通部分が多く，特に農産物の利用・保蔵適性，農産物の生理・生化学，バイオテクノロジー等を中心とした学術交流の発展が期待できる。

学術交流協定を締結している外国の大学所在地



佐賀大学が学術交流協定を締結している外国の大学

	大 学 名	国 名	交流協定締結日
1	アンダーソン大学	アメリカ合衆国	1978年12月27日
2	全南大学校	大韓民国	1991年3月8日
3	カセサート大学	タイ王国	1996年12月6日
4	カリフォルニア大学デイビス校	アメリカ合衆国	1997年7月24日
5	安東大学校	大韓民国	1997年12月11日
6	華東師範大学	中華人民共和国	1998年5月15日
7	グラスゴー大学	英国	1998年7月17日
8	コンケン大学	タイ王国	1998年9月28日
9	北京工業大学	中華人民共和国	1998年12月8日
10	国民大学校	大韓民国	1999年3月29日
11	首都師範大学	中華人民共和国	1999年4月12日
12	ペラデニヤ大学	スリランカ民主社会主義共和国	1999年11月30日
13	釜山大学校	大韓民国	2000年2月2日
14	木浦大学校	大韓民国	2000年8月3日
15	中国農業大学	中華人民共和国	2000年10月17日
16	ハノイ農業大学	ベトナム社会主義共和国	2000年12月7日
17	ハサヌディン大学	インドネシア共和国	2001年3月9日
18	バングラデシュ工科大学	バングラデシュ人民共和国	2001年4月27日
19	輔仁カトリック大学	台湾	2001年8月9日
20	アレクサンドルイオンクザ大学	ルーマニア	2001年9月11日
21	ガジャマダ大学	インドネシア共和国	2001年11月1日
22	遼寧師範大学	中華人民共和国	2001年11月6日
23	ハルビン工業大学	中華人民共和国	2001年11月12日
24	釜慶大学校	大韓民国	2002年4月18日
25	済州大学校	大韓民国	2002年8月9日
26	サムラツランギ大学	インドネシア共和国	2002年9月13日
27	韓国技術教育大学	大韓民国	2002年10月8日
28	華東理工大学	中華人民共和国	2003年4月1日
29	ラジャヒ大学	バングラデシュ人民共和国	2003年5月18日
30	ブルゴーニュ大学	フランス共和国	2003年7月1日
31	リアウイスラム大学	インドネシア共和国	2003年7月2日
32	ラトローブ大学	オーストラリア連邦	2003年7月31日
33	バングラデシュ農科大学	バングラデシュ人民共和国	2004年8月28日
34	浙江理工大学	中華人民共和国	2004年9月6日
35	政治大学	台湾	2004年9月13日

36	中興大学	台湾	2004年9月14日
37	オルレアン大学	フランス共和国	2005年3月31日
38	光州女子大学校	大韓民国	2005年7月14日
39	マニトバ大学	カナダ	2005年8月8日
40	チェンマイ大学	タイ王国	2005年9月9日
41	台北大学	台湾	2005年10月6日
42	ルブリン工科大学	ポーランド共和国	2006年3月3日
43	国立東華大学	台湾	2006年6月30日
44	培材大学校	大韓民国	2006年7月13日
45	ノンラム大学	ベトナム社会主義共和国	2006年11月9日
46	コハート科学技術大学	パキスタン・イスラム共和国	2007年4月27日
47	牧園大学校	大韓民国	2007年5月16日
48	スリビジャヤ大学	インドネシア共和国	2007年6月11日
49	大邱大学校	大韓民国	2007年6月26日
50	元培大学	台湾	2007年7月6日
51	ハノイ国家大学外国語大学	ベトナム社会主義共和国	2007年8月6日
52	プノンペン王立法経大学	カンボジア王国	2007年8月24日
53	西南政法大学	中華人民共和国	2007年10月31日
54	ペシャワール大学	パキスタン・イスラム共和国	2007年11月10日
55	王立農業大学	カンボジア王国	2007年11月21日
56	アジア工科大学	タイ王国	2007年11月21日
57	浙江科技学院	中華人民共和国	2007年12月25日
58	モンクット王ラカバン工科大学	タイ王国	2008年1月3日
59	バシフィック大学	アメリカ合衆国	2008年2月29日
60	遼寧大学	中華人民共和国	2008年4月30日
61	国立連合大学	台湾	2008年8月8日
62	ダルマプルサダ大学	インドネシア共和国	2009年9月4日
63	文藻外語学院	台湾	2009年9月4日
64	ラオス国立大学	ラオス人民民主共和国	2010年1月26日
65	ウィルフリッド・ロリエ大学	カナダ	2010年7月13日
66	ジャハンギールナガール大学	バングラデシュ人民共和国	2010年7月26日
67	チッタゴン工科大学	バングラデシュ人民共和国	2010年9月30日
68	ビン大学	ベトナム社会主義共和国	2011年2月21日
69	セベラスマレット大学	インドネシア共和国	2011年3月28日
70	ジュアンダ大学	インドネシア共和国	2011年7月15日

※詳細については、佐賀大学ホームページ：国際交流推進センターの学術交流協定校一覧を参照してください。

Ⅲ 分属及び卒業研究履修認定

1 コース及び教育研究分野への配属

農学部生物環境科学科に入学した学生は、2年次前学期の始めに3つのコースのいずれかに分属する。さらに応用生物科学科、生命機能科学科に入学した学生及び生物環境科学科の3つのコースに分属した学生は、各々の学科、コースで定められた時期に各教育研究分野に分属する。そして、各コース、各教育研究分野に分属した学生は、当該コース及び教育研究分野のカリキュラムを中心に体系だった授業科目を履修する。

なお、それぞれの学科、コースで定められた基準よりも修得単位数が少ない場合は、分野分属が保留される場合がある。

コース分属及び分野分属の時期と要件

〔応用生物科学科〕

応用生物科学科の学生は、3年次前学期の始めに生物資源開発学講座又は生物資源制御学講座のいずれかの講座の各分野に分属する。この時、下記の基準を満たさない場合は原則として分野分属は保留される。

1. 2年次前学期までに開講されている教養教育科目及び専門教育科目の修得単位の合計が45単位以上あること。
2. 2年次前学期までに開講されている教養教育科目及び専門教育科目の必修科目の単位ならびに専門教育科目の選択必修科目のうち2科目の単位を原則として修得しておくこと。

〔生物環境科学科〕

生物環境科学科の学生は、2年次前学期の始めに生物環境保全学コース、資源循環生産学コース又は地域社会開発学コースに分属する。コース分属は原則として希望調査に基づいて行うが、コース間の学生数のバランスが取れない場合は、1年次の成績評定平均値（グレードポイントアベレージ、GPA）を参考にして決定する。また、1年後学期までの修得単位数が25単位以上の学生を優先的に配置する。

生物環境保全学コースの学生は、3年次前学期の始めに各分野に分属する。

2年次後学期までに65単位以上を修得しておくこと。

資源循環生産学コースの学生は、2年次後学期始めに各分野に分属する。

2年次前学期までに47単位以上を修得しておくこと。

地域社会開発学コースの学生は、3年次前学期の始めに各分野に分属する。

2年次後期までに65単位以上を修得しておくこと。

〔生命機能科学科〕

生命機能科学科の学生は、3年次後学期の始めに、生命化学講座又は食糧科学講座のいずれかの講座の各分野に分属する。この時、下記の基準を満たさない場合は、原則として分野分属は保留される。

- 1) 分属認定時までに取得可能な単位、大学入門科目（1科目2単位）、共通基礎教育科目（6科目7単位）、専門基礎科目（3科目6単位）、農学基礎科目（生物化学を含む3科目6単位）、専門科目（必修）（18科目36単位）を全て取得しておくこと。但し、不足の合計が3科目以下の場合、分属を認める。
- 2) 必修科目のうち、化学実験Ⅰ、化学実験Ⅱ、微生物学実験、生化学実験（8単位）をすべて取得しておくこと。
- 3) 基本教養科目の取得単位数が12単位以上であり、かつインターフェース科目の取得単位数が4単位以上であること。
- 4) 総単位数89単位以上であること。

2 卒業研究履修認定と卒業研究発表会

卒業研究は、教育研究分野に分属した学生に対し、教員によるマンツーマン指導の下で行われる創造的な科目で、農学部における教育と研究の大きな柱である。卒業研究を行うためには時間的にも労力的にも非常に大きな努力が要求されるため、原則として4年次前学期の始めに卒業研究履修認定が行われる。各々の学科で定められた基準単位数よりも修得単位数が少ない場合には、卒業研究履修認定が保留される場合がある。

卒業研究履修認定を受けた学生は、分属した教育研究分野の指導教員と協議して研究課題を定め、卒業研究を行う。卒業研究を行った者は、卒業年次の定められた日までに卒業論文を指導教員へ提出するとともに、卒業論文発表会で論文の概要を発表しなければならない。

卒業研究履修認定の要件

[応用生物科学科]

1. 3年次後学期終了までに教養教育科目及び専門教育科目の修得単位数が原則として100単位以上あること。
2. 3年次後学期終了までに開講される必修科目は原則としてすべて修得しておくこと。
3. 教養教育科目の修得状況が著しく悪く、卒業研究遂行に影響を及ぼすと認定された場合には、卒業研究を履修できない場合がある。

[生物環境科学科]

3年次後学期終了までに110単位以上を修得しておくこと（但し、教職科目及び20単位を超える自由科目の単位を除く。また、4年次以上の学生については110単位以上を修得した時点で履修を認定される場合がある）。

[生命機能科学科]

1. 教養教育科目と専門教育科目の必修科目（4年次開講を除く）は原則としてすべて修得しておくこと。
2. 3年次後学期終了までの総修得単位数に著しい不足がないこと。
3. 編入学生については、当該学生の履修単位をもとに別途協議する。

分属及び卒業研究履修認定の時期

学 科	コ ー ス	1 年		2 年		3 年		4 年	
		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
応用生物科学科						分野分属		卒業研究 履修認定	
生物環境科学科	生物環境保全学			コース 分 属		分野分属			
	資源循環生産学				分野分属				
	地域社会開発学					分野分属			
生命機能科学科							分野分属		

IV カリキュラム

1 佐賀大学学士力，農学部の目的，農学部各学科の目的，学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針，カリキュラムマップ及び標準履修モデル

「佐賀大学学士力」について

「佐賀大学 学士力」とは、佐賀大学の学士課程で学習する学生が、卒業までに身につける能力を定めたものです。佐賀大学では、学士力に示した能力を学生に身につけさせることを目指し、教育を行っています。

佐賀大学 学士力

佐賀大学では、基礎的及び専門的な知識と技能に基づいて課題を発見し解決する能力を培い、個人として生涯にわたって成長し、社会の持続的発展を支える人材を養成する。そのために、佐賀大学の学士力を次のとおり位置づける。

1. 基礎的な知識と技能

(1) 市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能

様々な学問分野（自然，文化，社会）における基本概念や思考方法を理解し，現代社会の諸問題を自らの力で合理的かつ論理的に推論し判断することができる。

(2) 市民社会の一員として思考し活動するための技能

① 日本語による文書と会話で他者の意思を的確に理解し，自らの意思を表現し，他者の理解を得ることができる。

② 英語を用いて知識を修得し，グローバル社会に向けて自らの考えを発信することができる。

③ 情報を収集し，その適正を判断し，適切に活用・管理することができる。

(3) 専門分野に必要とされる基礎的な知識・技能

専門分野について，基本概念や原理を理解して説明することができ，一般的に用いられている重要な技法に習熟している。

2. 課題発見・解決能力

(1) 現代的課題を見出し，解決の方法を探る能力

現代社会における諸問題を多面的に考察し，その解決に役立つ情報を収集し分析することができる。

(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力

専門分野の課題を発見し，その解決に向けて専門分野の知識と技法を応用することができる。

(3) 課題発見につながる協調性と指導力

課題解決のために，他者と協調・協働して行動でき，また，他者に方向性を示すことができる。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力

歴史や文化・伝統などの違いを踏まえて，平和な社会の実現のために，自己と同時に他者の立場に立って物事を考えることができ，また自然環境や社会的弱者に配慮することができる。

(2) 地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力

地域や社会の様々な問題に関心を持ち、地域や社会における自らの役割を主体的に選択・決定し、課題に向けて、主体的に学び行動することができる。

(3) 高い倫理観と社会的責任感

高い倫理観によって社会生活で守るべき規範を遵守することができ、社会の健全な維持・発展に主体的に寄与する姿勢を身に付けている。

備考

1. 各項目の実施組織および実施方法は、別に定める。
2. 各項目に対応する授業科目の数・単位数は、学部が定めるところによる

農学部 of 目的

農学部は、農学及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえうる幅広い素養と実行力を身に付けた人材を育成することを目的とする。

農学部各学科 of 目的

1. 応用生物科学科

生物の特性を理解し、生物の改良や活用を通して、社会に貢献できる人材を育成すること。

2. 生物環境科学科

(生物環境保全学コース)

地球上の環境や生態系を深く理解し、これらの保全、再生及び活用を通して、社会に貢献できる人材を育成すること。

(資源循環生産学コース)

生物科学及び生産情報科学の理論と技術を学び、環境に配慮した食糧生産と環境問題の解決に貢献できる人材を育成すること。

(地域社会開発学コース)

フィールドワークに基づく教育研究を通して、日本を含むアジア・太平洋諸地域における、持続可能な循環型地域社会の構築に貢献できる人材を育成すること。

3. 生命機能科学科

科学的思考力を備え、生命科学技術の応用を通して、食と健康の分野において社会に貢献できる人材を育成すること。

佐賀大学農学部 学位授与の方針

学部らなびに各学科の目的を実現するために、佐賀大学学士力を踏まえ、学生が身に付けるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。また、学則に定める卒業の認定の要件を満たした者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。

応用生物科学科

1. 基礎的な知識と技能

- (1) 文化と自然などに関する授業科目を有機的に関連付けて履修・修得し、文化的素養を身に付けている。
- (2) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術（ICT）などを用いて、多様な情報を収集・分析し、科学的合理性や科学的論理に基づいて判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (3) 微生物から植物や動物など、農学分野で扱う生物の基礎的な知識・技術を体系的に修得し、農学に関わる業務を遂行する職業人としての必要な実践能力を有する。

2. 課題発見・解決能力

- (1) 実践演習型学習や問題解決型学習を通して現代的な諸問題に関心・理解を持ち、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的な思考に基づいて、その問題の解決に取り組むことができる。
- (2) 微生物から植物や動物など、農学分野で扱う生物に関して深い学識や基礎的技術を持ち、課題の発見や解決に向けての思考力および行動力を身に付けている。
- (3) 演習や卒業研究などを通して人間理解に立った良い人間関係の形成、研究チームの一員としての協調・協働した行動、リーダーシップを発揮する率先した行動、後輩等に対する指導力などを身に付け、実践できる。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

- (1) 文化や伝統などの違いを踏まえて、平和な社会実現のために他者の立場で物事を考え、自然環境や社会的弱者に配慮することができる。
- (2) 問題解決型学習などを通して自己学習の習慣を身に付け、自己の生き方を考察し、主体的に社会的役割を選択・決定し、生涯学習を行う意欲と態度を有する。
- (3) 4年間の教育課程を通して高い倫理観と豊かな人間性を育み、社会生活で守るべき規範を順守し、自己の能力を社会の健全な発展に寄与しうる姿勢を身に付けている。

生物環境科学科

1. 基礎的な知識と技能

- (1) 市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能
様々な学問分野（自然、文化、社会）における基本概念や思考方法を理解し、現代社会の諸問題を自らの力で合理的かつ論理的に推論し判断することができる。
- (2) 市民社会の一員として思考し活動するための技能
 - ① 日本語による文書と会話で他者の意思を的確に理解し、自らの意思を表現し、他者の理解を得ることができる。
 - ② 英語を用いて知識を修得し、グローバル社会に向けて自らの考えを発信することができる。
 - ③ 情報を収集し、その適正を判断し、適切に活用・管理することができる。

(3) 専門分野に必要とされる基礎的な知識・技能

専門分野について、基本概念や原理を理解して説明することができ、一般的に用いられている重要な技法に習熟している。

2. 課題発見・解決能力

(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力

現代社会における諸問題を多面的に考察し、その解決に役立つ情報を収集し分析することができる。

(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力

専門分野の課題を発見し、その解決に向けて専門分野の知識と技法を応用することができる。

(3) 課題発見につながる協調性と指導力

課題解決のために、他者と協調・協働して行動ができ、また、他者に方向性を示すことができる。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力

歴史や文化・伝統などの違いを踏まえて、平和な社会の実現のために、自己と同時に他者の立場に立って物事を考えることができ、また自然環境や社会的弱者に配慮することができる。

(2) 地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力

地域や社会の様々な問題に関心を持ち、地域や社会における自らの役割を主体的に選択・決定し、課題に向けて、主体的に学び行動することができる。

(3) 高い倫理観と社会的責任感

高い倫理観によって社会生活で守るべき規範を遵守することができ、社会の健全な維持・発展に主体的に寄与する姿勢を身に付けている。

生命機能科学科

1. 基礎的な知識と技能

(1) 市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能に関する授業科目を履修・修得し、現代社会の諸問題を自らの力で合理的かつ論理的に推論し判断することができる。

(2) 市民社会の一員として思考し活動するための技能に関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術（ICT）などを用いて、多様な情報を収集・分析し、適切に活用・管理することができる。

(3) 農学分野（生命科学技术）の基礎的な知識・技術を体系的に修得し、農学に関わる業務を遂行する職業人としての必要な実践能力を有する。

2. 課題発見・解決能力

(1) 実践演習型学習や問題解決型学習を通して現代的な諸問題に関心・理解を持ち、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的な思考に基づいて、その問題の解決に取り組むことができる。

(2) 科学的思考力を備え、生命科学技术の応用を通して、食と健康の分野において社会に貢献できる。

(3) 演習や卒業研究などを通して人間理解に立った良い人間関係の形成、研究チームの一員としての協調・協働した行動、リーダーシップを発揮する率先した行動、後輩等に対する指導力などを身に付け、実践できる。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

- (1) 歴史や文化・伝統などの違いを踏まえて、平和な社会実現のために、自己と同時に他者の立場に立って物事を考え、自然環境や社会的弱者に配慮することができる。
- (2) 地域や社会の様々な問題に関心を持ち、地域や社会における自らの役割を主体的に選択・決定し、課題に向けて、主体的に学び行動することができる。
- (3) 4年間の教育課程を通して高い倫理観と豊かな人間性を育み、社会生活で守るべき規範を順守し、社会の健全な維持・発展に主体的に寄与する姿勢を身に付けている。

佐賀大学農学部 教育課程編成・実施の方針

1. 教育課程の編成

学位授与の方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

応用生物科学科

効果的な学習成果をあげるために、教養教育科目と専門教育科目を有機的かつ体系的に配置した4年間の教育課程を編成する。

(1) 基礎的な知識と技能

教養教育において、文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目）、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目（英語、情報リテラシー科目、大学入門科目、基本教養科目）を、必修および選択必修として幅広く履修できるように配置する。

教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年時から開講し、農学分野での専門課程における応用・発展的な学習に繋げる。

専門教育科目においても言語・情報・科学リテラシーに関する科目を配置し、農学分野での応用、発展が可能な知識と専門技術の修得を図る。

農学分野の基礎的な知識・技術を体系的に身に付けるために専門科目を1年次から配置するとともに、実験科目を2年時から配置する。

(2) 課題発見・解決能力

教養教育において、さまざまな課題を探索し、少人数クラスでの検討を通じて解決の道を探るための授業科目を、初年次の必修として配置する（大学入門科目）。また、現代的な課題を発見・探索し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけさせるための科目を、選択として配置する（インターフェース科目）。

農学分野の基礎的な知識・技術を体系的に身に付けるために専門科目を1年次から配置するとともに、実験科目を2年時から、演習科目を3年時から、卒業研究を4年時に配置する。

農学分野における課題発見と解決能力の習得のために、情報収集・分析力、研究技能と研究マインド、リーダーシップを発揮する指導力などの養成に関する実験・演習科目及び卒業研究を配置する。

応用生物科学に関する専門的な知識、技術を修得し、農学に関わる業務を遂行する職業人としての実践能力を養うために、インターフェース科目を2年次から配置する。

(3) 個人と社会の持続的発展を支える力

教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を選択必修として幅広く履修できるように配慮する（インターフェース科目）。

社会との関わりを理解し、持続的な自己実現を図るための能力、習慣を身に付けるために、インターフェース科目およびインターンシップを配置する。学部専門科目として、問題解決型学習方式で実施する各研究分野での実験を配置する。

各研究室への配属は3年次前学期に行われ、卒業研究修了まで専門的な研究環境を長期間経験することにより、学士（農学）として十分な専門知識と先端技術を習得するとともに、研究チームの一員としての協調性、高い倫理観と豊かな人間性を養う専門科目（各研究分野実験、卒業研究など）を配置する。

生物環境科学科

効果的な学習成果をあげるために、教養教育科目と専門教育科目を有機的かつ体系的に配置した4年間の教育課程を編成する。

(1) 基礎的な知識と技能

教養教育において、文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目）、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目（英語、情報リテラシー科目、大学入門科目、基本教養科目）を、必修および選択必修として幅広く履修できるように配置する。

教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年時から開講し、基礎的な汎用技能を修得

した上で、農学分野での専門課程における応用・発展的な学習に繋げる。

専門教育科目においても言語・情報・科学リテラシーに関して、農学分野での応用、発展が可能な知識と専門技術の修得を図る。

農学分野の基礎的な知識・技術を体系的に学習するために、1年前期に専門基礎科目を、1年次から2年次に農学基礎科目を選択必修科目として配置する。1年後期は学科を構成する3コースの専門領域を理解するために3科目の専門必修を配置する。2年前期からは、各コースが指定する履修モデルに応じて専門科目を配置する。

(2) 課題発見・解決能力

教養教育において、さまざまな課題を探索し、少人数クラスでの検討を通じて解決の道を探るための授業科目を、初年次の必修として配置する（大学入門科目）。また、現代的な課題を発見・探索し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけさせるための科目を、選択として配置する（インターフェース科目）。

農学分野の基礎的な知識・技術を体系的に身に付けるために専門基礎科目（基礎数学、物理学、生物学、化学）と農学基礎科目（作物生産学、動物資源開発学、生物化学、土壌学、食料流通経済学）を1・2年次に、科学英語を3年後期に配置する。また、専門の情報リテラシー科目として1年後期に生産情報処理学Ⅰを配置する。

農学分野における課題発見と解決能力の修得のために、情報収集・分析力、研究技能と研究マインド、リーダーシップを発揮する指導力などの養成に関する講義科目、実験・演習科目及び卒業研究を専門科目として配置する。

生物環境科学に関する専門的な知識、技術を修得し、農学に関わる業務を遂行する職業人としての実践能力を養うために、専門科目（必修および選択）と実験科目、演習科目を1年次後学期から4年次まで体系的に配置する。

(3) 個人と社会の持続的発展を支える力

教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を選択必修として幅広く履修できるように配慮する（インターフェース科目）。

社会との関わりを理解し、持続的な自己実現を図るための能力、習慣を身に付けるために、学部専門科目として、問題解決型学习方式で実施する演習やインターンシップを配置する。

各コースへの配置は2年次前学期に行われ、さらに2年次後学期（資源循環生産学コース）あるいは3年次前学期（生物環境保全学コース、地域社会開発学コース）には、コース内において、各教育研究分野への配属が行われ、卒業研究修了まで専門的な研究環境を長期間経験することにより、学士（農学）として十分な専門知識と先端技術を修得するとともに、研究チームの一員としての協調性、高い倫理観と豊かな人間性を養う専門科目（卒業研究など）を配置する。

生命機能科学科

効果的な学習成果をあげるために、教養教育科目と専門教育科目を有機的かつ体系的に配置した4年間の教育課程を編成する。

(1) 基礎的な知識と技能

教養教育において、文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目）、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目（英語、情報処理科目）を、必修および選択必修として幅広く履修できるように配置する。

教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、農学分野での専門課程における応用・発展的な学習に繋げる。

専門教育科目においても言語・情報・科学リテラシーに関して、農学分野での応用、発展が可能な知識と専門技術の修得を図る。

基礎化学を体系的に学習し、これらを理解し応用する能力の育成を目指すため、1年次に専門基礎科目3科目、専門科目4科目を必修科目、2年前期に専門科目6科目を必修科目として配置する。

また、農学分野の基礎的な知識・技術を体系的に学習するために、農学基礎科目を1年次から2年次に選択必修科目として配置する。さらに、実験を通じて専門的知識・技術を修得するために、必修の実験科目を2年次後学期から3年次前学期に連続的に配置する。

(2) 課題発見・解決能力

教養教育において、さまざまな課題を探索し、少人数クラスでの検討を通じて解決の道を探るための授業科目を、

初年次の必修として配置する（大学入門科目Ⅰ）。また、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけさせるための科目を、選択として配置する（インターフェース科目）。

生物機能や生物資源を中心とする生命化学を体系的に学習し、これらを理解し応用する能力の育成を目指すために必要な基礎から応用に至る化学的な教養及び実践的な研究能力を身に付けることを目標として、基礎からより専門性の高い科目を年次進行で配置したカリキュラムを実施する。

修得した知識、技能を活用し、直面する諸問題を正確に解析する能力と自発的に方策を立て問題解決を図る実践应用能力を養うために、4年次に卒業研究を含む専門2科目を必修科目として配置し、演習を選択科目として配置する。

(3) 個人と社会の持続的発展を支える力

教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を選択必修として幅広く履修できるように配慮する（インターフェース科目）。

様々な問題に積極的に関心を持ち調査する能力や、自主的・自立的に学習する習慣を身に付けるために、専門科目としてインターンシップ科目（選択）を配置する。

専門的な研究環境を長期間経験する目的から3年次後学期に研究室分属を行い、午後の時間は専門外書講読、引き継ぎ実験を行い、研究チームの一員としての協調性、倫理感と豊かな人間性を養う。

（別紙）生命機能科学科における教育目標を達成するための授業科目の流れ（カリキュラムマップ）

2. 教育の実施体制

- (1) 授業科目の教育内容ごとに、その分野の授業を行うのに適した専門性を有する教員が講義・演習・実験実習等を担当するように担当教員を配置する。
- (2) 各授業科目に主担当教員を置き、複数の担当教員により実施する授業の一貫性を担保するなど、授業科目を統括する。
- (3) 学部に教育担当副学部長（教育委員長）を、各学科に教育委員を置き、教育内容および実施の整合性・統合性を図る。

3. 教育・指導の方法

- (1) 講義による知識の学習と、演習や実験実習による実証的学習や体験学習とをバランスよく組み合わせて学習成果を高める。
- (2) 全ての学生にチューター（指導教員）を配置し、GPAを利用した、きめ細かな履修指導や学習支援を行う。
- (3) 各教員は、全ての授業科目について学生による授業評価を実施し、その結果を踏まえて授業改善報告書を作成する。また、教育方法の改善のためのFDを推進し、各教員はFD活動に積極的に参加する。
- (4) 各教員は実習科目や演習科目において、可能な限りTAを採用し、学部教育の改善を図り、各学期末にはTA報告書を作成する。
- (5) 各学科・コースは大学入門科目やインターンシップなどの授業科目において、可能な限りキャリア教育の充実を図る。
- (6) 各学科・コースはeラーニングやLMSなどの新しい教育方法を積極的に導入して、教育方法の改善を図る。

4. 成績の評価

- (1) 各授業科目の学習内容、到達目標、成績評価の方法・基準をオンラインシラバスにより学生に周知し、それに則した厳格な成績評価を行う。
- (2) 各学科・コースは定められた基準によって学修到達度を評価し、コース分属や分野分属、卒業研究履修認定を行う。

表 応用生物科学科における教育目標を達成するための授業科目の流れ（カリキュラムマップ）

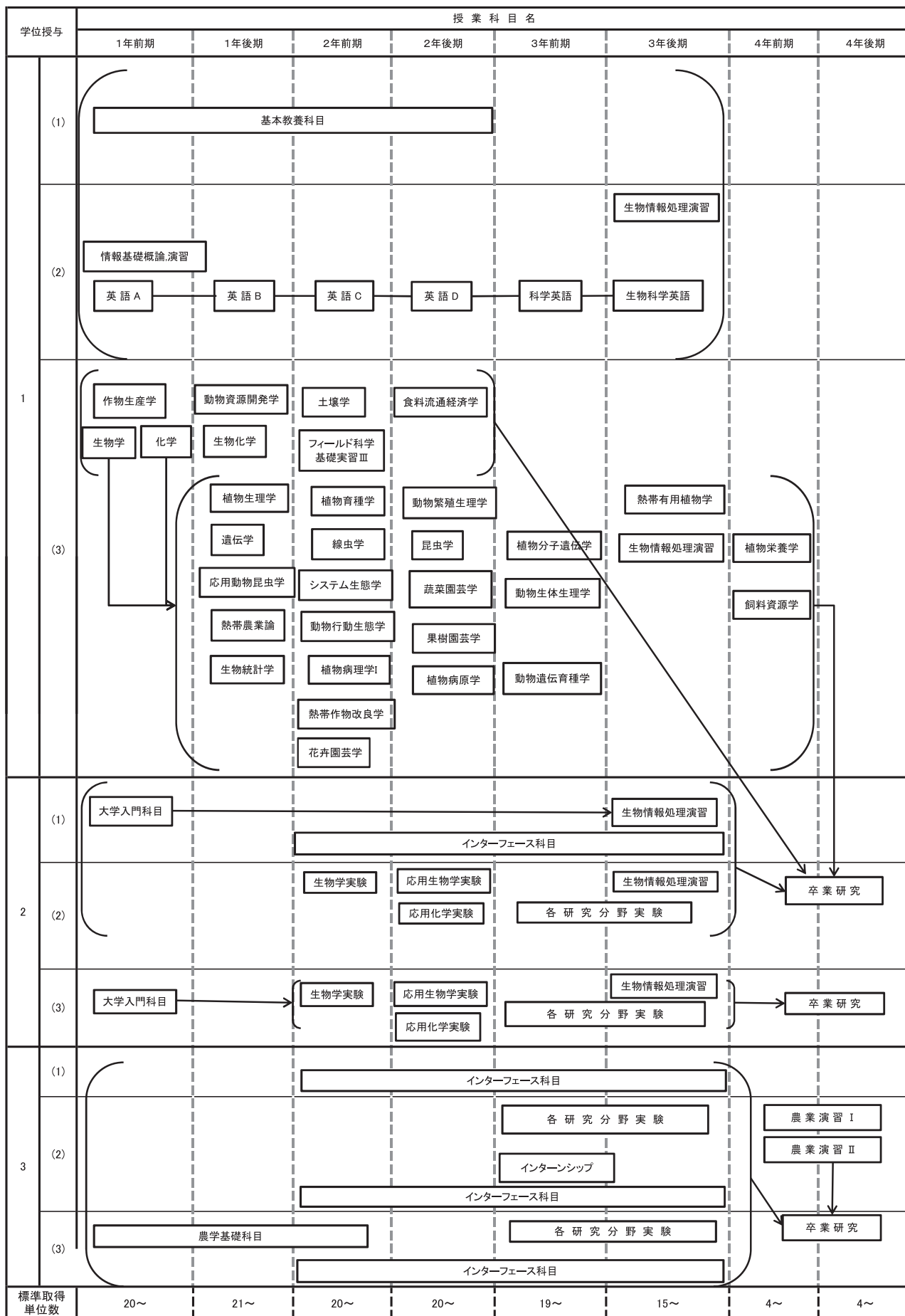


表 生物環境科学科（生物環境保全学コース）における教育目標を達成するための授業科目の流れ（カリキュラムマップ）

学位授与		授 業 科 目 名							
		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
1	(1)	基本教養科目							
	(2)	情報基礎概論・ 情報基礎演習Ⅰ 英語A	英語B	英語C	英語D	英書講読	科学英語		
	(3)	作物生産学 生物学 化学 物理学 基礎数学	動物資源開発学 生物化学	土壌学	食料流通経済学			卒業研究	
2	(1)	大学入門科目	生産情報 処理学Ⅰ		生物統計学	英書講読	科学英語		
	(2)		生物環境 保全学概説 資源循環 生産学概説 地域社会 開発学概説	環境化学 水環境学 環境基礎 解析学 植物生態 生理学 植物栄養学	環境汚染化学 地球環境学 土壌環境科学 応用力学 気象水文学	地盤環境学 環境水理学Ⅰ・ 同演習Ⅰ 土壌微生物学 システム生態学 農村環境計画学	現代環境学 環境水理学Ⅱ・ 同演習Ⅱ 地盤環境学Ⅱ 環境浄化生物学 干潟環境学		
	(3)	大学入門科目		実験水気圏 環境学	実験生物環境 保全学	測地学Ⅰ・ 同演習Ⅰ	測地学Ⅱ・ 同演習Ⅱ	卒業研究	
3	(1)			インターフェース科目					
	(2)					インターンシップⅠ	生物環境 保全学演習		
	(3)							卒業研究	
標準取得 単位数		20	23	20～	18～	19～	18～	6	4

表 生物環境科学科（資源循環生産学コース）における教育目標を達成するための授業科目の流れ（カリキュラムマップ）

学位授与	授 業 科 目 名							
	1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期	3 年前期	3 年後期	4 年前期	4 年後期
1	基本教養科目							
	(1)	資源循環生産学概説						
	(2)	英語A 情報基礎概論 情報基礎演習Ⅰ	英語B 生産情報処理Ⅰ	英語C 生産情報処理Ⅱ	英語D フィールド科学基礎実習Ⅰ	科学英語		
2	(3)	作物生産学 生物学 物理学 化学 基礎数学	動物資源開発学 生産情報処理Ⅰ	土壌学 生産情報処理Ⅱ フィールド科学基礎実習Ⅰ	食料流通経済学 フィールド科学基礎実習Ⅱ	生物物理化学 微生物学 植物分子遺伝学 生化学	物理化学 植物生理学 分子生物学	生物有機化学 遺伝子工学 分子細胞生物学
				エネルギー利用学 農業生産機械学	設計・製図学	CAD利用学		
3	(1)	大学入門科目	インターフェース科目					
	(2)		生物環境保全学概説 資源循環生産学概説 地域社会開発学概説	栽培環境制御学 植物遺伝資源学 植物生態生理学	農業食品流通貯蔵学 応用動物昆虫学 経営資源管理学 栄養化学 果樹生産生理学	農業資源物質工学 土壌微生物学 動物生産管理学 生産エンジニアリング 雑草学 飼料資源学 植物病理学Ⅰ 食料流通貯蔵学 環境水利学Ⅰ 動物生態生理学 応用微生物学 応用力学 植物育種学 動物遺伝育種学 園芸植物繁殖学	食作物学 環境浄化生物学 食品化学 植物病原学 農業政策論 蔬菜園芸学 果樹園芸学 生物資源化学 農産物利用学 食品衛生学	卒業研究
	(3)	大学入門科目	生物科学実験実習	環境科学演習	作物学実験実習Ⅰ 資源循環生物学実験実習Ⅰ 資源循環フィールド科学実習Ⅰ 植物遺伝資源学実験実習Ⅰ フィールド科学総合実習 動物資源開発学実験Ⅰ	作物学実験実習Ⅱ 園芸工学実験実習Ⅱ 資源循環生物学実験実習Ⅱ 資源循環フィールド科学実習Ⅱ 植物遺伝資源学実験実習Ⅱ 遺伝資源フィールド科学実習 動物資源開発学実験Ⅱ	作物学演習Ⅰ 園芸工学演習Ⅰ 資源循環生物学演習Ⅰ 資源循環フィールド科学演習Ⅰ 植物遺伝資源学演習Ⅰ	作物学演習Ⅱ 園芸工学演習Ⅱ 資源循環生物学演習Ⅱ 資源循環フィールド科学演習Ⅱ 植物遺伝資源学演習Ⅱ
4	(1)		インターフェース科目					
	(2)			インターンシップⅠ・Ⅱ				
	(3)						卒業研究	
標準取得単位数		20	23	20	20	20	4～	4～

表 生物環境科学科（地域社会開発学コース）における教育目標を達成するための授業科目の流れ（カリキュラムマップ）

学位授与	授 業 科 目 名							
	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
1	基本教養科目							
	大学入門科目							
	英語A 情報基礎概論 情報基礎演習Ⅰ	英語B	英語C	英語D	科学英語			
2	作物生産学 生物学 物理学	動物資源開発学 生物化学 生産情報処理学Ⅰ	土壌学 フィールドワーク 基礎実習Ⅰ	食料流通経済学				
		地域社会 開発学概説	地域資源論 人類生態学 地域ビジネス開発論 農業政策論 国際環境農業論	観光人類学 環境地理学 人間開発学 環境社会学 経営資源管理学	アジア栄養生態学 生態人類学 食料市場論 農業会計学			
	大学入門科目		インターフェース科目					
3		地域社会 開発学概説 生物環境 保全学概説 資源循環 生産学概説	システム生態学 環境基礎解析学 栽培環境制御学 植物病理学Ⅰ エネルギー利用学 生産情報処理学Ⅱ	環境保全型農業論 土壌環境科学 農村環境計画学 土壌微生物学	社会統計学 農村環境計画学 土壌微生物学 農業資源物質工学	農村開発学 地域社会論 国際健康開発論 半島・島嶼産業論 農業技術経営学入門 アジア比較農業論 食用作物学 熱帯有用作物学		
			フィールドワーク 基礎演習		地域資源学演習Ⅰ 人類生態学演習Ⅰ 島嶼社会経済学演習Ⅰ アジアフィールドワーク	地域資源学演習Ⅱ 人類生態学演習Ⅱ 島嶼社会経済学演習Ⅱ 地域ビジネス開発学演習Ⅰ	地域ビジネス開発学 演習Ⅱ	
			フィールドワーク 基礎演習		アジアフィールドワーク		卒業研究	
4			インターフェース科目				卒業研究	
			フィールドワーク 基礎演習		アジアフィールドワーク		卒業研究	
			インターフェース科目				卒業研究	
5			フィールドワーク 基礎演習		アジアフィールドワーク		卒業研究	
			インターフェース科目				卒業研究	
			フィールドワーク 基礎演習		アジアフィールドワーク		卒業研究	
6			インターフェース科目				卒業研究	
			フィールドワーク 基礎演習		アジアフィールドワーク		卒業研究	
			インターフェース科目				卒業研究	
標準取得 単位数	20	23	20	20	20	20	4～	4～

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ（生命機能科学科）

学位授与		授 業 科 目 名							
		1年・前期	1年・後期	2年・前期	2年・後期	3年・前期	3年・後期	4年・前期	4年・後期
1	(1)	基 本 教 養 科 目							
	(2)	情報基礎概論 情報基礎演習Ⅰ			化学実験Ⅰ 化学実験Ⅱ	微生物学実験 生化学実験		生物学基礎実験 演習	卒業研究
	(3)	英語A 科学英語	英語B	英語C	英語D		専門外書講読		
2	(1)	作物生産学 基礎数学 物理学 化学 生物学 科学英語	動物資源開発学 物理化学 有機化学 分析化学 生物化学	土壌学 生物有機化学 生化学 生物物理化学 微生物学 生命化学概説 食糧科学概説	食糧流通経済学 食品衛生学 栄養化学 食品化学 分子生物学 化学実験Ⅰ 化学実験Ⅱ	微生物学実験 生化学実験			
	(2)				食品衛生学 栄養化学 食品化学 分子生物学	食糧安全学 食品工学 食品機能化学 応用微生物学 農産物利用学 食糧流通貯蔵学	海洋生物資源化学 生物資源化学 遺伝子工学 分子細胞生物学 基礎放射線科学	生物学基礎 実験演習	卒業研究
	(3)	大学入門科目Ⅰ			化学実験Ⅰ 化学実験Ⅱ	微生物学実験 生化学実験		生物学基礎 実験演習	卒業研究
3	(1)								
	(2)								
	(3)								
標準取得単位数		22	23	22	18	21	16	7	4

応用生物科学科 標準履修モデル

	専門基礎科目 (化学および 生物必修)	農学基礎科目 (3科目 選択必修)	専 門 科 目 (必 修)	専 門 科 目 (選 択)	教 養 教 育 科 目	単位数
4年後期			卒業研究	農業演習Ⅱ		4単位～ 6単位 (卒業研究を 1/2とする)
4年前期			卒業研究	植物栄養学 飼料資源学 (or動物生体生理学) 農業演習Ⅰ		4単位～ 8単位 (卒業研究を 1/2とする)
3年後期			生物科学英語 生物情報処理演習	食用作物学 農業政策論 経営資源管理学 熱帯有用植物学 分野実験Ⅱ	基本教養科目(1科目) インターフェース科目	15単位～ 20単位
3年前期			科学英語	植物分子遺伝学 植物生態生理学 動物遺伝育種学 動物生体生理学 (or飼料資源学) 動物生産管理学 分野実験Ⅰ	基本教養科目(1科目) インターフェース科目	19単位～ 22単位
2年後期		食料流通経済学	果樹園芸学 応用生物学実験 応用化学実験 蔬菜園芸学	植物病原学 昆虫学 動物繁殖生理学 フィールド科学基礎実習Ⅳ	基本教養科目(1科目) 英語D インターフェース科目	20単位～ 22単位
2年前期		土壌学	植物病理学Ⅰ 生物学実験 植物育種学 フィールド科学基礎実習Ⅲ	熱帯作物改良学 線虫学 動物行動生態学 システム生態学 花卉園芸学	基本教養科目(2科目) 英語C インターフェース科目	20単位～ 22単位
1年後期		動物資源開発学 生物化学	応用動物昆虫学 植物生理学 生物統計学 熱帯農業論 遺伝学		基本教養科目(3科目) 英語B	21単位～ 23単位
1年前期	基礎数学 物理学 化学 生物学	作物生産学			大学入門科目 基本教養科目(2科目) 情報基礎概論 情報基礎演習Ⅰ 英語A	20単位～ 22単位
卒業要件 単 位	4(2科目)	6(3科目)	36(17科目)	43(23科目)	37	126

生物環境科学科・生物環境保全学コース 標準履修モデル

	専門基礎科目 (2科目選択必修) (全科目受講推奨)	農学基礎科目 (3科目選択必修) (*コース推奨)	専 門 科 目 (必 修)	専 門 科 目 (選 択)	教 養 教 育 科 目	単位数
4 年後期			卒業研究			4 単位 (卒業研究を 1/2とする)
4 年前期			卒業研究 生物環境保全学演習			6 単位 (卒業研究を 1/2とする)
3 年後期			科学英語	現代環境学 環境水理学Ⅱ 環境水理学演習Ⅱ 地盤環境学Ⅱ 測地学Ⅱ 測地学演習Ⅱ 環境浄化生物学 干潟環境学	インターフェース科目(Ⅳ)	18単位～ 20単位
3 年前期				地盤環境学 測地学Ⅰ 測地学演習Ⅰ 環境水理学Ⅰ 環境水理学演習Ⅰ 土壌微生物学 システム生態学 インターンシップⅠ 英書講読 農村環境計画学	インターフェース科目(Ⅲ)	19単位～ 21単位
2 年後期		食料流通経済学	実験生物環境保全学	環境汚染化学 地球環境学 土壌環境科学 応用力学 気象水文学 生物統計学	基本教養科目(1科目) インターフェース科目(Ⅱ) 英語D	18単位～ 20単位
2 年前期		土壌学*	実験水気圏環境学	植物生態生理学 植物栄養学 環境化学 水環境学 環境基礎解析学	インターフェース科目(Ⅰ) 基本教養科目(3科目) 英語C	20単位
1 年後期		動物資源開発学 生物化学*	生物環境保全学概説 資源循環生産学概説 地域社会開発学概説	生産情報処理学Ⅰ	基本教養科目(4科目) 英語B	23単位
1 年前期	基礎数学 物理学 化学 生物学	作物生産学*			基本教養科目(2科目) 大学入門科目Ⅰ 情報基礎概論 情報基礎演習Ⅰ 英語A	20単位
卒業要件 単 位	4(2科目)	6(3科目)	22(8科目)	57(29科目)	37	126

生物環境科学科・資源循環生産学コース 標準履修モデル

	専門基礎科目 (2科目 選択必修)	農学基礎科目 (3科目 選択必修)	専 門 科 目 (必 修)	専 門 科 目 (選 択)	教 養 教 育 科 目	単位数
4年後期			卒業研究	作物学演習Ⅱ 園芸工学演習Ⅱ 資源循環生物学演習Ⅱ 資源循環フィールド科学演習Ⅱ 植物遺伝資源学演習Ⅱ		4単位～ (卒業研究を 1/2とする)
4年前期			卒業研究	作物学演習Ⅰ 園芸工学演習Ⅰ 資源循環生物学演習Ⅰ 資源循環フィールド科学演習Ⅰ 植物遺伝資源学演習Ⅰ		4単位～ (卒業研究を 1/2とする)
3年後期			科学英語 (計2単位)	生物学実験実習Ⅱ 園芸工学実験実習Ⅱ 資源循環生物学実験実習Ⅱ 遺伝資源フィールド科学実習 植物遺伝資源学実験実習Ⅱ 食用作物学 CAD利用学 環境浄化生物学	インターフェース科目	20単位
3年前期				生物学実験実習Ⅰ 園芸工学実験実習Ⅰ 資源循環生物学実験実習Ⅰ 遺伝資源フィールド科学実習Ⅰ 植物遺伝資源学実験実習Ⅰ 農業資源物質工学 土壌微生物学 動物生産管理学 設計・製図学 生産エンジニアリング 園芸植物繁殖学 フィールド科学総合実習 雑草学	インターフェース科目	20単位
2年後期		食料流通経済学	環境保全型農業論 農業生産機械学 フィールド科学基礎実習Ⅱ (計5単位)	環境科学演習(分野演習) 農産食品流通貯蔵学 果樹生産生理学	インターフェース科目 基本教養科目(1科目) 英語D	20単位
2年前期		土壌学	栽培環境制御学 生物科学実験実習 フィールド科学基礎実習Ⅰ	生産情報処理学Ⅱ エネルギー利用学 植物遺伝資源学 植物生態生理学	インターフェース科目 基本教養科目(3科目) 英語C	20単位
1年後期		動物資源開発学 生物化学	生物環境保全学概説 資源循環生産学概説 地域社会開発学概説 (計6単位)	生産情報処理学Ⅰ	基本教養科目(4科目) 英語B	23単位
1年前期	基礎数学 物理学 化学 生物学	作物生産学			大学入門科目Ⅰ 基本教養科目(2科目) 情報基礎概論 情報基礎演習Ⅰ 英語A	20単位
卒業要件 単 位	4(2科目)	6(3科目)	26(11科目)	53	37	126

生物環境科学科・地域社会開発学コース 標準履修モデル

	専門基礎科目 (2科目 選択必修)	農学基礎科目 (3科目 選択必修)	専 門 科 目 (必 修)	専 門 科 目 (選 択)	教 養 教 育 科 目	単位数
4年後期			卒業研究			4単位 (卒業研究を 1/2とする)
4年前期			卒業研究	地域ビジネス開発学演習 II		4単位 (卒業研究を 1/2とする)
3年後期			科学英語	アジア比較農業論(隔年・集中) 農業技術経営学入門 農村開発学 地域社会論 国際健康開発論 半島・島嶼産業論 地域資源学演習II 人類生態学演習II 地域ビジネス開発学演習I 島嶼社会経済学演習II 熱帯農業論 食用作物学 熱帯有用作物学 生物統計学 農業技術経営学入門 アジア栄養生態学	インターフェース科目	20単位
3年前期				環境保全型農業論 土壌環境科学 農村環境計画学 生態人類学 食料市場論 農業会計学 社会統計学 地域資源学演習I 人類生態学演習I 地域ビジネス開発学演習I 島嶼社会経済学演習I アジアフィールドワーク インターンシップI・II 土壌微生物学 植物病理学I エネルギー利用学 生産情報処理学II 農業資源物質工学	インターフェース科目 基本教養科目(2科目)	22単位
2年後期		食料流通経済学		観光人類学 環境地理学 人間開発学 環境社会学 経営資源管理学 農業政策論	インターフェース科目 基本教養科目(2科目) 英語D	20単位
2年前期		土壌学	地域資源論 人類生態学 地域ビジネス開発論 フィールドワーク基礎演習 フィールド科学基礎実習I	システム生態学 環境基礎解析学 栽培環境制御学 国際環境農業論	インターフェース科目 基本教養科目(2科目) 英語C	20単位～ 22単位
1年後期		動物資源開発学 生物化学	生物環境保全学概説 資源循環生産学概説 地域社会開発学概説	生産情報処理学I	基本教養科目(3科目) 英語B	21単位～ 23単位
1年前期	基礎数学 物理学 化学 生物学	作物生産学			大学入門科目 基本教養科目(1科目) 情報基礎概論 情報基礎演習I 英語A	20単位
卒業要件 単 位	4(2科目)	6(3科目)	24(10科目)	55	37	126

生命機能科学科 標準履修モデル

	専門基礎科目 (必修)	農学基礎科目 (3科目 選択必修)	専 門 科 目 (必 修)	専 門 科 目 (選 択)	教 養 教 育 科 目	単位数
4年後期			卒業研究			4単位 (卒業研究を 1/2とする)
4年前期			卒業研究 生物学基礎実験	演習		7単位 (卒業研究を 1/2とする)
3年後期				分子細胞生物学 海洋生物資源化学 生物資源化学 遺伝子工学 専門外書講読 基礎放射線科学	基本教養科目(1科目) インターフェース科目 (1科目)	16単位
3年前期			微生物学実験 生化学実験	食糧安全学 食品工学 食品機能化学 応用微生物学 農産物利用学 食糧流通貯蔵学 インターンシップ I 植物栄養学	基本教養科目(1科目) インターフェース科目 (1科目)	21単位
2年後期		食料流通経済学	食品衛生学 栄養化学 食品化学 分子生物学 化学実験 I 化学実験 II		基本教養科目(1科目) インターフェース科目 (1科目) 英語D	19単位
2年前期		土壌学	生物有機化学 生化学 生物物理化学 微生物学 生命化学概説 食糧科学概説		基本教養科目(2科目) インターフェース科目 (1科目) 英語C	21単位
1年後期		動物資源開発学 生物化学	物理化学 有機化学 分析化学	遺伝学 植物生理学 生物統計学	基本教養科目(3科目) 英語B	23単位
1年前期	基礎数学 (選択) 物理学 化学 生物学	作物生産学	科学英語		大学入門科目 I 基本教養科目(2科目) 英語A 情報基礎概論 情報基礎演習 I	22単位
卒業要件 単 位	6	6	45	32	37	126

2 カリキュラム表の見方

専門教育科目の授業科目が、学科・コース別に次ページ以降の表に示されている。表の見方は、以下のとおりである。

1 各学科・コース毎のカリキュラム（Curriculum，履修課程）表が記載されている。学生は、自分が所属している学科・コースの授業科目を中心に履修する。また、必要に応じて、他学科・他コースや他学部の授業科目も履修する。

2 学科・コース毎に専門基礎科目，農学基礎科目，専門科目の順に授業科目が配列されている。

専門基礎科目は，3 学科の学生が共通して履修する。

- ・応用生物科学科は，「化学」及び「生物学」は，必修科目である。
- ・生物環境科学科は，2 科目（4 単位）を選択して履修しなければならない。
- ・生命機能科学科は，「物理学」，「化学」及び「生物学」は，必修科目である。

農学基礎科目は，3 学科の学生が共通して履修する。

- ・3 学科共に3 科目（6 単位）を選択して履修しなければならない。

専門科目は，各学科・コース別にカリキュラムが開設してあるので，それぞれ所属の学科・コースのカリキュラムを履修する。

3 「配当年次」の欄には，受講対象学年が記載されている。受講対象学年より下の学年の学生は，その授業科目を履修することができない。

4 「単位数」の欄には，「必修」，「選必」，「選択」，「教職」の区分に数字が記載されているが，数字は，科目の単位数である。

「必修」は，必修科目であり，必ず履修しなければならない。

「選必」は，選択必修科目であり，指定された科目の中から，指定された科目数を選んで履修しなければならない。

「選択」は，選択科目であり，必修科目，選択必修科目以外の科目で卒業要件単位に含まれる。

「教職」は，教職免許状取得のためのみのための科目であり，卒業要件単位には含まない。

5 「開講時期」は，学年及び開講学期に“○”が記載されている。

6 「資格及び免許」は，教員免許状及び大学卒業後に得られる資格を取得するために必要な授業科目の所定の欄に，以下の印を付けて示している。

・「☆」の印は，「理科」教員免許のための科目である。

・「★」の印は，「農業」教員免許のための科目である。

なお，上記の詳細については，P 67 の「教員免許状」を参照のこと。

・「○」の印は，応用生物科学科及び生物環境科学科（資源循環生産学コース）の科目であり，「家畜人工受精師」の受験資格を取得するための科目である。

・「◆」の印は，生物環境科学科（生物環境保全学コース）の科目であり，「測量士補」の資格を取得するための科目である。

・「◇」の印は，生物環境科学科（生物環境保全学コース）の科目であり，「土木施工管理技士」の受験資格を取得するための科目である。

・「◎」及び「●」の印は，生命機能科学科の科目であり，「食品衛生管理者」と「食品衛生監視員」の資格を取得するための科目である。

※上記の詳細については，P 88 の「大学卒業後に得られる資格」を参照のこと。

授 業 科 目 名	配 当 年 次	単 位 数				開 講 時 期								資格及び免許			備 考
						1 年		2 年		3 年		4 年		教員免許		家畜	
		必修	選必	選択	教職	前	後	前	後	前	後	前	後	理科	農業	人工	
(農学部応用生物科学科) 《専門教育科目》 〈専門基礎科目〉																	
基礎数学	1			2		○											
物理学	1			2		○											
化学	1	2				○								☆			
生物学	1	2				○								☆			
〈農学基礎科目〉																	
作物生産学	1		2			○											3 科目 6 単位 選択必修
動物資源開発学	1		2				○								★	○	
生物化学	1		2				○										
土壌学	2		2					○									
食料流通経済学	2		2						○								
〈専門科目〉																	
植物生理学	1	2					○							☆			
熱帯農業論	1	2					○								★		
遺伝学	1	2					○							☆			
応用動物昆虫学	1	2					○								★		
生物統計学	1	2					○								★		
植物育種学	2	2						○							★		
植物病理学Ⅰ	2	2						○						☆			
線虫学	2			2				○						☆			
システム生態学	2			2				○						☆			
動物行動生態学	2			2				○						☆			
花卉園芸学	2			2				○							★		
フィールド科学基礎実習Ⅲ	2	1						○							★	○	
生物学実験	2	1						○						☆			
応用化学実験	2	1							○					☆			
熱帯作物改良学	2			2				○						☆			
果樹園芸学	2	2							○						★		
蔬菜園芸学	2	2							○					☆			
動物繁殖生理学	2			2					○					☆		○	
植物病原学	2			2					○					☆			
昆虫学	2			2					○					☆			
応用生物学実験	2	1							○					☆			
フィールド科学基礎実習Ⅳ	2			1					○						★	○	
農業政策論	2			2					○								
植物分子遺伝学	3			2						○				☆			
動物遺伝育種学	3			2						○				☆		○	
動物生体生理学	3			2						○				☆		○	
植物生態生理学	3			2						○							
植物栄養学	3			2						○							
動物生産管理学	3			2						○						○	
科学英語	3	2								○					★		
生物科学英語	3	2									○				★		

授 業 科 目 名	配 当 年 次	単 位 数				開 講 時 期								資格及び免許			備 考
						1 年		2 年		3 年		4 年		教員免許		家畜 人工	
		必修	選必	選択	教職	前	後	前	後	前	後	前	後	理科	農業		
インターンシップⅠ	3			1						○	○						集中講義※
インターンシップⅡ	3			2						○	○						集中講義※
植物代謝解析学実験Ⅰ	3			1						○					★		
果樹園芸学実験Ⅰ	3			1						○					★		
熱帯作物改良学実験Ⅰ	3			1						○					★		
蔬菜花卉園芸学実験Ⅰ	3			1						○					★		
植物分子育種学実験Ⅰ	3			1						○					★		
動物資源開発学実験Ⅰ	3			1						○					★	○	
植物病理学実験Ⅰ	3			1						○					★		
線虫学実験Ⅰ	3			1						○					★		
昆虫学実験Ⅰ	3			1						○					★		
生態学実験Ⅰ	3			1						○					★		
熱帯有用植物学	3			2							○				★		
飼料資源学	3			2						○					★	○	隔年集中講義
経営資源管理学	2			2					○								
食用作物学	3			2							○						
生物情報処理演習	3	2									○				★		
植物代謝解析学実験Ⅱ	3			1							○				★		
果樹園芸学実験Ⅱ	3			1							○				★		
熱帯作物改良学実験Ⅱ	3			1							○				★		
蔬菜花卉園芸学実験Ⅱ	3			1							○				★		
植物分子育種学実験Ⅱ	3			1							○				★		
動物資源開発学実験Ⅱ	3			1							○				★	○	
植物病理学実験Ⅱ	3			1							○				★		
線虫学実験Ⅱ	3			1							○				★		
昆虫学実験Ⅱ	3			1							○				★		
生態学実験Ⅱ	3			1							○				★		
農業演習Ⅰ	4			2								○			★		
農業演習Ⅱ	4			2									○		★		
卒業研究	4	8										○	○				

※インターンシップⅠとインターンシップⅡは、4年後学期は履修できない。

授 業 科 目 名	配 当 年 次	単 位 数				開 講 時 期								資 格 及 び 免 許					備 考
						1 年		2 年		3 年		4 年		教員免許		測量 士補	土木 施工	自然 再生	
		前	後	前	後	前	後	前	後	理科	農業								
(農学部生物環境科学科) (生物環境保全学コース) 《専門教育科目》 〈専門基礎科目〉																			
基礎数学	1		2			○													2 科目 4 単位 選択必修
物理学	1		2			○								☆					
化学	1		2			○								☆					
生物学	1		2			○								☆					
〈農学基礎科目〉																			
作物生産学	1		2			○									★				3 科目 6 単位 選択必修
動物資源開発学	1		2				○												
生物化学	1		2				○												
土壌学	2		2					○							★				
食料流通経済学	2		2						○						★				
〈専門科目〉																			
生物環境保全学概説	1	2					○								★				
資源循環生産学概説	1	2					○								★				
地域社会開発学概説	1	2					○								★				
生産情報処理学Ⅰ	1			2			○								★				
環境基礎解析学	2			2				○							★				
環境化学	2			2				○						☆				●	集中講義
水環境学	2			2				○							★		◇	●	
実験水気圏環境学	2	2						○						☆			◇	●	
植物栄養学	2			2				○							★			●	
システム生態学	2			2				○						☆				●	
植物生態生理学	2			2				○						☆				●	
実験生物環境保全学	2	2							○						★			●	
環境汚染化学	2			2					○					☆				●	
応用力学	2			2					○					☆					
地球環境学	2			2					○					☆			◇		
気象水文学	2			2					○					☆			◇	●	
土壌環境科学	2			2					○					☆			◇	●	
生物統計学	2			2					○									●	
環境水理学Ⅰ	3			2						○				☆			◇		
環境水理学演習Ⅰ	3			2						○				☆			◇		
測地学Ⅰ	3			2						○					★	◆			
測地学演習Ⅰ	3			2						○				☆		◆			
土壌微生物学	3			2						○				☆				●	
地盤環境学	3			2						○				☆			◇	●	
農村環境計画学	3			2						○									
英書講読	3			2						○								●	
インターンシップⅠ	3			1						○	○								集中講義※
インターンシップⅡ	3			2						○	○								集中講義※
環境水理学Ⅱ	3			2							○			☆			◇		
環境水理学演習Ⅱ	3			2							○			☆			◇		
地盤環境学Ⅱ	3			2							○			☆			◇	●	

授 業 科 目 名	配 当 年 次	単 位 数				開 講 時 期								資 格 及 び 免 許					備 考
						1 年		2 年		3 年		4 年		教員免許		測 量	土 木	自 然	
		必修	選 必	選 択	教 職	前	後	前	後	前	後	前	後	理 科	農 業	士 補	施 工	再 生	
現代環境学	3			2							○			☆			◇	●	
環境浄化生物学	3			2							○			☆				●	
干潟環境学	3			2							○			☆				●	
測地学Ⅱ	3			2							○				★	◆			
測地学演習Ⅱ	3			2							○				★	◆			
科学英語	3	2									○				★			●	
生物環境保全学演習	4	2										○			★			●	
卒業研究	4	8										○	○					●	

※インターンシップⅠとインターンシップⅡは、４年後学期は履修できない。

授 業 科 目 名	配 当 年 次	単 位 数				開 講 時 期								資格及び免許			備 考
						1 年		2 年		3 年		4 年		教員免許		家畜	
		必修	選必	選択	教職	前	後	前	後	前	後	前	後	理科	農業	人工	
(農学部生物環境科学科) (資源循環生産学コース) 《専門教育科目》 〈専門基礎科目〉																	
基礎数学	1		2			○											2 科目 4 単位 選択必修
物理学	1		2			○								☆			
化学	1		2			○								☆			
生物学	1		2			○								☆			
〈農学基礎科目〉																	
作物生産学	1		2			○									★		3 科目 6 単位 選択必修
動物資源開発学	1		2				○									○	
生物化学	1		2				○										
土壌学	2		2					○							★		
食料流通経済学	2		2						○						★		
〈専門科目〉																	
生物環境保全学概説	1	2					○								★		
資源環境生産学概説	1	2					○								★		
地域社会開発学概説	1	2					○								★		
生産情報処理学Ⅰ	1			2			○								★		
栽培環境制御学	2	2						○							★		
生産情報処理学Ⅱ	2			2				○							★		
フィールド科学基礎実習Ⅰ	2	1						○							★	○	
生物科学実験実習	2	2						○						☆			
エネルギー利用学	2			2				○							★		
植物遺伝資源学	2			2				○							★		
環境保全型農業論	2	2							○						★		
農産食品流通貯蔵学	2			2					○						★		
環境科学演習(分野演習)	2			1					○								
農業生産機械学	2	2							○						★		
果樹生産生理学	2			2					○						★		
フィールド科学基礎実習Ⅱ	2	1							○						★	○	
雑草学	3			2						○					★		集中講義
生産エンジニアリング	3			2						○					★		
園芸植物繁殖学	3			2						○					★		
フィールド科学総合実習	3			2						○					★		集中講義
インターンシップⅠ	3			1						○	○						集中講義※
インターンシップⅡ	3			2						○	○						集中講義※
土壌微生物学	3			2						○				☆			
植物生態生理学	2			2				○						☆			
作物学実験実習Ⅰ	3			1						○				☆			
園芸工学実験実習Ⅰ	3			1						○				☆			
資源循環生物学実験実習Ⅰ	3			1						○				☆			
動物生産管理学	3			2						○					★	○	
農業資源物質工学	3			2						○					★		
設計・製図学	3			2						○					★		
資源循環フィールド科学実習	3			1						○					★		

授 業 科 目 名	配 当 年 次	単 位 数				開 講 時 期								資格及び免許			備 考
						1 年		2 年		3 年		4 年		教員免許		家畜 人工	
		必修	選必	選択	教職	前	後	前	後	前	後	前	後	理科	農業		
植物遺伝資源学実験実習Ⅰ	3			1						○					★		
食用作物学	3			2							○			☆			
環境浄化生物学	3			2							○			☆			
CAD利用学	3			2							○				★		
生産情報管理学	3			2							○				★		
遺伝資源フィールド科学実習	3			1							○				★		
植物遺伝資源学実験実習Ⅱ	3			1							○				★		
作物学実験実習Ⅱ	3			1							○			☆			
園芸工学実験実習Ⅱ	3			1							○			☆			
資源循環生物学実験実習Ⅱ	3			1							○			☆			
科学英語	3	2									○				★		
作物学演習Ⅰ	4			1								○		☆			
園芸工学演習Ⅰ	4			1								○		☆			
資源循環生物学演習Ⅰ	4			1								○		☆			
資源循環フィールド科学演習Ⅰ	4			1								○			★		
植物遺伝資源学演習Ⅰ	4			1								○			★		
作物学演習Ⅱ	4			1									○	☆			
園芸工学演習Ⅱ	4			1									○	☆			
資源循環生物学演習Ⅱ	4			1									○	☆			
資源循環フィールド科学演習Ⅱ	4			1									○		★		
植物遺伝資源学演習Ⅱ	4			1									○		★		
卒業研究	4	8										○	○				
環境化学	2			2				○						☆			
遺伝学	2			2					○					☆			
環境汚染化学	2			2					○					☆			
地球環境学	2			2					○					☆			
応用動物昆虫学	2			2					○								
経営資源管理学	2			2					○						★		
有機化学	2			2					○					☆			
栄養化学	2			2					○								
飼料資源学	3			2						○						○	隔年集中講義
植物育種学	3			2						○							
生物物理化学	3			2						○							
植物病理学Ⅰ	3			2						○				☆			
食糧流通貯蔵学	3			2						○							
微生物学	3			2						○				☆			
植物分子遺伝学	3			2						○				☆			
生化学	3			2						○							
環境水理学Ⅰ	3			2						○				☆			
動物生体生理学	3			2						○				☆		○	
応用微生物学	3			2						○							
植物栄養学	3			2						○					★		
動物遺伝育種学	3			2						○				☆		○	
環境基礎解析学	3			2						○					★		
応用力学	3			2						○				☆			
動物資源開発学実験Ⅰ	3			1						○						○	
分析化学	3			2							○			☆			
熱帯作物改良学	3			2							○			☆			

授 業 科 目 名	配 当 年 次	単 位 数				開 講 時 期								資格及び免許			備 考
						1 年		2 年		3 年		4 年		教員免許		家畜 人工	
		必修	選必	選択	教職	前	後	前	後	前	後	前	後	理科	農業		
食品衛生学	3			2							○						
物理化学	3			2							○						
食品化学	3			2							○			☆			
植物病原学	3			2							○			☆			
植物生理学	3			2							○			☆			
分子生物学	3			2							○						
農業政策論	3			2							○				★		
動物繁殖生理学	3			2							○			☆		○	
蔬菜園芸学	3			2							○			☆			
生物統計学	3			2							○						
果樹園芸学	3			2							○						
生物資源化学	3			2							○						
農産物利用学	3			2							○						
動物資源開発学実験Ⅱ	3			1							○					○	
生物有機化学	4			2								○		☆			
分子細胞生物学	4			2									○				
遺伝子工学	4			2									○				

※インターンシップⅠとインターンシップⅡは、4年後学期は履修できない。

授 業 科 目 名	配 当 年 次	単 位 数				開 講 時 期								資格及び免許		備 考
						1 年		2 年		3 年		4 年		教員免許		
		必修	選必	選択	教職	前	後	前	後	前	後	前	後	理科	農業	
(農学部生物環境科学科) (地域社会開発学コース) 《専門教育科目》 〈専門基礎科目〉																
基礎数学	1		2			○										2 科目 4 単位 選択必修
物理学	1		2			○							☆			
化学	1		2			○							☆			
生物学	1		2			○							☆			
〈農学基礎科目〉																
作物生産学	1		2			○									★	3 科目 6 単位 選択必修
動物資源開発学	1		2				○									
生物化学	1		2				○									
土壌学	2		2					○							★	
食料流通経済学	2		2						○						★	
〈専門科目〉																
生物環境保全学概説	1	2					○								★	
資源循環生産学概説	1	2					○								★	
地域社会開発学概説	1	2					○								★	
生産情報処理学Ⅰ	1			2			○								★	
地域資源論	2	2						○							★	
人類生態学	2	2						○							★	
地域ビジネス開発論	2	2						○							★	
フィールドワーク基礎演習	2	1						○							★	
フィールド科学基礎実習Ⅰ	2	1						○							★	
システム生態学	2			2				○						☆		
環境基礎解析学	2			2				○							★	
栽培環境制御学	2			2				○							★	
アジア栄養生態学	3			2						○					★	
観光人類学	2			2					○						★	
環境地理学	2			2					○					☆		
人間開発学	2			2					○					☆		
環境社会学	2			2					○						★	
経営資源管理学	2			2					○						★	
国際環境農業論	2			2					○							
農業政策論	2			2					○						★	
環境保全型農業論	2			2					○						★	
土壌環境科学	2			2					○					☆		
アジア比較農業論	3			2							○				★	隔年開講
科学英語	3	2									○				★	
農業資源物質工学	3			2						○					★	
生態人類学	3			2						○				☆		
食料市場論	3			2						○					★	
地域資源学演習Ⅰ	3			1						○					★	
人類生態学演習Ⅰ	3			1						○					★	
地域ビジネス開発学演習Ⅰ	3			1							○				★	
島嶼社会経済学演習Ⅰ	3			1						○					★	

授 業 科 目 名	配 当 年 次	単 位 数				開 講 時 期								資格及び免許		備 考
						1 年		2 年		3 年		4 年		教員免許		
		必修	選必	選択	教職	前	後	前	後	前	後	前	後	理科	農業	
アジアフィールドワーク	3			1						○					★	集中講義
農村環境計画学	3			2						○						
インターンシップⅠ	3			1						○	○					集中講義※
インターンシップⅡ	3			2						○	○					集中講義※
土壌微生物学	3			2						○				☆		
植物病理学Ⅰ	2			2				○						☆		
エネルギー利用学	2			2				○							★	
生産情報処理学Ⅱ	2			2				○							★	
農村開発学	3			2							○				★	
地域社会論	3			2							○				★	
国際健康開発論	3			2							○				★	
農業会計学	3			2						○					★	
地域資源学演習Ⅱ	3			1							○				★	
人類生態学演習Ⅱ	3			1							○				★	
地域ビジネス開発学演習Ⅱ	4			1								○			★	
島嶼社会経済学演習Ⅱ	3			1							○				★	
農業技術経営学入門	3			2							○				★	
食用作物学	3			2							○			☆		
生物統計学	1			2			○									
熱帯有用植物学	3			2							○					
熱帯農業論	1			2			○									
半島・島嶼産業論	3			2							○				★	
社会統計学	3			2						○					★	
卒業研究	4	8										○	○			

※インターンシップⅠとインターンシップⅡは、4年後学期は履修できない。

授 業 科 目 名	配 当 年 次	単 位 数				開 講 時 期								資格及び免許			備 考
		必修	選必	選択	教職	1 年		2 年		3 年		4 年		教員免許		食品衛生	
						前	後	前	後	前	後	前	後	理科	農業		
(農学部生命機能科学科) 《専門教育科目》 〈専門基礎科目〉																	
基礎数学	1			2		○											
物理学	1	2				○											
化学	1	2				○								☆		◎	
生物学	1	2				○								☆		◎	
〈農学基礎科目〉																	
作物生産学	1		2			○											3 科目 6 単位 選択必修
動物資源開発学	1		2				○									●	
生物化学	1		2				○								★	◎	
土壌学	2		2					○								●	
食料流通経済学	2		2						○								
〈専門科目〉																	
物理化学	1	2					○							☆			
有機化学	1	2					○							☆		◎	
分析化学	1	2					○							☆		◎	
科学英語	1	2				○									★		
生物有機化学	2	2						○						☆		●	
生化学	2	2						○							★	◎	
生物物理化学	2	2						○						☆		●	
微生物学	2	2						○						☆		◎	
生命化学概説	2	2						○							★	●	
食糧科学概説	2	2						○							★	●	
化学実験Ⅰ	2	1							○					☆		◎	
食品衛生学	2	2							○						★	◎	
栄養化学	2	2							○					☆		●	
食品化学	2	2							○					☆		◎	
化学実験Ⅱ	2	3							○					☆		◎	
分子生物学	2	2							○						★	◎	
化学基礎実験	2			1				○						☆			隔年集中講義
食糧安全学	3			2						○					★	●	
食品工学	3			2						○					★	●	
食品機能化学	3			2						○					★	●	
分子細胞生物学	3			2							○						
生化学実験	3	2								○				☆		◎	
微生物学実験	3	2								○				☆		◎	
応用微生物学	3			2						○					★	●	
海洋生物資源化学	3			2							○				★		
食糧科学特講	3			2						○					★		隔年集中講義
生命化学特講	3			2						○					★		隔年集中講義
食糧流通貯蔵学	3			2						○					★	●	
農産物利用学	3			2						○					★	●	
生物資源化学	3			2							○				★	●	
遺伝子工学	3			2							○				★	●	

授 業 科 目 名	配 当 年 次	単 位 数				開 講 時 期								資格及び免許			備 考
		必修	選必	選択	教職	1 年		2 年		3 年		4 年		教員免許		食品	
						前	後	前	後	前	後	前	後	理科	農業	衛生	
基礎放射線科学	3			2							○						
インターンシップⅠ	3			1						○	○						集中講義※
インターンシップⅡ	3			2						○	○						集中講義※
専門外書講読	3			2							○				★		
生物学基礎実験	4	1										○		☆		◎	集中講義
演習	4			2								○					
卒業研究	4	8										○	○				
遺伝学	1			2			○							☆		●	
植物生理学	1			2			○									●	
生物統計学	1			2			○										
環境化学	2			2				○									集中講義
昆虫学	2			2					○					☆			
植物病原学	2			2					○					☆			
地球環境学	2			2					○					☆			
人間開発学	2			2					○					☆			
植物栄養学	3			2						○						●	

※インターンシップⅠとインターンシップⅡは、４年後学期は履修できない。

◎：必修(29単位)

●：選択必修(12単位以上)

授 業 科 目 名	配 当 年 次	単 位 数				開 講 時 期								資格及び免許		備 考
						1 年		2 年		3 年		4 年		教員免許		
		必修	選必	選択	教職	前	後	前	後	前	後	前	後	理科	農業	
《外国人留学生特別科目》																
農学概論(※1)	1			2		○										
農学演習(※1)	1			2			○									
(教員免許教科・教職科目)																
《教科科目》																
物理学実験(※2)	2				1			○						☆		集中講義
基礎物理学(※2)	1				2		○							☆		
《教職科目》																
農業科教育法Ⅰ(※3)	3				2					○					★	集中講義
農業科教育法Ⅱ(※3)	3				2						○				★	集中講義

※1 外国人留学生以外は受講できない。

※2 教科(理科)のみに関する科目(卒業要件単位に算入されない。)

※3 教職のみに関する科目(卒業要件単位に算入されない。)

V 資 格 取 得

1 教員免許状

教育職員免許状（以下、「免許状」という）には、一種免許状、二種免許状及び専修免許状の3種類がある。一種免許状は、免許状取得に必要な所定の単位を修得して学部を卒業した者に与えられる。専修免許状は、一種免許状をすでに取得している者が取得できる免許状で、専修免許科目として認定されている大学院修士課程専門科目の所定単位を修得して大学院修士課程を修了した者に与えられる。それぞれの免許状の取得に必要な授業科目と単位数は、別表（P70～P83）のとおりである。

免許状の取得方法は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則（以下「免許法等」という。）に定められている。本学は、免許法等に基づき、文部科学大臣へ免許状の授与の所要資格を得させるために適当と認める課程としての認定申請を行っている。認定を受けた本学の学科が定める方法により免許状に必要な単位を修得した者については、本学から佐賀県教育委員会に申請を行うことで（以下「一括申請」という。）、卒業時に免許状が付与される。卒業時に一括申請で免許取得を希望する者は、4年次に指示する手続きに従って、申請しなければならない。

また、一括申請ができなかった場合でも、免許法等により定められている単位数を修得し、個人申請することにより、免許状を取得できることがある（以下個人申請という。）。個人申請を行う場合は、申請を希望する都道府県教育委員会へ問い合わせ、卒業後に、申請を行うこと。

本学部及び大学院修士課程で取得できる免許状の種類は、下記のとおりである。

一種免許状（学部卒）	専修免許状（大学院修了）
中学校教諭一種免許状（理科）	中学校教諭専修免許状（理科）
高等学校教諭一種免許状（理科）	高等学校教諭専修免許状（理科）
高等学校教諭一種免許状（農業）	高等学校教諭専修免許状（農業）

なお、農学部の履修細則別表Ⅰ～Ⅷに記載されていない「免許状に関する授業科目」の単位は、卒業単位に算入されない。

〔免許状取得に関しての主な留意事項〕

- 1 免許状取得のための授業科目には、「教科に関する科目」と「教職に関する科目」及び「教科又は教職に関する科目」がある。教科に関する科目は農学部で開講され、教職に関する科目は「農業科教育法Ⅰ」、「農業科教育法Ⅱ」（いずれも農学部開講）を除き、文化教育学部で開講される。

※「教科に関する科目」中、一種免許状（農業）の必修科目である「職業指導」については、掲示により通知する。

- 2 「教科に関する科目」は、応用生物科学科、生物環境科学科及び生命機能科学科では一部異なる。
- 3 「教職に関する科目」は、学科共通である。
- 4 「教職に関する科目」の中の「教科教育法に関する科目」については、理科と農業とでは免許状取得に必要な授業科目が異なる。理科免許取得希望者のうち、中学校免許は、「中等理科教育法Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ」（各2単位）を必修とし、Ⅱは選択となる。高等学校免許は、「中等理科教育法Ⅰ」（2単位）を必修とし、Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは選択となる。（中等理科教育法については、文化教育学部と他学部との間の学部間協約により、履修者数に制限がある。制限数を超える場合は、成績を考慮して履修資格者が決定される。）。

農業免許状取得希望者は、「農業科教育法Ⅰ」（2単位、必修）を履修しなければならない。

- 5 免許状の種類にかかわらず、教養教育科目として開講される「現代の法と社会」（日本国憲法）（2単位）を修得しなければならない。また、共通教職科目の体育実技Ⅰ及びⅡを修得しなければならない。
- 6 教育実習の履修などについては、「農学部学生の実習参加資格基準及び実施要領」の定めによる。
- 7 「教科又は教職に関する科目」は「教科に関する科目」又は「教職に関する科目」で所定の単位数を超えて修得した単位をもって充てる。

教育職員免許法第5条別表第1で定められている最低単位数

免許状の種類	所要資格	基礎資格	大学において修得することを必要とする最低単位数		
			教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目
中学校教諭	一種免許状	学士の学位を有すること	20	31	8
高等学校教諭	一種免許状	学士の学位を有すること	20	23	16

(注) 1 免許法上の最低修得単位数より、本学の最低修得単位数が多くなっていることがあるが、本学の最低単修得単位数に従って修得すること。

(注) 2 「教科又は教職に関する科目」は設定されていないので、「教科に関する科目」と「教職に関する科目」の最低修得単位数を超えて修得した単位数が「教科又は教職に関する科目」になる。

下記に定める単位を修得することにより、教育職員免許状を取得することができる。

【別表1】教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

【別表2】「教科に関する科目」（農学部学生の実習参加資格基準に関する内規）

【別表3】「教職に関する科目」（農学部学生の実習参加資格基準に関する内規）

【別表4】「教科又は教職に関する科目」（農学部学生の実習参加資格基準に関する内規）

【別表1】教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目	学科	授業科目	免許法施行規則に定める単位数	備考
日本国憲法	全学科	日本国憲法	2	教養教育科目の基本教養科目
体育	全学科	体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	2	
外国語コミュニケーション	全学科	英語	2	
情報機器の操作	全学科	情報基礎概論 情報基礎演習Ⅰ	2	

※介護等体験について

中学校教諭の免許状を取得しようとする者は、介護等体験実習が義務づけられている。具体的には、特別支援学校及び社会福祉施設等において、障害者、高齢者等への介護・介助及び交流等を7日間行うものであり、3年次の6月に事前指導を実施する予定。

※教員免許更新制

平成21年度から教員免許更新制が導入されたことにより、平成21年4月1日以降に授与される教育職員免許状は10年間の有効期限が定められている。

農学部学生の教育実習参加資格基準及び実施要領

(平成16年4月1日制定)

(教育実習参加資格基準)

第1条 教育実習に参加しようとする者は、教育実習の前年度までに次に掲げる条件を満たしておくこと。

- (1) 卒業研究履修認定に必要な要件を満たしておくこと。
- (2) 教職に関する科目については、次のとおりとする。

イ 「教職概説」(2単位)及び「発達と学習の心理学」(2単位)を修得し、並びに「生徒・進路指導の理論と方法(中等)」(2単位)又は「教育相談の理論と方法(中等)」(2単位)を修得しておくこと。

ロ 理科免許取得希望者にあつては、「中等理科教育法Ⅰ～Ⅳ」のうちから(2単位)を修得しておくこと。

ハ 農業免許取得希望者にあつては、「農業科教育法Ⅰ」(2単位)を修得しておくこと。

ニ 上記以外の科目から2単位以上、計10単位以上を修得しておくこと。

- (3) 教科に関する科目については、教育職員免許法に定める必要単位(中学校26単位・高等学校34単位)の2分の1以上を修得しておくこと。

(実施要領)

第2条 教育実習は、次のとおり実施する。

- (1) 教育実習の期間は、中学校実習は3週間(5単位)、高等学校実習は2週間(3単位)とし、その単位には、事前指導及び事後指導を含むものとする。
- (2) 理科免許取得希望者の教育実習は、実習校の内諾を必要とし、原則として、中学校実習は佐賀市内の中学校において、高等学校実習は出身校において行う。
- (3) 農業免許取得希望者の教育実習は、原則として、佐賀県内の農業系の学科を置く高等学校において行う。

附 則

- 1 この要領は、平成16年4月1日から実施する。
- 2 この要領は、平成12年度入学生及び平成14年度入学の編入学生等から適用する。

附 則

この要領は、平成19年11月14日から実施する。

附 則

この要領は、平成21年12月9日から実施する。

附 則(平成28年3月4日改正)

- 1 この要領は、平成28年4月1日から実施する。
- 2 平成28年3月31日において現に在学する者(以下「在学者」という。)及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

平成28年1月20日

農学部教授会

佐賀大学農学部における教職科目の履修に関する申合せ

1. 佐賀大学農学部履修細則第7条に定められた「農学部学生の教育職員免許状取得に関する内規」における教職に関する科目の履修指導に関しては、以下のとおりとする。

2年次の教職科目の履修は、1年次の専門基礎科目、農学基礎科目、必修科目の専門科目のうち5科目以上を修得していること。

附 則

- 1 この申合せは、平成28年1月20日から施行する。
- 2 この申合せは、平成28年度入学生から施行する。

農学部学生の教育職員免許状取得に関する内規

(平成16年4月1日制定)

教育職員免許状取得を目的とする場合は、教養教育科目における主題科目「現代の法と社会（日本国憲法）」2単位、体育実技Ⅰ及びⅡ及び免許教科ごとに、次に定める単位を修得しなければならない。

教科に関する科目

応用生物科学科〔中学校1種免許状（理科）〕

科 目	授 業 科 目	単位数(必修)	単位数(選択)	備 考
物理学	基礎物理学	2		
化 学	化学	2		
	植物生理学	2		
	栄養化学		2	
	環境化学		2	
	食品化学		2	
	生物有機化学		2	
	分析化学		2	
	有機化学		2	
生物学	生物学	2		
	植物病理学Ⅰ	2		
	蔬菜園芸学	2		
	遺伝学	2		
	昆虫学		2	
	線虫学		2	
	植物分子遺伝学		2	
	動物遺伝育種学		2	
	動物生体生理学		2	
	植物病原学		2	
	システム生態学		2	
	動物行動生態学		2	
	熱帯作物改良学		2	
	動物繁殖生理学		2	
地 学	地球環境学	2		
	土壤環境科学		2	
	気象水文学		2	
	地盤環境学		2	
物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)	物理学実験	1		
	環境水理学演習Ⅰ		2	
	環境水理学演習Ⅱ		2	
化学実験 (コンピュータ活用を含む。)	応用化学実験	1		
生物実験 (コンピュータ活用を含む。)	生物学実験	1		
	応用生物学実験	1		
地学実験 (コンピュータ活用を含む。)	実験水気圏環境学	2		
	測地学演習Ⅰ		2	
合 計		22以上		

○「教科に関する科目」、「教職に関する科目」及び「教科又は教職に関する科目」を合わせて59単位以上修得すること。

応用生物科学科〔高等学校1種免許状（理科）〕

科 目	授 業 科 目	単位数(必修)	単位数(選択)	備 考
物理学	基礎物理学	2		
化 学	化学	2		
	植物生理学	2		
	栄養化学		2	
	環境化学		2	
	食品化学		2	
	生物有機化学		2	
	分析化学		2	
	有機化学		2	
生物学	生物学	2		
	植物病理学 I	2		
	蔬菜園芸学	2		
	遺伝学	2		
	昆虫学		2	
	線虫学		2	
	植物分子遺伝学		2	
	動物遺伝育種学		2	
	動物生体生理学		2	
	植物病原学		2	
	システム生態学		2	
	動物行動生態学		2	
	熱帯作物改良学		2	
	動物繁殖生理学		2	
地 学	地球環境学	2		
	土壤環境科学		2	
	気象水文学		2	
	地盤環境学		2	
物理学実験（コンピュータ活用を含む。）、化学実験（コンピュータ活用を含む。） 生物学実験（コンピュータ活用を含む。）、地学実験（コンピュータ活用を含む。）	応用化学実験	1		
	生物学実験	1		
	応用生物学実験	1		
合 計		20以上		

○「教科に関する科目」、「教職に関する科目」及び「教科又は教職に関する科目」を合わせて59単位以上修得すること。

生物環境科学科〔中学校 1 種免許状（理科）〕

科 目	授 業 科 目	単位数(必修)	単位数(選択)	備 考
物理学	物理学	2		
	環境水理学Ⅰ		2	
	環境水理学Ⅱ		2	
	応用力学		2	
化 学	化学	2		
	環境化学		2	
	環境汚染化学		2	
	植物生理学		2	
	食品化学		2	
	生物有機化学		2	
	分析化学		2	
	有機化学		2	
生物学	生物学	2		
	環境浄化生物学		2	
	土壌微生物学		2	
	システム生物学		2	
	植物病理学Ⅰ		2	
	食用作物学		2	
	植物生態生理学		2	
	環境地理学		2	
	人間開発学		2	
	生態人類学		2	
	遺伝学		2	
	動物繁殖生理学		2	
	植物分子遺伝学		2	
	動物遺伝育種学		2	
	動物生体生理学		2	
	植物病原学		2	
	熱帯作物改良学		2	
	蔬菜園芸学		2	
	微生物学		2	
地 学	地球環境学	2		
	気象水文学		2	
	地盤環境学		2	
	地盤環境学Ⅱ		2	
	土壌環境科学		2	
	現代環境学		2	
	干潟環境学		2	
物理学実験 (コンピュータ活用 を含む。)	物理学実験	1		
	環境水理学演習Ⅰ		2	
	環境水理学演習Ⅱ		2	
化学実験 (コンピュータ活用 を含む。)	化学基礎実験	1		
	園芸工学実験実習Ⅰ		1	
	園芸工学実験実習Ⅱ		1	
	園芸工学演習Ⅰ		1	
	園芸工学演習Ⅱ		1	

科 目	授 業 科 目	単位数(必修)	単位数(選択)	備 考
生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)	生物科学実験実習	2		
	生物学実験実習Ⅰ		1	
	生物学実験実習Ⅱ		1	
	作物学演習Ⅰ		1	
	作物学演習Ⅱ		1	
	資源循環生物学実験実習Ⅰ		1	
	資源循環生物学実験実習Ⅱ		1	
	資源循環生物学演習Ⅰ		1	
	資源循環生物学演習Ⅱ		1	
地学実験 (コンピュータ活用を含む。)	実験水気圏環境学	2		
	測地学演習Ⅰ		2	
合 計		20以上		

○「教科に関する科目」、「教職に関する科目」及び「教科又は教職に関する科目」を合わせて59単位以上修得すること。

生物環境科学科 [高等学校 1 種免許状 (理科)]

科 目	授 業 科 目	単位数(必修)	単位数(選択)	備 考
物理学	物理学	2		
	環境水理学Ⅰ		2	
	環境水理学Ⅱ		2	
	応用力学		2	
化 学	化学	2		
	環境化学		2	
	環境汚染化学		2	
	植物生理学		2	
	食品化学		2	
	生物有機化学		2	
	分析化学		2	
	有機化学		2	
生物学	生物学	2		
	環境浄化生物学		2	
	土壌微生物学		2	
	システム生態学		2	
	植物病理学Ⅰ		2	
	食用作物学		2	
	植物生態生理学		2	
	環境地理学		2	
	人間開発学		2	
	生態人類学		2	
	遺伝学		2	
	動物繁殖生理学		2	
	植物分子遺伝学		2	
	動物遺伝育種学		2	
	動物生体生理学		2	
	植物病原学		2	
	熱帯作物改良学		2	
	蔬菜園芸学		2	
	微生物学		2	
地 学	地球環境学	2		
	気象水文学		2	
	地盤環境学		2	
	地盤環境学Ⅱ		2	
	土壌環境科学		2	
	現代環境学		2	
	干潟環境学		2	
物理学実験 (コンピュータ活用 を含む。)	環境水理学演習Ⅰ	2	2	
	環境水理学演習Ⅱ		2	
	園芸工学実験実習Ⅰ		1	
	園芸工学実験実習Ⅱ		1	
	園芸工学演習Ⅰ		1	
	園芸工学演習Ⅱ		1	
	生物科学実験実習			選択必修

科 目	授 業 科 目	単位数(必修)	単位数(選択)	備 考
生物学実験 (コンピュータ活用 を含む)	作物学実験実習Ⅰ		1	選択必修
	作物学実験実習Ⅱ		1	
	作物学演習Ⅰ		1	
	作物学演習Ⅱ		1	
地学実験 (コンピュータ活用 を含む。)	資源循環生物学実験実習Ⅰ	2	1	
	資源循環生物学実験実習Ⅱ		1	
	資源循環生物学演習Ⅰ		1	
	資源循環生物学演習Ⅱ		1	
	実験水気圏環境学			
	測地学演習Ⅰ		2	
合 計		20以上		

○「教科に関する科目」,「教職に関する科目」及び「教科又は教職に関する科目」を合わせて59単位以上修得すること。

生命機能科学科〔中学校 1 種免許状（理科）〕

科 目	授 業 科 目	単位数(必修)	単位数(選択)	備 考
物理学	物理化学	2		
	生物物理化学	2		
化 学	化学	2		
	栄養化学	2		
	食品化学	2		
	生物有機化学	2		
	分析化学	2		
	有機化学	2		
生物学	生物学	2		
	微生物学	2		
	昆虫学		2	
	植物病原学		2	
	人間開発学		2	
	蔬菜園芸学		2	
	遺伝学		2	
地 学	地球環境学	2		
	土壤環境科学		2	
	気象水文学		2	
	地盤環境学		2	
物理学実験	物理学実験	1		
	環境水理学演習Ⅰ		2	
	環境水理学演習Ⅱ		2	
化学実験 (コンピュータ活用 を含む。)	化学実験Ⅰ	1		
	化学実験Ⅱ	3		
	生化学実験	2		
	化学基礎実験		1	
生物学実験 (コンピュータ活用 を含む。)	生物学基礎実験	1		
	微生物学実験	2		
地学実験 (コンピュータ活用 を含む。)	実験水気圏環境学	2		
	測地学演習Ⅰ		2	
合 計		34以上		

○「教科に関する科目」,「教職に関する科目」及び「教科又は教職に関する科目」を合わせて59単位以上修得すること。

生命機能科学科 [高等学校 1 種免許状 (理科)]

科 目	授 業 科 目	単位数(必修)	単位数(選択)	備 考
物理学	物理化学	2		
	生物物理化学	2		
化 学	化学	2		
	栄養化学	2		
	食品化学	2		
	生物有機化学	2		
	分析化学	2		
	有機化学	2		
生物学	生物学	2		
	微生物学	2		
	昆虫学		2	
	植物病原学		2	
	人間開発学		2	
	蔬菜園芸学		2	
	遺伝学		2	
地 学	地球環境学	2		
	土壤環境科学		2	
	気象水文学		2	
	地盤環境学		2	
物理学実験 (コンピュータ活用 を含む。) 化学実験 (コンピュータ活用 を含む。) 生物学実験 (コンピュータ活用 を含む。) 地学実験 (コンピュータ活用 を含む。)	化学実験Ⅰ	1		
	化学実験Ⅱ	3		
	生化学実験	2		
	化学基礎実験		1	
	生物学基礎実験	1		
	微生物学実験	2		
合 計		31以上		

○「教科に関する科目」,「教職に関する科目」及び「教科又は教職に関する科目」を合わせて59単位以上修得すること。

応用生物科学科〔高等学校1種免許状（農業）〕

科 目	授 業 科 目	単位数(必修)	単位数(選択)	備 考
農 業 の 関係科目	植物育種学	2		
	熱帯農業論	2		
	応用動物昆虫学	2		
	生物統計学	2		
	果樹園芸学	2		
	科学英語	2		
	生物科学英語	2		
	生物情報処理演習	2		
	花卉園芸学		2	
	動物資源開発学		2	
	植物代謝解析学実験Ⅰ		1	
	果樹園芸学実験Ⅰ		1	
	熱帯作物改良学実験Ⅰ		1	
	蔬菜花卉園芸学実験Ⅰ		1	
	植物分子育種学実験Ⅰ		1	
	動物資源開発学実験Ⅰ		1	
	植物病理学実験Ⅰ		1	
	線虫学実験Ⅰ		1	
	昆虫学実験Ⅰ		1	
	生態学実験Ⅰ		1	
	熱帯有用植物学		2	
	飼料資源学		2	
	植物代謝解析学実験Ⅱ		1	
	果樹園芸学実験Ⅱ		1	
	熱帯作物改良学実験Ⅱ		1	
	蔬菜花卉園芸学実験Ⅱ		1	
	植物分子育種学実験Ⅱ		1	
	動物資源開発学実験Ⅱ		1	
	植物病理学実験Ⅱ		1	
	線虫学実験Ⅱ		1	
	昆虫学実験Ⅱ		1	
	生態学実験Ⅱ		1	
	フィールド科学基礎実習Ⅲ		1	
	フィールド科学基礎実習Ⅳ		1	
	農業演習Ⅰ		2	
	農業演習Ⅱ		2	
職業指導	職業指導	2		
合 計		20以上		

○「教科に関する科目」,「教職に関する科目」及び「教科又は教職に関する科目」を合わせて59単位以上修得すること。

生物環境科学科 [高等学校 1 種免許状 (農業)]

科 目	授 業 科 目	単位数(必修)	単位数(選択)	備 考
農 業 の 関係科目	作物生産学	2		
	生物環境保全学概説	2		
	資源環境生産学概説	2		
	地域社会開発学概説	2		
	科学英語	2		
	環境基礎解析学		2	
	土壌学		2	
	実験生物環境保全学		2	
	植物栄養学		2	
	水環境学		2	
	測地学Ⅰ		2	
	測地学Ⅱ		2	
	測地学演習Ⅱ		2	
	生物環境保全学演習		2	
	生産情報処理学Ⅰ		2	
	栽培環境制御学		2	
	動物生産管理学		2	
	農業資源物質工学		2	
	エネルギー利用学		2	
	フィールド科学基礎実習Ⅰ		1	
	植物遺伝資源学		2	
	環境保全型農業論		2	
	農産食品流通貯蔵学		2	
	農業生産機械学		2	
	フィールド科学基礎実習Ⅱ		1	
	食料流通経済学		2	
	生産エンジニアリング		2	
	生産情報処理学Ⅱ		2	
	生産情報管理学		2	
	フィールド科学総合実習		2	
	雑草学		2	
	設計・製図学		2	
	CAD利用学		2	
	地域資源論		2	
	人類生態学		2	
	地域ビジネス開発論		2	
	フィールドワーク基礎演習		1	
	観光人類学		2	
	環境社会学		2	
	経営資源管理学		2	
	農業政策論		2	
	アジア比較農業論		2	
	食料市場論		2	
	地域資源学演習Ⅰ		1	
	人類生態学演習Ⅰ		1	

科 目	授 業 科 目	単位数(必修)	単位数(選択)	備 考
農 業 の 関係科目	地域ビジネス開発学演習Ⅰ		1	
	アジアフィールドワーク		1	
	農村開発学		2	
	地域社会論		2	
	国際健康開発論		2	
	農業会計学		2	
	半島・島嶼産業論		2	
	地域資源学演習Ⅱ		1	
	人類生態学演習Ⅱ		1	
	地域ビジネス開発学演習Ⅱ		1	
	社会統計学		2	
	資源循環フィールド科学実習		1	
	遺伝資源フィールド科学実習		1	
	資源循環フィールド科学演習Ⅰ		1	
	資源循環フィールド科学演習Ⅱ		1	
	植物遺伝資源学実験実習Ⅰ		1	
	植物遺伝資源学実験実習Ⅱ		1	
	植物遺伝資源学演習Ⅰ		1	
	植物遺伝資源学演習Ⅱ		1	
	島嶼社会経済学演習Ⅰ		1	
	島嶼社会経済学演習Ⅱ		1	
	農業技術経営学入門		2	
	アジア栄養生態学		2	
	果樹生産生理学		2	
	園芸植物繁殖学		2	
職業指導	職業指導	2		
合 計		20以上		

○「教科に関する科目」,「教職に関する科目」及び「教科又は教職に関する科目」を合わせて59単位以上修得すること。

生命機能科学科〔高等学校1種免許状（農業）〕

科 目	授 業 科 目	単位数(必修)	単位数(選択)	備 考
農 業 の 関 係 科 目	科学英語	2		
	生命化学概説	2		
	食糧科学概説	2		
	分子生物学	2		
	食品衛生学	2		
	生化学	2		
	生命化学特講		2	
	食糧科学特講		2	
	応用微生物学		2	
	食品工学		2	
	食品機能化学		2	
	食糧安全学		2	
	食糧流通貯蔵学		2	
	農産物利用学		2	
	専門外書講読		2	
	遺伝子工学		2	
	生物化学		2	
	生物資源化学		2	
	海洋生物資源化学		2	
職業指導	職業指導	2		
合 計		20以上		

○「教科に関する科目」、「教職に関する科目」及び「教科又は教職に関する科目」を合わせて59単位以上修得すること。

「教職に関する科目」(学科共通)

科 目	各科目に含める必要事項	授 業 科 目	単位	修得すべき単位数			備 考
				中学校	高等学校		
					理科	農業	
教職の意義等に関する科目	・ 教職の意義及び教員の役割 ・ 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・ 進路選択に資する各種の機会の提供等	教職概説	2	2	2	2	
教育の基礎理論に関する科目	・ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理 教育史	2 2	2	2	2	
	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	発達と学習の心理学	2	2	2	2	
	・ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	現代教育論 社会教育概論Ⅰ	2 2	2	2	2	
教育課程及び指導法に関する科目	・ 教育課程の意義及び編成の方法	教育課程論	2	2	2	2	
	理科 ・ 各教科の指導法	中等理科教育法Ⅰ	2	2	2		
		中等理科教育法Ⅱ	2				
		中等理科教育法Ⅲ	2	2			
		中等理科教育法Ⅳ	2	2			
	農業 ・ 各教科の指導法	農業科教育法Ⅰ	2			2	
		農業科教育法Ⅱ	2				
	・ 道徳の指導法	道徳教育の理論と方法	2	2			
・ 特別活動の指導法	特別活動の理論と方法	2	2	2	2		
・ 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法学概説 教育方法論	2 2	2	2	2		
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導の理論及び方法	生徒・進路指導の理論と方法（中等）	2	2	2	2	
	・ 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法（中等）	2	2	2	2	
教育実習		中学校教育実習Ⅰ 中学校教育実習Ⅱ 高等学校教育実習	3 2 3	3 2	 3	3	事前・事後指導 1 単位を含む
教職実践演習		教職実践演習（中・高）	2	2	2	2	
合 計				33	25	25	

○「教科に関する科目」、「教職に関する科目」及び「教科又は教職に関する科目」を合わせて59単位以上修得すること。

「教科又は教職に関する科目」

最低修得単位数	単 位 の 修 得 方 法
中 学 校 8 高等学校 16	最低修得単位を超えて修得した「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の単位をもって充てる。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成18年2月22日改正）

- 1 この内規は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 平成18年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成18年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成22年2月17日改正）

- 1 この内規は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成24年1月25日改正）

- 1 この内規は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成24年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成24年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成25年1月23日改正）

- 1 この内規は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成25年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成26年1月22日改正）

- 1 この内規は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成26年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成26年2月12日改正）

- 1 この内規は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成26年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成26年3月5日改正）

- 1 この内規は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成26年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成26年1月21日改正）

- 1 この内規は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 平成27年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成27年3月5日改正）

- 1 この内規は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 平成27年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成28年3月4日改正）

- 1 この内規は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

教 職 に 関 す る 科 目

一種免許状（理科，農業）

科 目	各 科 目 に 含 め る 必 要 事 項		授 業 科 目
教職の意義等に関する科目	・ 教職の意義及び教員の役割 ・ 教員の職務内容（研修，服務及び身分保障等を含む。） ・ 進路選択に資する各種機会の提供等		☆教職概説
教育の基礎理論に関する科目	・ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		☆教育原理 教育史
	・ 幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		☆発達と学習の心理学
	・ 教育に関する社会的，制度的，経営的事項		☆現代教育論 社会教育概論Ⅰ
教育課程及び指導法に関する科目	・ 教育課程の意義及び編成の方法		☆教育課程論
	・ 各教科の指導法	理 科	☆中等理科教育法Ⅰ 中等理科教育法Ⅱ 中等理科教育法Ⅲ 中等理科教育法Ⅳ
		農 業	☆農業科教育法Ⅰ 農業科教育法Ⅱ
	・ 道徳の指導法		☆道徳教育の理論と方法
	・ 特別活動の指導法		☆特別活動の理論と方法
	・ 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		☆ { 教育方法学概説 教育方法論
生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目	・ 生徒指導の論理及び方法 ・ 進路指導の論理及び方法		☆生徒・進路指導の理論と方法(中等)
	・ 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		☆教育相談の理論と方法(中等)
教育実習			☆中学校教育実習Ⅰ ☆中学校教育実習Ⅱ ☆高等学校教育実習
教職実践演習			☆教職実践演習(中・高)
合 計			

☆印は必修

授 業 科 目	単 位	単 位 数			開講時期	備 考
		中学校	高 等 学 校			
			理 科	農 業		
☆教職概説	2	2	2	2	1 年後期	教育学部学校教育課程開設（他学部用）
☆教育原理 教育史	2 2	2	2	2	2 年前期 2 年前期	教育学部学校教育課程開設（他学部用） 教育学部開設（教育学部学生と合同）
☆発達と学習の心理学	2	2	2	2	2 年前期	教育学部学校教育課程開設（他学部用）
☆現代教育論 社会教育概論Ⅰ	2 2	2	2	2	1 年前期 2 年前期	教育学部学校教育課程開設（他学部用） 教育学部開設（教育学部学生と合同）
☆教育課程論	2	2	2	2	3 年前期	教育学部学校教育課程開設（他学部用）
☆中等理科教育法Ⅰ 中等理科教育法Ⅱ 中等理科教育法Ⅲ 中等理科教育法Ⅳ	2 2 2 2	2 2 2	2		3 年前期 3 年前期 3 年後期 3 年後期	理科の免許を取得しようとする者 （教育学部開設） 中学校の場合はⅠⅢⅥは必修 高等学校の場合はⅠは必修
☆農業科教育法Ⅰ 農業科教育法Ⅱ	2 2			2	3 年前期 3 年後期	農業の免許を取得しようとする者 （農学部開設）
☆道德教育の理論と方法	2	2			3 年前期	教育学部開設（教育学部学生と合同）
☆特別活動の理論と方法	2	2	2	2	2 年後期	教育学部開設（教育学部学生と合同）
☆ 教育方法学概説 教育方法論	2 2	 2	 2	 2	2 年前期 3 年前期	教育学部開設（教育学部学生と合同）
☆生徒・進路指導の理論 と方法(中等)	2	2	2	2	2 年後期	教育学部開設（教育学部学生と合同）
☆教育相談の理論と方法 (中等)	2	2	2	2	3 年前期	教育学部開設（教育学部学生と合同）
☆中学校教育実習Ⅰ ☆中学校教育実習Ⅱ ☆高等学校教育実習	3 2 3	3 2			4 年通年 4 年通年	教育学部学校教育課程開設 事前・事後指導 1 単位を含む。
☆教職実践演習(中・高)	2	2	2	2	4 年後期	教育学部開設
		33	25	25		

教育職員免許状取得のための年次計画

(変更する場合もあるため、学生センター前「教育実習」・「農学部」の掲示板で詳細を確認すること。)

年次	月	学 生	注 意 事 項 等
1 年次	4 月	・説明会（新入生オリエンテーション） ・「教職に関する科目」，「教科に関する科目」の履修開始	教員免許取得のための履修方法・注意事項の確認。
	10月	・教職カルテの申込み	教員免許取得予定者は必ず申し込むこと。
	11月	・教職カルテに関する説明会 ・教職カルテに登録・入力	教職カルテの必要性，記載内容の説明。 未登録者は、『教職実践演習』（4 年後期）履修を認めない。 取得希望免許状の種類・教職志望の動機・理由・理想的な教師像等記入。（1 年次）
	3 月	・教職チューターとの面談日程確認，教職カルテ入力 ・教職チューターとの面談（4 月履修登録期間内まで）	1 年次の自己評価・自身の課題を記入。 2 年次履修計画を立てておくこと。
2 年次	5 月	・教職カルテ入力	教職志望の動機・理由・理想的な教師像等記入。（2 年次）
	6 月	・教育ボランティアの申し込み	
	8 月	・教育ボランティアへの参加	
	3 月	・教職チューターとの面談日程確認，教職カルテ入力 ・教職チューターとの面談（4 月履修登録期間内まで）	2 年次の自己評価，教育ボランティア，自身の課題を記入。 3 年次履修計画を立てておくこと。
3 年次	4 月	・教育実習履修希望者説明会 ・「4 年次教育実習申出書」等必要書類提出 ・介護等体験申込み（中学校免許必修）	教育実習参加資格及び取得単位の確認。
	5 月	・教職カルテ入力 ・麻疹の抗体検査	教職志望の動機・理由・理想的な教師像等記入。（3 年次）
	6 月	・実習校配属決定（佐賀市内中学校又は母校） ・介護等体験事前指導（特別支援学校）	介護等体験（社会福祉施設）の配属掲示。
	7 月	・介護等体験事前指導（社会福祉施設） ・教育実習履修希望者説明会（日程・内諾）	今後のスケジュール，実習校訪問時及び事前準備活動等の注意事項。
	8 月	・実習校訪問 「実習校訪問報告書」提出	教育実習内諾依頼書により直接依頼すること。
	9 月	・介護等体験参加 ・教育実習事前準備活動の参加（佐賀市内中学校配属者のみ）	特別支援学校：2 日間，社会福祉施設：5 日間
	2 月	・教育実習の事前説明会 ・教育実習における倫理基準確認テスト実施 ・教育実習参加資格確認及び「教育実習届」の提出	
	3 月	・教職チューターとの面談日程確認，教職カルテ入力 ・教職チューターとの面談（3 月末まで） ・教育実習参加資格判定・掲示	3 年次の自己評価，介護等体験実施報告，自身の課題を記入。 教育実習に向けての準備状況等確認及び「誓約書」の提出。 教育実習辞退届受付。（～3 月31日まで）
4 年次	4 月	・教育実習事前指導〔全体〕① ・教育実習事前指導〔教科別〕②	①及び②を無断欠席をした人は，教育実習の履修を放棄したものとみなす。
	5 月	・教職カルテ入力 ・『教育実習』実施期間 （5 月～9 月の中学校 3 週間。高等学校 2 週間）	教職志望の動機・理由・理想的な教師像等記入。（4 年次）
	6 月～ 9 月	・教職カルテ入力 ・教育実習直後指導（教育実習終了後 1 か月以内）	教育実習後に成果と課題の記入。
	10月	・『教育実践演習』履修（中・高必修）（～2 月まで） ・教育実習事後指導〔全体〕① ・教育実習事後指導〔教科別〕② ・教員免許申請のための事前説明会 ・教員免許状取得事前申請書・戸籍抄本の提出	①及び②を無断欠席した人は，教育実習の履修を放棄したものとみなす。 戸籍抄本を準備すること。
	1 月	・教員免許状の申請書類提出	
	2 月	・教職カルテ入力	4 年次の自己評価・自身の課題を記入。（最終）
	3 月	・教員免許状の受領	学位記授与式

備考

- ・教育職員免許状取得のためには，1 年次後期に教職カルテ登録の申し出を行い，4 年次後期に「教職実践演習」を受講しなければならない。
- ・教職カルテの登録，入力をしていない者は，原則「教職実践演習」の履修を認めない。
- ・上記の教育実習事前，事後指導①及び②は，教育実習に含まれるため，これを無断欠席したものは，教育実習の履修を放棄したものとみなす。

2 教員免許状と介護等体験実習について

小学校と中学校の教員免許状取得に際して、社会福祉施設や特別支援学校で7日間の介護等体験が義務付けられています。この制度についての概要及び佐賀大学における実施計画は次のとおりです。

I 義務教育教員志願者に対する介護等体験の義務付けに関する制度の概要

1. 法律の名称とその趣旨

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律（介護等体験特例法）」により、教員（教諭）が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員（教諭）の資質向上及び学校教育の一層の充実を図る観点から、小学校及び中学校の教諭の普通免許状の授与にあたっては、社会福祉施設等において7日間の介護等の体験を行うことが義務付けられています。

2. 制度の対象者

小学校及び中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする者

〔義務付けを免除する者〕

- ① 介護等に関する専門的知識及び技術を有する者
(省令で、介護福祉士、特別支援学校教員等の資格を併せ取得する者等を規定)
- ② 身体上の障害により介護等体験が困難な者
(省令で、身体障害者福祉法による1級から6級までの身体障害者を規定)

3. 介護等体験の内容等

(1) 介護等体験の内容

- ・ 障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験（障害者等の話相手、散歩の付添い等）、受入施設職員の業務補助（掃除や洗濯など、障害者等と直接接しないものを含む）
- ・ 特別支援教育諸学校での教育実習、受入施設での他の資格取得に際しての介護実習等は、介護等の体験期間に算入可能

(2) 介護等体験の実施施設

特別支援学校（盲・聾・養護学校）及び社会福祉施設

(3) 介護等体験の時期及び期間

18才に達した後の7日間

〔目途：少なくとも特別支援学校（盲・聾・養護学校）2日＋社会福祉施設5日＝7日〕

(4) 免許状申請に係る手続(省令で規定)

- ① 施設は、教員になろうとする者が介護等体験をしたことを証明する書類を発行
- ② 都道府県教育委員会への免許状の申請に当たっては、上記の証明書を提出

II 佐賀大学における介護等体験について

佐賀大学においては、文化教育学部教育実習委員会が企画・立案し、他学部の協力を得て実施する。

1. 特別支援学校（盲・聾・養護学校）における介護等体験について

- ① 実施施設 佐賀大学文化教育学部附属特別支援学校
〒840-0026 佐賀市本庄町正里46-2 TEL 0952-29-9676
- ② 期 間 2日間
- ③ 実施学年 農学部：3年次生より実施

④ 経 費 必要な場合は、実費程度

2. 社会福祉施設における介護等体験について

① 実施施設 佐賀県内における社会福祉施設

(参加学生の希望に基づき、県社会福祉協議会と連絡調整して決定)

② 期 間 5日間(連続)

③ 実施学年 農学部：3年次生より実施

④ 経 費 1日につき2,000円を県社会福祉協議会に支払う

3. 介護等体験に係わる保険加入について

介護等体験を受ける時は、他人にケガをさせたり、財物を損壊した時の損害賠償を補償する保険に必ず加入しなければなりません。(科目等履修生を含みます。)

例) 学研災付帯賠償責任保険(学生生活課)、学生賠償責任保険(大学生協)など

3 大学卒業後に得られる資格

農学部では、学科ごとに特徴ある専門科目が開講されており、それらの中には、各種の資格を取得するための要件となっている授業科目がある。農学部で取得できる資格は下記のとおりであり、その資格を取得するために必要な授業科目は、応用生物科学科・生物環境科学科及び生命機能科学科のカリキュラム表の該当欄に印をつけて示されている。資格取得に必要な授業科目を履修し、所定の単位を修得すると、学部卒業と同時に、あるいは卒業後に一定期間の実務経験を経て、下記の資格が得られる。

家畜人工授精師(応用生物科学科及び生物環境科学科(資源循環生産学コース)の学生)

応用生物科学科、生物環境科学科(資源循環生産学コース)のカリキュラム表の「家畜人工」の欄に「○」の印がついた授業科目の所定単位を修得すると、牛、馬、めん羊、山羊、豚などの家畜別に行われる人工授精に関する講習会の関連科目の受講及び修業試験が免除される。

家畜人工授精師とは、上記の家畜類に人工授精を行う資格の保有者である。

農業改良普及指導員(3学科の学生共通)

農学部卒業生は4年以上の実務経験を経て国が実施する農業改良普及指導員の資格試験を受けることが出来る。

この資格試験の筆記試験は農業概論が必須、選択は1項目、さらに書類審査、口述「面接」試験があり、選択項目は自分であらかじめ選ぶことができる。

農業改良普及指導員とは、農家の生産技術及び経営指導に直接当たる者である。

測量士補及び測量士(生物環境科学科(生物環境保全学コース)の学生に限る)

生物環境科学科(生物環境保全学コース)のカリキュラム表の「測量士補」の欄に「◆」の印がついた授業科目を履修し、所定の単位を修得して卒業すると、測量士補の資格が得られる。大学卒業後、一定期間の実務経験を経ると、測量士の資格が得られる。

測量士とは、国及び地方公共団体が行う基本測量や公共測量の計画を策定又は実施する者である。

測量士補とは、測量士の策定した計画に従い、測量に従事する者である。

測量士・測量士補の資格を持つ者は、土地家屋調査士などの第二次試験を免除される。

1級及び2級土木施工管理技士（生物環境科学科（生物環境保全学コース）の学生に限る）

生物環境科学科（生物環境保全学コース）のカリキュラム表の「土木施工」の欄に「◇」の印がついた授業科目を履修し、所定の単位を修得して卒業した後、一定期間の実務経験を経ると、1級及び2級土木施工管理技士の受験資格が得られる。

1級土木施工管理技士とは、現場の最高責任者となって、土木工事現場で働く人々をまとめ、工程・安全・品質などの管理を行うスペシャリストである。

2級土木施工管理技士とは、建設工事が安全かつ予定通りに進行するよう、土木現場で働くさまざまな業者を統括するのが主な仕事である。

自然再生士及び自然再生士補（生物環境科学科（生物環境保全学コース）の学生に限る）

生物環境科学科（生物環境保全学コース）のカリキュラム表の「自然再生」の欄に「●」の印がついた授業科目を履修し、所定の単位を修得すると、在籍中または卒業後に自然再生士補の資格が得られる。大学卒業後、一定期間の実務経験を経ると、自然再生士の資格が得られる。

自然再生士とは、自然再生に必要な知識・技術・経験を有する、自然再生の推進者である。

自然再生士補とは、自然再生に必要な基礎的な知識を有する、自然再生の推進者であり、自然再生士が実行する自然再生業務や活動を補佐できる能力が求められる。

食品衛生管理者

食品衛生管理者とは、食品添加物、乳製品などの製造業や食用油脂精製工場などで、食品の製造・加工を衛生的に管理するための責任者である。

○生命機能科学科

本学科は食品衛生管理者養成施設であるから生命機能科学科のカリキュラム表の「食品衛生」の欄に「◎」及び「●」の印がついた授業科目を履修し、所定の単位を修得すると、食品衛生管理者としての資格要件を満たす。

○応用生物科学科・生物環境科学科

次の1～10の所定の科目のうち8科目以上を履修し、単位を修得すると、食品衛生管理者としての資格要件を満たす（但し、カリキュラムの都合上、学部卒業時までに資格要件を満たすことを保証するものではない）。また佐賀大学で開講されない科目もある。

佐賀大学で開講される科目はカリキュラム表（P56～65）で確認すること。履修について不明な点は教務課へ問い合わせること。

1. 土壌学	2. 植物栄養学	3. 生物化学
4. 応用微生物学	5. 栄養化学	6. 食品化学
7. 農産物利用学	8. 畜産物利用学、水産物利用学又は林産物利用学	
9. 農薬化学	10. 生物有機化学	

食品衛生監視員

食品衛生監視員とは、食品衛生に関する監視、指導などの職務を行う公務員である。

○生命機能科学科

本学科は食品衛生監視員養成施設であるから生命機能科学科のカリキュラム表の「食品衛生」の欄に「◎」及び「●」の印がついた授業科目を履修し、所定の単位を修得すると、国、都道府県などの公務員になった場合、食品衛生監視員としての資格要件を満たす。

○応用生物科学科・生物環境科学科

次の1～10の所定の科目のうち8科目以上を履修し、単位を修得すると、食品衛生監視員としての資格要件を満たす（但し、カリキュラムの都合上、学部卒業時までには資格要件を満たすことを保証するものではない）。また佐賀大学で開講されない科目もある。

佐賀大学で開講される科目はカリキュラム表（P56～65）で確認すること。履修について不明な点は教務課へ問い合わせること。

1. 土壌学	2. 植物栄養学	3. 生物化学
4. 応用微生物学	5. 栄養化学	6. 食品化学
7. 農産物利用学	8. 畜産物利用学、水産物利用学又は林産物利用学	
9. 農薬化学	10. 生物有機化学	

VI 証明書発行と奨学金などの申請手続

1 各種証明書の発行手続

証明書の発行手続は、学務部（学生センター内）で行う。

- ① 学生証（教務課総務係）
- ② 通学証明書（学生生活課）
- ③ 自動車登録許可証（学生生活課）
- ④ 卒業証明書（農学部教務係）
- ⑤ 在学期間証明書（農学部教務係）
- ⑥ 単位修得証明書（農学部教務係）
- ⑦ 受験許可書（農学部教務係）
- ⑧ その他証明書（農学部教務係）

[学生センターの自動発行機で発行する証明書]

- ① 在学証明書
- ② 成績証明書
- ③ 卒業見込証明書
- ④ 学生旅客運賃割引証（学割）

2 奨学金及び授業料免除などの申請手続

奨学金及び授業料免除などの申請は、受付期間などを定めて、全学部の学生を対象に行われる。そのための説明会や申請期間などは、学生センターの奨学金掲示板及び授業料免除掲示板にその都度掲示されるので、申請漏れなどがないように掲示に注意する。

3 学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険について

大学に学ぶ学生が、教育研究活動中（正課中、学校行事中、課外活動中、学内施設内）及び通学途中において、不慮の災害事故による傷害を受けた学生に対する補償救済制度が、学生教育研究災害傷害保険です。

学生の皆さんが卒業するまでの期間、安心して勉学及び課外活動に専念し、正課・課外教育活動を通して有意義で充実した学生生活を過ごすための福利厚生事業の一環として、本学では学生の皆さんを全員加入としております。

なお、保険料は大学が負担し、加入手続きは大学が一括して行うため、学生の皆さんが行う必要はありません。

また、学生が万が一相手をけがさせたり物を壊したりしたときに備えての保険が、学研災付帯賠償責任保険です。この保険の加入受付は、原則として4月中に行うが、年の中途であっても受付られます。加入手続は、学生センター内の学生生活課学生支援係にある指定の「振込用紙」に必要事項を記入し、郵便局で保険料を払い込んでください。

なお、インターンシップ・介護等体験・ボランティア活動に参加する場合は、この保険に加入しなければ参加できません。

VII 規則及び内規等

1. 佐賀大学農学部規則
2. 佐賀大学農学部履修細則
3. 農学部学生の分属及び卒業研究に関する内規
4. 農学部定期試験受験上の注意
5. 追試験及び再試験に関する農学部内規
6. 農学部編入学生の既修得単位の認定に関する内規

1 佐賀大学農学部規則

(平成16年4月1日制定)

(趣 旨)

第1条 佐賀大学農学部（以下「本学部」という。）に関する事項は、国立大学法人佐賀大学規則（平成16年4月1日制定）及び佐賀大学学則（平成16年4月1日制定。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(学部の目的)

第1条の2 本学部は、農学及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえうる幅広い素養と実行力を身に付けた人材を育成することを目的とする。

(学科の目的)

第1条の3 本学部の各学科の目的は、次に掲げるとおりとする。

(1) 応用生物科学科 生物の特性を理解し、生物の改良や活用を通して、社会に貢献できる人材を育成すること。

(2) 生物環境科学科

イ 生物環境保全学コース 地球上の環境や生態系を深く理解し、これらの保全、再生及び活用を通して、社会に貢献できる人材を育成すること。

ロ 資源循環生産学コース 生物科学及び生産情報科学の理論と技術を学び、環境に配慮した食糧生産と環境問題の解決に貢献できる人材を育成すること。

ハ 地域社会開発学コース フィールドワークに基づく教育研究を通して、日本を含むアジア・太平洋諸地域における、持続可能な循環型地域社会の構築に貢献できる人材を育成すること。

(3) 生命機能科学科 科学的思考力を備え、生命科学技術の応用を通して、食と健康の分野において社会に貢献できる人材を育成すること。

(入 学)

第2条 本学部に入学することのできる者は、学則第9条及び第14条に定めるところによる。

2 編入学に関する事項は、佐賀大学農学部編入学規程（平成16年4月1日制定）の定めるところによる。

(学科及びコース)

第3条 本学部の学科に次のコースを置く。

学 科	コ ー ス
応用生物科学科	
生物環境科学科	生物環境保全学コース
	資源循環生産学コース
	地域社会開発学コース
生命機能科学科	

2 前項に掲げるコースは、2年次前学期の始めに決定する。なお、決定方法については別に定める。

(教育課程の編成)

第4条 本学部の教育課程は、次の教育科目をもって編成する。

教養教育科目

専門教育科目

- 2 教養教育科目は、大学入門科目、共通基礎科目、基本教養科目、インターフェース科目及び共通教職科目に区分する。
- 3 共通基礎科目は、外国語科目及び情報リテラシー科目に区分する。
- 4 基本教養科目は、自然科学と技術の分野、文化の分野及び現代社会の分野に区分する。
- 5 専門教育科目は、専門基礎科目、農学基礎科目及び専門科目に区分し、学科及びコース別に、必修科目、選択科目及び自由科目に分ける。
- 6 前項の専門基礎科目には、学部間共通教育科目の共通専門基礎科目の授業科目を充てることがある。

(履修方法)

第5条 学生は、本学部の定める教育課程により、教養教育科目及び専門教育科目から成る別表に示す単位を修得しなければならない。

- 2 教養教育科目の授業科目、単位数及び履修方法は、佐賀大学教養教育科目履修細則（平成25年2月27日全部改正）及び佐賀大学農学部履修細則（平成16年4月1日制定。以下「履修細則」という。）の定めるところによる。
- 3 専門教育科目の授業科目、単位数及び履修方法は、履修細則の定めるところによる。

(履修手続)

第6条 学生は、履修しようとする授業科目について、各学期とも所定の期間内に定められた方法により履修手続をしなければならない。ただし、学期の中途から開始される授業科目については、その都度履修手続をしなければならない。

(成績判定及び単位の授与)

第7条 授業科目を履修した場合には、成績判定の上、合格した者に対して所定の単位を与える。

- 2 成績判定は、平素の学修状況、学修報告、論文及び試験等によって行う。
- 3 成績は、秀・優・良・可・不可の評語をもって表わし、秀・優・良・可を合格とし、不可は不合格とする。
- 4 前項の規定にかかわらず、成績の判定に当たり、前項に規定する評語により難いと佐賀大学教育委員会が認めた授業科目においては、合又は不可の評語をもって表すことができるものとし、合を合格とし、不可は不合格とする。

(試験)

第8条 試験は、各授業科目につき、学期ごとに行うことを原則とする。

- 2 追試験及び再試験については、追試験及び再試験に関する農学部内規（平成16年4月1日制定）の定めるところによる。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第9条 教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）における授業科目の履修、大学以外の教育施設等における学修及び入学前の他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）における授業科目の履修により修得した単位について、教授会の議を経て、認定する。

(転入学、編入学及び再入学した者の履修科目等の認定)

第10条 転入学、編入学又は再入学した者の履修科目及び修得単位数は、教授会の議を経て、認定する。

(卒業の要件)

第11条 本学部を卒業するには、所定の期間在学し、第4条に定める教育課程を履修し、かつ、所定の単位を修得しなければならない。

(科目等履修生)

第12条 科目等履修生に関する事項は、佐賀大学科目等履修生規程（平成16年4月1日制定）の定めるところによる。

(特別聴講学生)

第13条 特別聴講学生に関する事項は、佐賀大学学生交流に関する規程（平成16年4月1日制定）の定めるところによる。

よる。

(研究生)

第14条 研究生に関する事項は、佐賀大学研究生規程（平成16年4月1日制定）の定めるところによる。

(外国人留学生)

第15条 外国人留学生に関する事項は、佐賀大学外国人留学生規程（平成16年4月1日制定）の定めるところによる。

(公開講座)

第16条 学部の主催する公開講座については、教授会の議を経て、これを行うものとする。

(雑 則)

第17条 この規則に定めるもののほか、本学部に関し、必要な事項は、教授会において定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成17年1月21日改正）

- 1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 平成17年3月31日において現に在学するもの（以下この項において「在学者」という。）及び平成17年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学及び再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成18年2月16日改正）

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 平成18年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成18年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成19年3月22日改正）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年5月18日改正）

- 1 この規則は、平成19年5月18日から施行し、平成19年4月1日から適用する。
- 2 平成19年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成19年12月21日改正）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成22年3月19日改正）

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学及び再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成25年2月13日改正）

- 1 この規則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成25年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成28年1月20日改正）

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成30年2月14日改正）

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

別表（第5条第1項関係）

学科・コース		教 養 教 育 科 目								小計	専 門 教 育 科 目			小計	合 計		
		大学入門科目 (大学入門科目Ⅰ)	共通基礎科目			基本教養科目			インター フェース 科目		共通教職科目		専 門 基 礎 科 目			農 学 基 礎 科 目	専 門 科 目
			外国語 科目	情 報 ラ ン グ エ ジ ン グ	リ テ ー リ ン グ	自然科学 と技術の 分野	文 化 の 分 野	現代社会 の分野			体 育 実 技 Ⅰ	体 育 実 技 Ⅱ					
応 用 生 物 科 学 科		2	4	2	1	20			8			37	4	6	79	89	126
生 物 環 境 科 学 科	生物環境保全学コース	2	4	2	1	20			8			37	4	6	79	89	126
	資源循環生産学コース	2	4	2	1	20			8			37	4	6	79	89	126
	地域社会開発学コース	2	4	2	1	20			8			37	4	6	79	89	126
生 命 機 能 科 学 科		2	4	2	1	20			8			37	6	6	77	89	126

備考

基本教養科目は、各分野から2単位以上を履修するものとする。

2 佐賀大学農学部履修細則

(趣 旨)

第1条 佐賀大学農学部学生の教養教育科目及び専門教育科目の履修については、佐賀大学学則（平成16年4月1日制定）、佐賀大学教養教育科目履修規程（平成25年2月27日全部改正）、佐賀大学教養教育科目履修細則（平成25年2月27日全部改正）、佐賀大学学部間共通教育科目履修規程（平成25年2月27日制定）及び佐賀大学農学部規則（平成16年4月1日制定）に定めるもののほか、本細則の定めるところによる。

(共通基礎科目)

第2条 共通基礎科目中、外国語科目については、英語を必修とする。ただし、外国人留学生については、英語又は日本語のうち、母語以外の1か国語を選択して履修するものとする。

2 共通基礎科目中、情報リテラシー科目の演習については、情報基礎演習Ⅰを必修とする。

(専門教育科目)

第3条 各学科及びコースの専門教育科目における専門基礎科目、農学基礎科目及び専門科目の授業科目及び単位等は、別表Ⅰ～Ⅶのとおりとする。

2 前項の授業科目の配当年次は、別に定める。

(外国人留学生の履修)

第4条 外国人留学生は、別表Ⅷに定める授業科目を専門科目における選択科目の一部として履修することができる。

(転入学、編入学及び再入学した者の履修科目等の認定)

第5条 佐賀大学農学部規則第10条に規定する転入学、編入学又は再入学した者の履修科目及び修得単位数の認定については、別に定める。

(履修登録)

第6条 学生は、履修しようとする授業科目について、佐賀大学農学部規則第6条に規定する履修手続を、各学期とも所定の期限までに終えなければならない。

2 前項の履修手続を終えなかった場合、当該学期に受講したすべての授業科目の単位は認定されない。

3 各学期に履修科目として登録できる単位数の上限は、別に定める。ただし、転入学、編入学又は再入学した者については、この限りでない。

4 教育職員免許法における教職に関する科目及び集中講義の科目は、各学期に登録できる授業科目の単位数の上限の対象としない。

(教育職員免許状)

第7条 教育職員免許状取得に関する科目は、「農学部学生の教育職員免許状取得に関する内規（平成16年4月1日制定）」に定める。

(大学院先行履修科目)

第8条 3年次生及び4年次生は、別表Ⅸに定める大学院先行履修科目を履修することができる。

2 大学院先行履修科目は、卒業要件の単位の中に算入しない。

(雑 則)

第9条 この細則に定めるもののほか、学生の履修に関し必要な事項は、教授会で定める。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成17年1月12日改正）

- 1 この細則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 平成17年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成17年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成18年2月17日改正）

- 1 この細則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 平成18年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成18年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成19年2月21日改正）

この細則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成21年1月28日改正）

- 1 この細則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 平成21年3月31日において現に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成21年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。ただし、改正後の別表Ⅲから別表Ⅶにおける選択科目中「インターンシップⅠ」、「インターンシップⅡ」、「アカデミック英語コミュニケーション」及び「アカデミック英語プレゼンテーション」については、この限りでない。

附 則（平成22年2月17日改正）

- 1 この細則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成22年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成23年2月16日改正）

- 1 この細則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成23年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成24年1月25日改正）

- 1 この細則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成24年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成24年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成25年1月23日改正）

- 1 この細則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成25年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成26年1月22日改正）

- 1 この細則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成26年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成26年2月12日改正）

- 1 この細則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成26年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成26年5月14日改正）

- 1 この細則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 平成27年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成27年1月21日改正）

- 1 この細則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 平成27年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成27年3月5日改正）

- 1 この細則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 平成27年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。ただし、改正後の別表Ⅲから別表Ⅶにおける選択科目中「果樹生産生理学」「園芸植物繁殖学」については、この限りではない。

附 則（平成28年3月4日改正）

- 1 この細則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成30年2月14日改正）

- 1 この細則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 平成30年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。ただし、大学院先行履修科目の新設に係る改正規定は、この限りでない。

附 則（平成30年4月11日改正）

- 1 この細則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 平成30年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。ただし、大学院先行履修科目の新設に係る改正規定は、この限りでない。

別表Ⅰ（第3条関係）

専 門 基 礎 科 目

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
基礎数学	2	化学	2
物理学	2	生物学	2

備 考

- (1) 応用生物科学科の学生は、「化学」及び「生物学」を必ず履修しなければならない。
- (2) 生物環境科学科の学生は、上記専門基礎科目の中から4単位以上履修しなければならない。
- (3) 生命機能科学科の学生は、「物理学」、「化学」及び「生物学」を必ず履修しなければならない。
- (4) 各学科の学生が、上記(1)から(3)までにより当該学科において必要とされる単位数を超えて修得した単位がある場合は、当該単位数を超えて修得した単位は、専門科目（選択科目）の単位として算入する。
- (5) 「基礎数学」は、佐賀大学全学教育機構が開設する学部間共通教育科目の共通専門基礎科目の「基礎数学」を履修するものとする。

別表Ⅱ（第3条関係）

農 学 基 礎 科 目

授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位
作物生産学	2	生物化学	2
動物資源開発学	2	食料流通経済学	2
土壌学	2		

備 考

6単位を超えて修得した単位は，専門科目（選択科目）の単位として算入する。

別表Ⅲ（第3条関係）

応用生物科学科

1 専 門 科 目

○必 修 科 目

授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位
植物生理学	2	応用化学実験	1
熱帯農業論	2	果樹園芸学	2
遺伝学	2	蔬菜園芸学	2
応用動物昆虫学	2	応用生物学実験	1
生物統計学	2	科学英語	2
植物育種学	2	生物科学英語	2
植物病理学Ⅰ	2	生物情報処理演習	2
フィールド科学基礎実習Ⅲ	1	卒業研究	8
生物学実験	1		

○選 択 科 目

授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位
線虫学	2	果樹園芸学実験Ⅰ	1
システム生態学	2	果樹園芸学実験Ⅱ	1
動物行動生態学	2	熱帯作物改良学実験Ⅰ	1
熱帯作物改良学	2	熱帯作物改良学実験Ⅱ	1
動物繁殖生理学	2	蔬菜花卉園芸学実験Ⅰ	1
植物病原学	2	蔬菜花卉園芸学実験Ⅱ	1
昆虫学	2	植物分子育種学実験Ⅰ	1
花卉園芸学	2	植物分子育種学実験Ⅱ	1
フィールド科学基礎実習Ⅳ	1	動物資源開発学実験Ⅰ	1
農業政策論	2	動物資源開発学実験Ⅱ	1
植物分子遺伝学	2	植物病理学実験Ⅰ	1
動物遺伝育種学	2	植物病理学実験Ⅱ	1
動物生体生理学	2	線虫学実験Ⅰ	1
植物生態生理学	2	線虫学実験Ⅱ	1
植物栄養学	2	昆虫学実験Ⅰ	1
動物生産管理学	2	昆虫学実験Ⅱ	1
インターンシップⅠ	1	生態学実験Ⅰ	1
インターンシップⅡ	2	生態学実験Ⅱ	1
植物代謝解析学実験Ⅰ	1	熱帯有用植物学	2
植物代謝解析学実験Ⅱ	1	飼料資源学	2
農業演習Ⅰ	2	経営資源管理学	2
農業演習Ⅱ	2	食用作物学	2

2 自 由 科 目

授 業 科 目
他学部開講の専門教育科目 全学教育機構が開設する学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目 応用生物科学科の専門科目を除く他学科開講の専門科目

備 考

上記の自由科目については、10単位に限り専門科目(選択科目)の必要履修単位に算入することができる。

3 専門教育科目の卒業要件単位

授 業 科 目	単位
専門基礎科目	4
農学基礎科目	6
専門科目	
必修科目	36
選択科目	43
計	89

別表Ⅳ（第3条関係）

生物環境科学科（生物環境保全学コース）

1 専 門 科 目

○必 修 科 目

授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位
生物環境保全学概説	2	実験水気圏環境学	2
資源循環生産学概説	2	科学英語	2
地域社会開発学概説	2	生物環境保全学演習	2
実験生物環境保全学	2	卒業研究	8

○選 択 科 目

授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位
環境水理学Ⅰ	2	植物栄養学	2
環境水理学Ⅱ	2	土壌微生物学	2
環境水理学演習Ⅰ	2	システム生態学	2
環境水理学演習Ⅱ	2	測地学演習Ⅰ	2
環境基礎解析学	2	測地学演習Ⅱ	2
環境汚染化学	2	地盤環境学	2
応用力学	2	地盤環境学Ⅱ	2
地球環境学	2	農村環境計画学	2
気象水文学	2	水環境学	2
土壌環境科学	2	現代環境学	2
環境化学	2	環境浄化生物学	2
測地学Ⅰ	2	生物統計学	2
測地学Ⅱ	2	干潟環境学	2
生産情報処理学Ⅰ	2	英書講読	2
植物生態生理学	2	インターンシップⅠ	1
		インターンシップⅡ	2

2 自 由 科 目

授 業 科 目
他学部開講の専門教育科目
全学教育機構が開設する学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目
生物環境保全学コースの専門科目を除く他学科開講の専門科目
生物環境保全学コースの専門科目を除く他コース開講の専門科目

備 考

上記の自由科目については、20単位に限り専門科目（選択科目）の必要履修単位に算入することができる。ただし、全学教育機構が開設する学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目については、8単位までとする。

3 専門教育科目の卒業要件単位

授 業 科 目	単位
専門基礎科目	4
農学基礎科目	6
専門科目	
必修科目	22
選択科目	57
計	89

別表Ⅴ（第3条関係）

生物環境科学科（資源循環生産学コース）

1 専 門 科 目

○必 修 科 目

授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位
生物環境保全学概説	2	フィールド科学基礎実習Ⅰ	1
資源循環生産学概説	2	フィールド科学基礎実習Ⅱ	1
地域社会開発学概説	2	生物科学実験実習	2
環境保全型農業論	2	科学英語	2
栽培環境制御学	2	卒業研究	8
農業生産機械学	2		

○選 択 科 目

授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位
農業資源物質工学	2	動物生産管理学	2
植物生理学	2	資源循環生物学実験実習Ⅰ	1
植物育種学	2	資源循環生物学実験実習Ⅱ	1
農産食品流通貯蔵学	2	資源循環フィールド科学実習	1
環境科学演習(分野演習)	1	遺伝資源フィールド科学実習	1
エネルギー利用学	2	作物学演習Ⅰ	1
応用動物昆虫学	2	作物学演習Ⅱ	1
生産エンジニアリング	2	資源循環フィールド科学演習Ⅰ	1
植物生態生理学	2	資源循環フィールド科学演習Ⅱ	1
生産情報管理学	2	園芸工学演習Ⅰ	1
植物病理学Ⅰ	2	園芸工学演習Ⅱ	1
植物栄養学	2	資源循環生物学演習Ⅰ	1
インターンシップⅠ	1	資源循環生物学演習Ⅱ	1
インターンシップⅡ	2	遺伝学	2
フィールド科学総合実習	2	動物繁殖生理学	2
雑草学	2	農業政策論	2
植物遺伝資源学	2	植物分子遺伝学	2
設計・製図学	2	動物遺伝育種学	2
CAD利用学	2	動物生体生理学	2
果樹園芸学	2	動物資源開発学実験Ⅰ	1
蔬菜園芸学	2	動物資源開発学実験Ⅱ	1
経営資源管理学	2	飼料資源学	2
生物統計学	2	分子生物学	2
食用作物学	2	食糧流通貯蔵学	2
作物学実験実習Ⅰ	1	土壌微生物学	2
作物学実験実習Ⅱ	1	環境浄化生物学	2
園芸工学実験実習Ⅰ	1	食品衛生学	2
園芸工学実験実習Ⅱ	1	農産物利用学	2
生産情報処理学Ⅰ	2	遺伝子工学	2
生産情報処理学Ⅱ	2	応用微生物学	2
植物病原学	2	食品化学	2
熱帯作物改良学	2	生化学	2
応用力学	2	生物資源化学	2

環境基礎解析学	2	生物物理化学	2
地球環境学	2	生物有機化学	2
環境汚染化学	2	微生物学	2
環境水理学Ⅰ	2	物理化学	2
環境化学	2	分子細胞生物学	2
果樹生産生理学	2	分析化学	2
園芸植物繁殖学	2	有機化学	2
		栄養化学	2
		植物遺伝資源学実験実習Ⅰ	1
		植物遺伝資源学実験実習Ⅱ	1
		植物遺伝資源学演習Ⅰ	1
		植物遺伝資源学演習Ⅱ	1

2 自由科目

授 業 科 目
他学部開講の専門教育科目
全学教育機構が開設する学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目
資源循環生産学コースの専門科目を除く他学科開講の専門科目
資源循環生産学コースの専門科目を除く他コース開講の専門科目

備考

上記の自由科目については、20単位に限り専門科目（選択科目）の必要履修単位に算入することができる。ただし、全学教育機構が開設する学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目については、8単位までとする。

3 専門教育科目の卒業要件単位

授 業 科 目	単位
専門基礎科目	4
農学基礎科目	6
専門科目	
必修科目	26
選択科目	53
計	89

別表Ⅵ（第3条関係）

生物環境科学科（地域社会開発学コース）

1 専門科目

○必修科目

授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位
生物環境保全学概説	2	地域ビジネス開発論	2
資源循環生産学概説	2	フィールドワーク基礎演習	1
地域社会開発学概説	2	フィールド科学基礎実習Ⅰ	1
地域資源論	2	科学英語	2
人類生態学	2	卒業研究	8

○選 択 科 目

授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位
農業政策論	2	農村環境計画学	2
システム生態学	2	地域ビジネス開発学演習Ⅰ	1
農業資源物質工学	2	地域ビジネス開発学演習Ⅱ	1
環境基礎解析学	2	植物病理学Ⅰ	2
栽培環境制御学	2	エネルギー利用学	2
環境保全型農業論	2	農村開発学	2
国際環境農業論	2	地域社会学	2
土壌環境科学	2	国際健康開発論	2
生態人類学	2	農業会計学	2
食料市場論	2	半島・島嶼産業論	2
地域資源学演習Ⅰ	1	食用作物学	2
地域資源学演習Ⅱ	1	生物統計学	2
人類生態学演習Ⅰ	1	熱帯有用植物学	2
人類生態学演習Ⅱ	1	熱帯農業論	2
島嶼社会経済学演習Ⅰ	1	観光人類学	2
島嶼社会経済学演習Ⅱ	1	人間開発学	2
アジアフィールドワーク	1	環境地理学	2
生産情報処理学Ⅰ	2	環境社会学	2
社会統計学	2	経営資源管理学	2
生産情報処理学Ⅱ	2	アジア比較農業論	2
インターンシップⅠ	1	農業技術経営学入門	2
インターンシップⅡ	2	アジア栄養生態学	2
土壌微生物学	2		

2 自 由 科 目

授 業 科 目
他学部開講の専門教育科目
全学教育機構が開設する学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目
地域社会開発学コースの専門科目を除く他学科開講の専門科目
地域社会開発学コースの専門科目を除く他コース開講の専門科目

備 考

上記の自由科目については、20単位に限り専門科目（選択科目）の必要履修単位に算入することができる。ただし、全学教育機構が開設する学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目については、8単位までとする。

3 専門教育科目の卒業要件単位

授 業 科 目	単位
専門基礎科目	4
農学基礎科目	6
専門科目	
必修科目	24
選択科目	55
計	89

別表Ⅶ（第3条関係）

生命機能科学科

1 専 門 科 目

○必 修 科 目

授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位
物理化学	2	食品衛生学	2
有機化学	2	栄養化学	2
分析化学	2	食品化学	2
化学実験Ⅰ	1	生化学実験	2
生物有機化学	2	分子生物学	2
生化学	2	化学実験Ⅱ	3
生物物理化学	2	微生物学実験	2
微生物学	2	科学英語	2
生命化学概説	2	生物学基礎実験	1
食糧科学概説	2	卒業研究	8

○選 択 科 目

授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位
食糧安全学	2	遺伝子工学	2
食品工学	2	基礎放射線科学	2
食品機能化学	2	専門外書講読	2
分子細胞生物学	2	演習	2
応用微生物学	2	遺伝学	2
海洋生物資源化学	2	植物生理学	2
食糧科学特講	2	生物統計学	2
生命化学特講	2	環境化学	2
化学基礎実験	1	昆虫学	2
インターンシップⅠ	1	植物病原学	2
インターンシップⅡ	2	地球環境学	2
農産物利用学	2	人間開発学	2
食糧流通貯蔵学	2	植物栄養学	2
生物資源化学	2		

2 自 由 科 目

授 業 科 目
他学部開講の専門教育科目
全学教育機構が開設する学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目
生命機能科学科の専門科目を除く他学科開講の専門科目

備 考

上記の自由科目については、10単位に限り専門科目（選択科目）の必要履修単位に算入することができる。

3 専門教育科目の卒業要件単位

授 業 科 目	単位
専門基礎科目	6
農学基礎科目	6
専門科目	
必修科目	45
選択科目	32
計	89

別表Ⅷ（第4条関係）

外国人留学生特別科目

授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位
農学概論	2	農学演習	2

別表Ⅸ（第8条関係）

大学院先行履修科目

授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位
熱帯農業資源学特論	1	施設農業生産学特論	1
熱帯資源植物利用学特論	1	生産情報処理学特論	1
熱帯作物改良学特論	1	先端情報技術学特論	1
熱帯作物生理学特論	1	農地環境工学特論	1
動物資源開発学特論	1	先端環境分析化学特論	1
動物ゲノム情報学特論	1	水資源計画学特論	1
動物発生学特論	1	分光統計解析学特論	1
動物繁殖生理学特論	1	土壌物理学特論	1
植物機能学特論	1	水環境工学特論	1
植物代謝先端科学特論	1	農地農水計画学特論	1
蔬菜花卉園芸学特論	1	生産地盤工学特論	1
園芸植物資源開発学特論	1	浅海環境工学特論	1
花卉園芸学特論	1	先端地水学特論	1
植物系統分類学特論	1	利水解析学特論	1
果樹育種学特論	1	農用先端機械学特論	1
果樹遺伝学特論	1	応用水利学特論	1
植物ゲノム育種学特論	1	土質工学特論	1
植物分子遺伝学特論	1	干潟生態環境学特論	1
植物ゲノム工学特論	1	生化学特論	1
植物ゲノム情報科学特論	1	タンパク質科学特論	1
植物病原学特論	1	微生物遺伝学特論	1
植物感染病学特論	1	真核微生物学特論	1
植物ウイルス病学特論	1	応用微生物学特論	1
植物ウイルス学特論	1	微生物学特論	1
線虫学特論	1	生物有機化学特論	1
先端線虫科学特論	1	分子生物学特論	1

昆虫分子生物学特論	1	バイオセンシング特論	1
先端昆虫分子生物学特論	1	バイオ材料特論	1
システム生態学特論	1	分子細胞生物学特論	1
進化生態学特論	1	細胞情報学特論	1
動物行動生態学特論	1	食品生化学特論	1
動物行動学特論	1	食糧流通貯蔵学特論	1
植物環境応答学特論	1	食品科学工学特論	1
応用植物生理学特論	1	バイオマス利用特論	1
家畜行動学特論	1	海洋資源化学特論	1
家畜管理学特論	1	グリコバイオロジー特論	1
作物生産学特論	1	食品機能学特論	1
作物生態学特論	1	食糧安全学特論	1
生産生態学特論	1	分子栄養学特論	1
循環型農業生産学特論	1	脂質生化学特論	1
果樹園芸学特論	1	農村社会学特論	1
果樹生産学特論	1	農村地理学特論	1
動物遺伝育種学特論	2	生態人類学特論	1
環境地盤学特論	1		
環境分析化学特論	1		
環境情報工学特論	1		

3 農学部学生の分属及び卒業研究に関する内規

(平成16年4月1日制定)

1. 学生は、教育研究分野に分属する。
2. 単位修得状況が良くない場合は、教育研究分野分属を保留されることがある。
3. 卒業年次の学生は、学年始めに専攻教育研究分野の教員と協議し、研究題目を定め、卒業研究を行う。ただし、単位修得状況が良くない場合は、卒業研究を保留されることがある。
4. 卒業論文及び論文要旨は、卒業年次の2月末日までに指導教員に提出しなければならない。
5. 卒業論文の審査は、指導教員がこれにあたる。
6. 学生は、卒業論文発表会において論文の概要を発表しなければならない。
7. 外国の大学に派遣留学した学生については、学科の議に基づき単位を認定する。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 (平成18年1月23日改正)

この内規は、平成18年1月23日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

4 農学部定期試験受験上の注意

平成20年12月3日

農学部教授会

1. 試験室を確認すること。
(受験者が試験室の収容人数を超えると予測される場合は、2室以上に分けて試験が実施される。)
2. 2人掛機には1人、3・4人掛機には両端に1人ずつ着席すること。
3. 座席が指定されている場合は、試験監督者の指示に従うこと。
4. 筆記用具及び試験監督者が許可したもの以外は、足元の床に置くこと。
5. 学生証は、机上右肩に置くこと。
6. 不正行為をしないこと。

5 農学部追試験及び再試験に関する内規

(平成16年4月1日制定)

(追試験)

- 第1条 やむを得ない事由(病気、事故、天災、肉親の死亡(二親等以内)、就職試験等)により、定期試験を欠席し、受験できなかった授業科目について、担当教員の承認を得た後、所定の願書を提出した者については、教授会の議を経て追試験を行うことがある。
- 2 追試験を受けようとする者は、所定の願書に欠席の事由を証明する書類を添えて、欠席の事由発生の日から、原則として、7日以内に農学部教務担当者に提出しなければならない。ただし、就職試験により定期試験を欠席し、

受験できない授業科目がある場合は、所定の願書に証明する書類を添えて当該授業科目の試験日の前日までに農学部教務担当者に提出しなければならない。

- 3 前項ただし書により追試験を願い出ることができる者は、卒業年次学生に限るものとする。

(再試験)

第2条 不合格と判定された授業科目については、再試験を行うことがある。

- 2 再試験を受けようとする者は、担当教員の承認を得た後、所定の願書を所定の期日までに農学部教務担当者に提出しなければならない。

- 3 合格の評価は、「可(C)」とする。

(教養教育科目)

第3条 教養教育運営機構において開設される教養教育科目に係る授業科目の追試験及び再試験については、教養教育運営機構の定めるところによる。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年2月21日改正)

この内規は、平成19年2月21日から施行し、平成19年2月2日から適用する。

附 則 (平成23年5月11日改正)

この内規は、平成23年5月11日から施行する。

6 農学部編入学生の既修得単位等の認定に関する内規

(平成16年4月1日制定)

(趣 旨)

第1条 佐賀大学農学部履修細則（平成16年4月1日制定）第5条に規定する編入学した者の履修科目及び修得単位数（以下「既修得単位」という。）の認定については、この内規の定めるところによる。

(認定の基準)

第2条 既修得単位の認定については、次に掲げる区分に従い行う。

I 教養教育科目

大学入門科目、共通基礎教育科目、基本教養科目、インターフェース科目及び共通教職科目からなる教養教育科目については、次の表の一括認定する単位の項に示す単位を短大等での既修得単位で一括認定し、卒業までに修得が必要な単位数の項に掲げる単位数を履修しなければならない。

	教 養 教 育 科 目										
	大 学 入 門 科 目	共 通 基 礎 科 目			基 本 教 養 科 目			イ ン タ ー フ ェ ー ス 科 目	共通教職科目		
		外 国 語 科 目	情 報 リ テ ラ シー 科 目		分 野	自 然 科 学 と 技 術 の 分 野	文 化 の 分 野		現 代 社 会 の 分 野	体 育 実 技 Ⅰ	体 育 実 技 Ⅱ
			英 語	講 義							
卒 業 に 必 要 な 単 位 数	2	4	2	1	20			8	0	0	
一 括 認 定 す る 単 位 数	2	4	2	1	20			8	0	0	
卒 業 ま で に 修 得 が 必 要 な 単 位 数	0	0	0	0	0			0	0	0	

II 専門教育科目

1 専門基礎科目

専門基礎科目については、それぞれの学科で修得すべき単位（応用生物科学科：4単位、生物環境科学科：4単位、生命機能科学科：6単位）を短大等での既修得単位で一括認定する。

2 農学基礎科目

農学基礎科目については、それぞれの学科で修得すべき単位（応用生物科学科：6単位、生物環境科学科：6単位、生命機能科学科：6単位）を短大等での既修得単位で一括認定する。ただし、生命機能科学科において生物化学は認定対象科目としない。

3 専門科目

(1) 応用生物科学科では、専門科目のうち植物生理学（2単位）、遺伝学（2単位）、植物病理学Ⅰ（2単位）、フィールド科学基礎実習Ⅲ（1単位）、生物学実験（1単位）、応用化学実験（1単位）、果樹園芸学（2単位）、応用生物学実験（1単位）、を修得したものとし、短大等での既修得単位で一括認定する。

このほかの専門科目については、学科の申合せに従い、短大等での既修得単位のうち10単位を上限に修得単位として認定することができる。

(2) 生物環境科学科では、専門科目のうち生物環境保全学概説（2単位）、資源循環生産学概説（2単位）、地域社会開発学概説（2単位）を修得したものとし、短大等での既修得単位で一括認定する。さらに、所属するコースにおいて次の専門科目について修得したものとし、短大等での既修得単位で一括認定する。

イ 生物環境保全学コース：実験生物環境保全学（2単位）、実験水気圏環境学（2単位）

ロ 資源循環生産学コース：環境保全型農業論（2単位）、栽培環境制御学（2単位）、農業生産機械学（2単位）、生物科学実験実習（2単位）、フィールド科学基礎実習Ⅰ（1単位）、フィールド科学基礎実習Ⅱ（1単位）

ハ 地域社会開発学コース：地域資源論（2単位）、人類生態学（2単位）、地域ビジネス開発論（2単位）、フィールドワーク基礎演習（1単位）、フィールド科学基礎実習Ⅰ（1単位）

このほかの専門科目については、各コースの申合せに従い、短大等での既修得単位のうち生物環境保全学コース14単位、資源循環生産学コース8単位、地域社会開発学コース10単位を上限に修得単位として認定することができる。

(3) 生命機能科学科では、生命化学概説（2単位）、食糧科学概説（2単位）を修得したものとし、短大等での既修得単位で一括認定する。このほかの専門科目については、学科の申合せに従い、短大等での既修得単位のうち16単位を上限に修得単位として認定することができる。

（雑 則）

第3条 この内規に定めるもののほか、認定に必要な事項は、農学部教授会において定める。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成17年7月6日改正）

この内規は、平成17年7月6日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則（平成20年2月6日改正）

この内規は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成23年12月7日改正）

1 この内規は、平成24年4月1日から施行する。

2 平成24年3月31日において現に在学する編入学者については、なお従前の例による。

附 則（平成27年3月20日改正）

1 この内規は、平成27年4月1日から施行する。

2 平成27年3月31日において現に在学する編入学者については、なお従前の例による。

附 則（平成30年2月14日改正）

1 この内規は、平成30年4月1日から施行する。

2 平成30年3月31日において現に在学する編入学者については、なお従前の例による。

佐賀大学農学部における履修科目として登録できる単位数の上限等に関する内規

(平成25年1月23日制定)

(趣 旨)

第1条 佐賀大学農学部学生の履修科目として登録できる単位数の上限等については、佐賀大学学則（平成16年4月1日制定）及び佐賀大学農学部履修細則（平成16年4月1日制定）に定めるもののほか、この内規の定めるところによる。

(登録単位数の対象授業科目)

第2条 履修科目として登録できる単位数（以下「登録単位数」という。）の対象となる授業科目は、佐賀大学及び他大学等で履修する卒業要件として修得すべき授業科目とする。ただし、休日及び佐賀大学が定める休業日において開講する授業科目は、登録単位数の対象としない。

(登録単位数の上限)

第3条 登録単位数の上限は、学科・年次・学期ごとに、次の表に掲げるとおりとする。ただし、最終年次については登録単位数設定の対象としない。

学 科	卒業要件 単 位 数	1 年 次		2 年 次		3 年 次	
		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
応 用 生 物 科 学 科	1 2 6	2 2	2 3	2 2	2 2	2 2	2 2
生 物 環 境 科 学 科	1 2 6	2 2	2 3	2 2	2 2	2 2	2 2
生 命 機 能 科 学 科	1 2 6	2 2	2 3	2 2	2 2	2 2	2 2

2 編入学生については、当分の間、登録単位数設定の対象としない。

(登録単位数の特例)

第4条 前条の規定にかかわらず、学期末に当該学期の成績優良者として認定を受けた学生については、申請することにより、翌学期において登録単位数の上限を超えて履修科目を登録することができる。

(成績優良者の認定)

第5条 前条の成績優良者は、各学期において20単位以上を修得し、かつ、当該学期のGPA計算期日のGPA値が2.5以上の者とする。

2 成績優良者として認定した学生には、その旨を各学期の終了時に通知する。

(登録単位数の上限を超えて登録できる単位数)

第6条 第4条の成績優良者が登録単位数の上限を超えて履修科目を登録できる単位数は、3単位以下とする。

(雑 則)

第7条 この内規に定めるもののほか、登録単位数の上限等に関し必要な事項は、学部長が定める。

附 則

この内規は、平成25年4月1日から施行し、平成25年度の入学生から適用する。

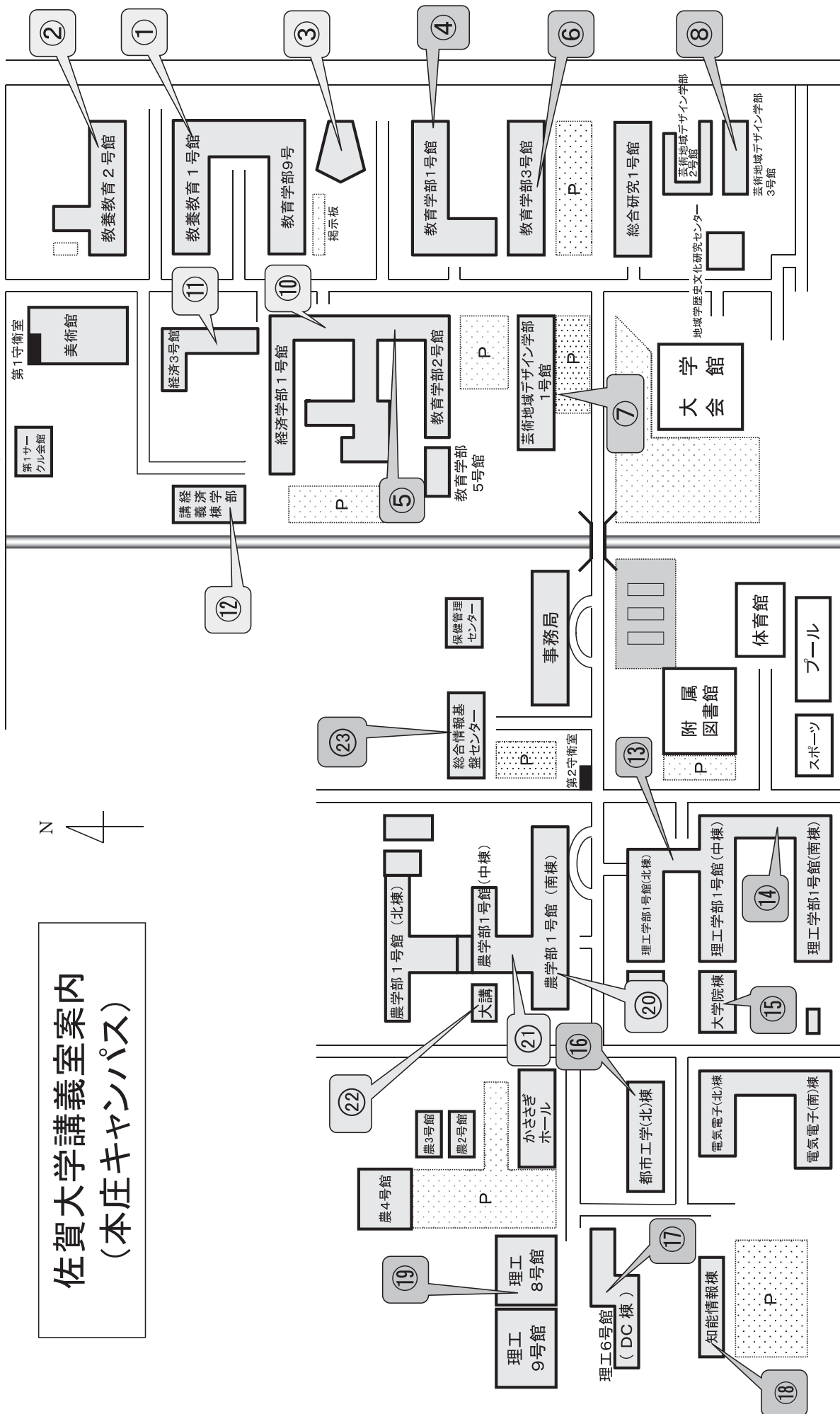
VIII 講義室などの配置図

佐賀大学講義室案内 (本庄キャンパス)



正 門

県道西与賀本庄線



本庄キャンパス講義室案内

時間割教室表記	位置番号	学部等	教室番号	
教養 化・生実	①	1 階	化学・生物実験室	
			111番	
			121番	
		2 階	122番	
			123番	
			124番	
			125番	
			126番	
			127番	
			128番	
			129番	
			131番	
			132番	
			3 階	133番
				134番
	135番			
	②	1 階	物理・地学実験室	
			141番	
			142番	
		2 階	143番	
			144番	
			145番	
			211番	
			212番	
			213番	
			214番	
			215番	
			216番	
			221番	
			222番	
			LM2教室	
	③	3 階	231番	
			232番	
			LM1教室	
		4 階	241番	
大講義室				

時間割教室表記	位置番号	学部等	教室番号
教育 2	④	1号館	2 番教室
教育 3			3 番教室
教育 4			4 番教室
教育 5			5 番教室
教育 6			6 番教室
教育 社会科			社会科教室
教育 書道	⑤	2号館	書道教室
教育 理・家			理科家庭科講義室
教育 第1演			理科第1演習室
教育 理講			理科講義室
教育 12	⑦	4号館	12番教室
教育 美術			美術科教室
教育 家実			家庭科実習室
教育 技講	⑧	5号館	技術科講義室
教育 音講			音楽講義室
教育 合奏	⑨	音楽棟	合奏室
経済 情演1			第1情報演習室
経済 演121	⑩	1号館	経済121演習室
経済 演122			経済122演習室
経済 演123			経済123演習室
経済 演124			経済124演習室
経済 演125			経済125演習室
経済 演131			経済131演習室
経済 演132			経済132演習室
経済 演133			経済133演習室
経済 演134	⑪	3階	経済134演習室
経済 演135			経済135演習室
経済 演136			経済136演習室
経済 語学演			語学演習室
経済 4	⑫	2号館講義棟	第4講義室
経済 5			第5講義室

時間割教室表記	位置番号	学部等	教室番号
理工 210	⑬	1号館	210講義室
理工 212			212講義室
理工 318			318講義室
理工 219	⑭	2階	219講義室
理工 220			220講義室
理院 101	⑮	1階	101講義室
理院 102			102講義室
理院 201			201講義室
理院 202			202講義室
理院 203			203講義室
理院 204			204講義室
理院 301			301講義室
理院 302			302講義室
理院 303			303講義室
理院 401			401講義室
理院 402	⑯	4階	402講義室
理院 403			403講義室
都市 I	⑰	2階	1 番教室(205)
都市 II			2 番教室(206)
都市 大講	⑱	1階	都市 大講義室
D C 109			Multimedia実験室
D C 110			Multimedia講義室
D C 205			205講義室
D C 310			310講義室
D C 501			演習室(大)
D C 601	⑲	6階	大学院小講義室
A V			A V講義室(102)
COM			コンピュータ演習室(101)
国際環境	⑳	5階	507国際環境科学セミナー室
農 101			大学院多目的講義室(101)
農 102			大学院演習室(102)
農 104			学生演習室(104)
マルチメディア情報室			マルチメディア情報室
農 1	㉑	1階	第1 講義室
農 2			第2 講義室
農 3			第3 講義室
農 4			第4 講義室
農 5	㉒	2階	第5 講義室
農 大講			農学部大講義室
総情 小	㉓	総合情報基盤センター	小演習室
総情 中			中演習室
総情 大			大演習室

平成30年度（2018）

履 修 の 手 引

編集・発行 佐 賀 大 学 農 学 部

印 刷 所 株 式 会 社 古 川 総 合 印 刷
